

Ⅱ 調査結果

【回答者属性】

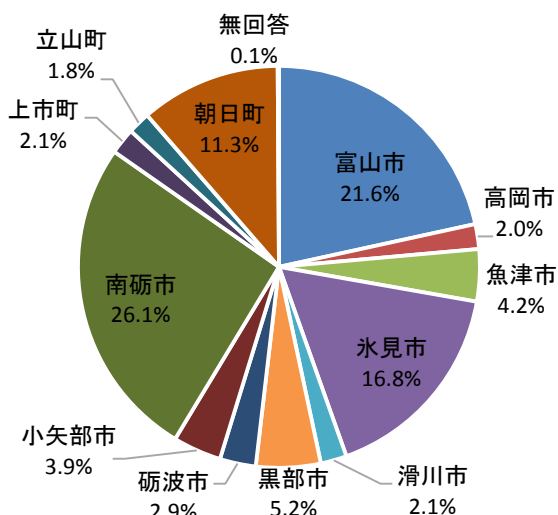
1 回答状況

表 1-1 回答状況

市町名	集落数	回答数	回収率
富山市	282	216	76.6%
高岡市	21	20	95.2%
魚津市	61	42	68.9%
氷見市	228	168	73.7%
滑川市	21	21	100.0%
黒部市	68	52	76.5%
砺波市	41	29	70.7%
小矢部市	50	39	78.0%
南砺市	353	261	73.9%
上市町	29	21	72.4%
立山町	28	18	64.3%
朝日町	117	113	96.6%
無回答		1	
計	1,299	1,001	77.1%

※無回答は自治体名等の記載がなかったもの

図 1-1 回答全体に対する市町割合 N=1,001



2 地域区分及び世帯数構成

表 2-1 地域区分別世帯数構成表

地域区分	集落数	世帯数			
		極小規模 (10未満)	小規模 (10~49)	中規模 (50~99)	大規模 (100以上)
山間地	170	36	119	14	1
中間地	320	44	194	60	22
平地	326	14	158	98	56
中心集落	183	0	67	64	52
計	999	94	538	236	131

※地域区分、世帯数の無回答は除く

【地域区分】

- 山間地**：林野率が80%以上、耕地率が10%未満の地域
- 中間地**：平地と山間地との中間的な地域であり、林野率は主に50%~80%で、耕地は傾斜地が多い地域
- 平地**：耕地率20%以上、林野率が50%未満、または50%以上であるが平坦な耕地が中心の地域
- 中心集落**：人口密度が500人/km²以上、DID(人口集中地区)面積が、可住地5%以上を占める等、都市的な集積が進んでいる地域(農業地域類型の都市的地域のこと)

図 2-1 地域区分別構成比 N=1,001

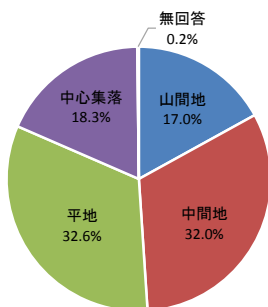
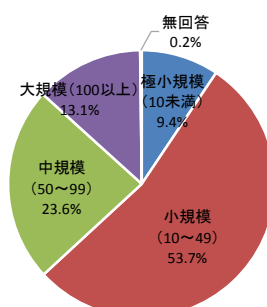


図 2-2 世帯数別構成比 N=1,001



3 回答者の属性

図 3-1 自治会長等の経験年数 N=1,001

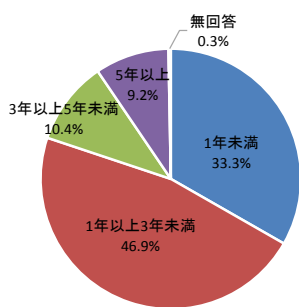


表 3-1 自治会長等の経験年数

経験年数	回答数	割合
1年未満	333	33.3%
1年以上3年未満	469	46.9%
3年以上5年未満	104	10.4%
5年以上	92	9.2%
無回答	3	0.3%
計	1,001	100.0%

図 3-2 性別 N=1,001

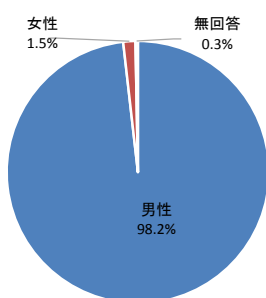


表 3-2 性別

	回答数	割合
男性	983	98.2%
女性	15	1.5%
無回答	3	0.3%
計	1,001	100.0%

図 3-3 年代 N=1,001

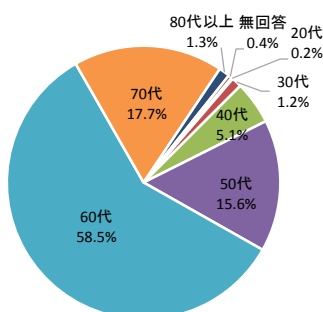


表 3-3 年代

	回答数	割合
20代	2	0.2%
30代	12	1.2%
40代	51	5.1%
50代	156	15.6%
60代	586	58.5%
70代	177	17.7%
80代以上	13	1.3%
無回答	4	0.4%
計	1,001	100.0%

図 3-4 職業 N=1,001

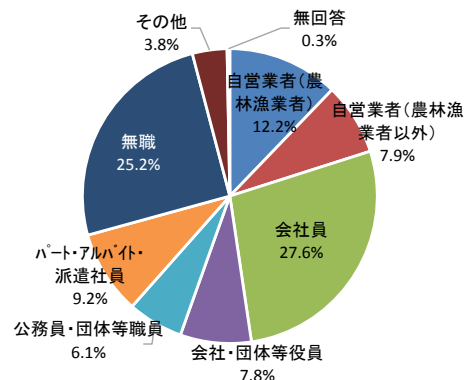


表 3-4 職業

職種	回答数	割合
自営業者(農林漁業者)	122	12.2%
自営業者(農林漁業者以外)	79	7.9%
会社員	276	27.6%
会社・団体等役員	78	7.8%
公務員・団体等職員	61	6.1%
パート・アルバイト・派遣社員	92	9.2%
無職	252	25.2%
その他	38	3.8%
無回答	3	0.3%
計	1,001	100.0%

【集落の生活環境について】

問 1 集落内にある施設について

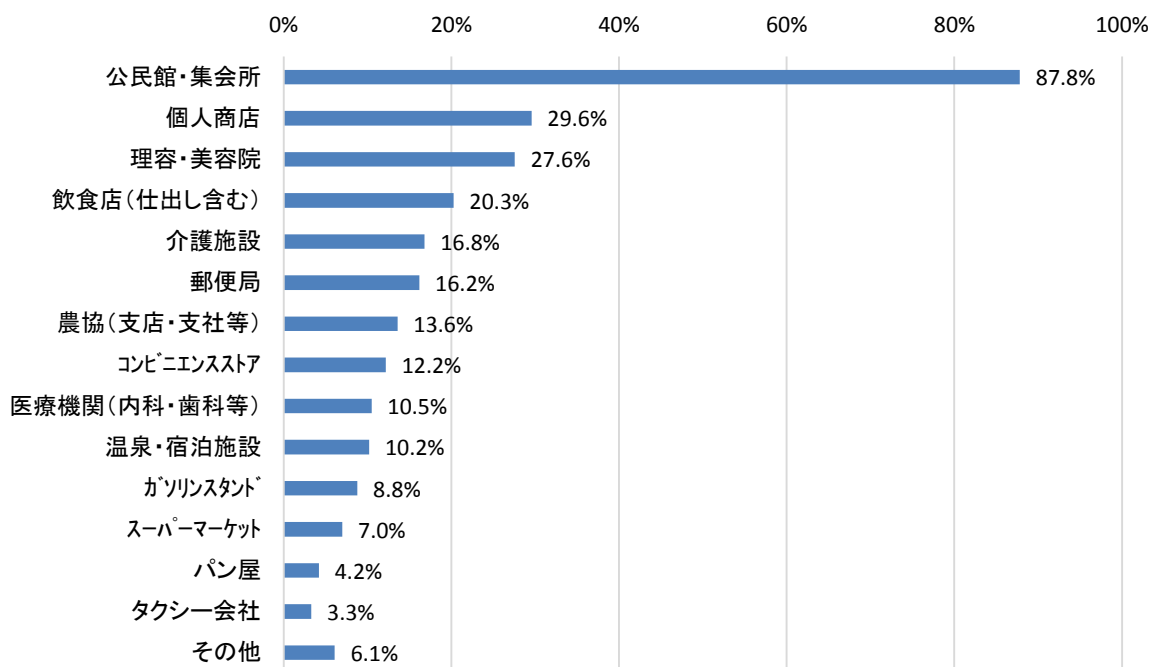
全集落内に存在する施設は、「公民館・集会所」が 87.8%と最も高く、次いで「個人商店」が 29.6%、「理容・美容院」が 27.6%となった。(図 1-1)

地域区分別に見ると、全地域区分において、「公民館・集会所」が最も高く、それ以外のほとんどの施設は中心集落に存在する割合が高い。(図表 1-2)

世帯規模別に見ると、全規模において、「公民館・集会所」が最も高い。(図表 1-3)

図 1-1 集落内施設(全集落)【MA】

N=1,001

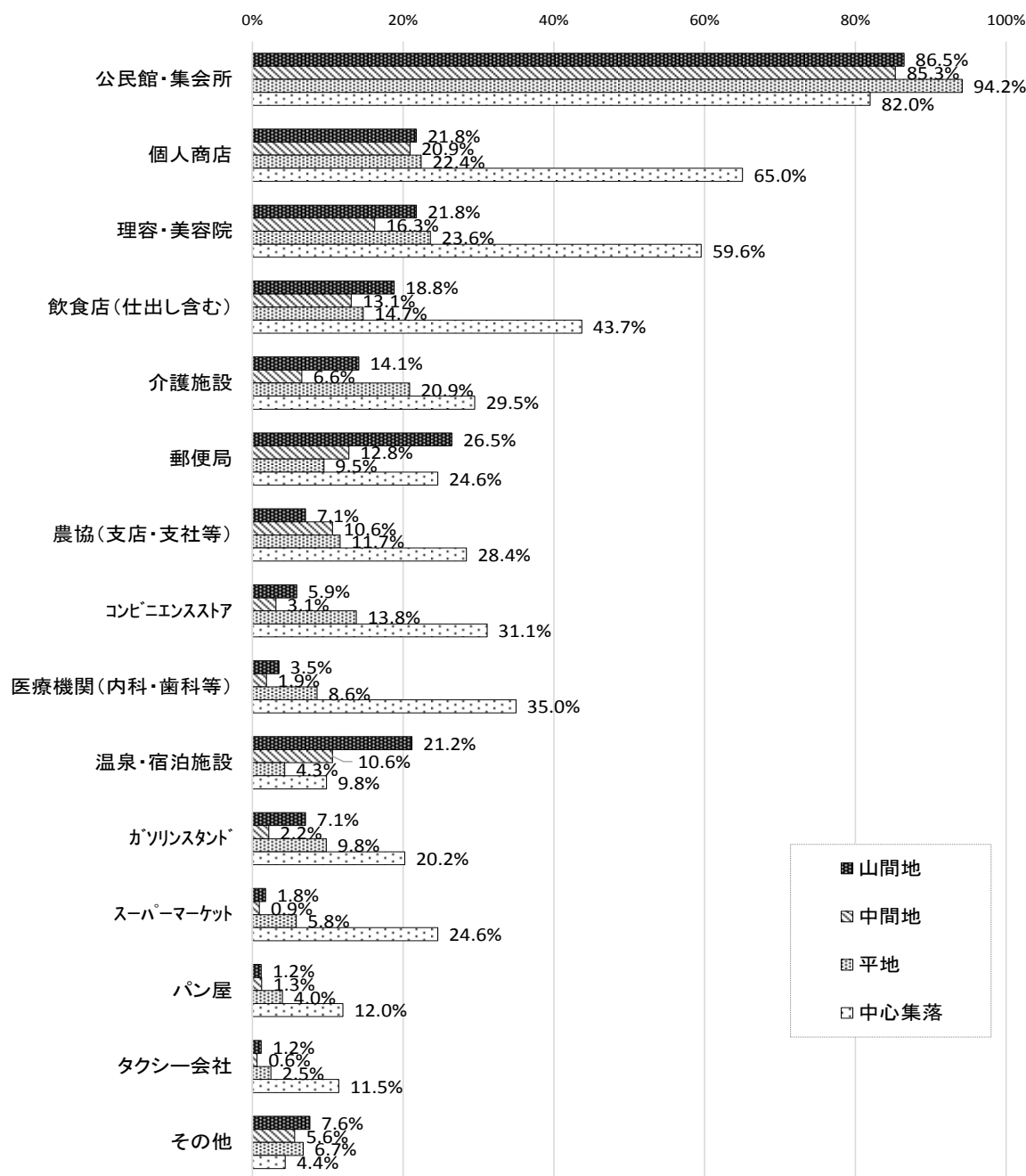


※地域区分不明分も含む

【その他の項目】

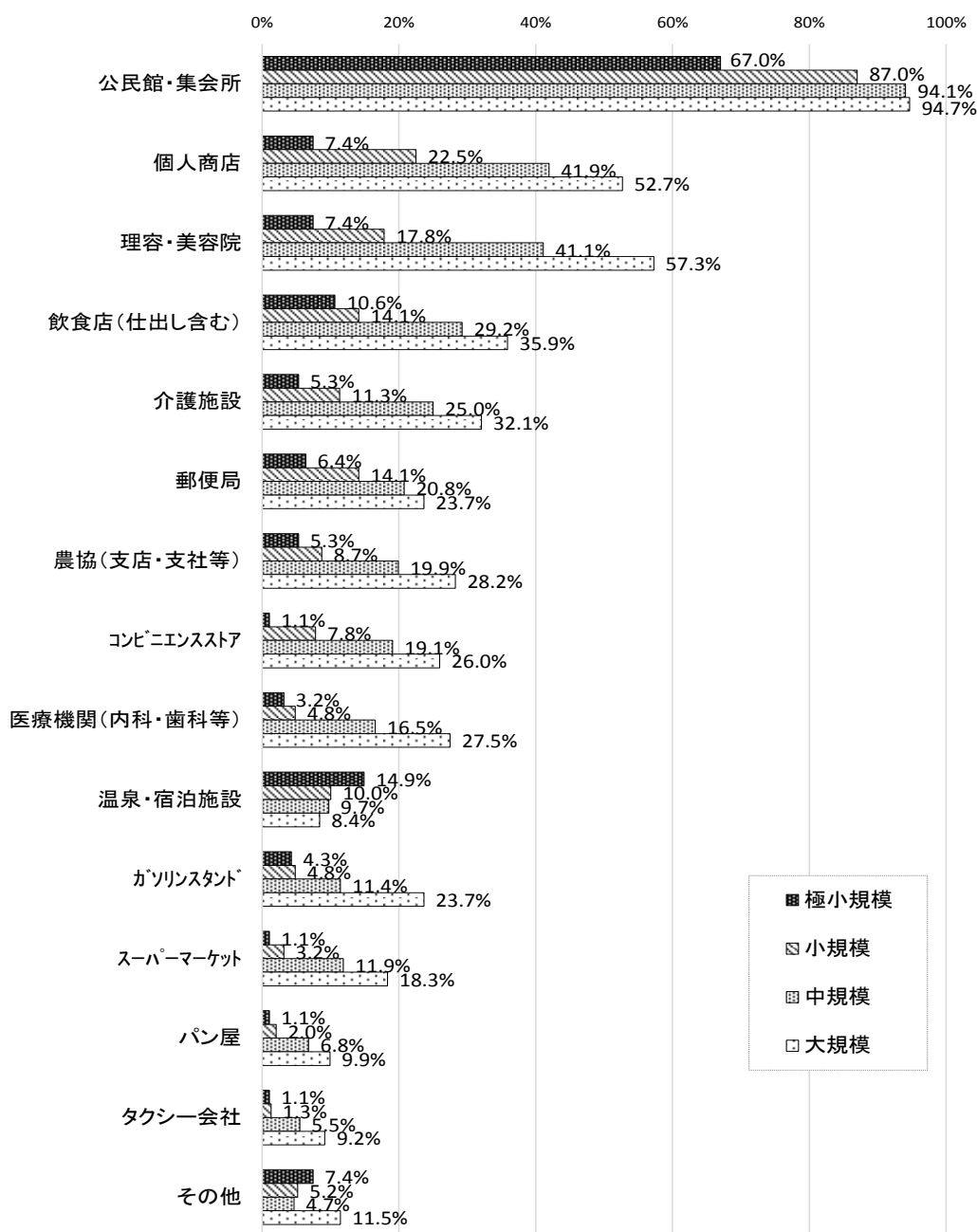
- ・お宮(2件)
- ・ゴルフ関連施設(2件)
- ・市営住宅・企業宿舎(2件)
- ・山菜加工施設
- ・直販施設
- ・土木・建設会社
- ・営農組合
- ・駐在所
- ・閉校旧舎及び敷地
- ・市立博物館
- ・電気店
- ・ドラッグストア
- ・漁協

図表 1-2 集落内施設(地域区分別)【MA】



	全集落		内 訳							
	回答数	割合	山間地		中間地		平地		中心集落	
			回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合
公民館・集会所	879	87.8%	147	86.5%	273	85.3%	307	94.2%	150	82.0%
個人商店	296	29.6%	37	21.8%	67	20.9%	73	22.4%	119	65.0%
理容・美容院	276	27.6%	37	21.8%	52	16.3%	77	23.6%	109	59.6%
飲食店(仕出し含む)	203	20.3%	32	18.8%	42	13.1%	48	14.7%	80	43.7%
介護施設	168	16.8%	24	14.1%	21	6.6%	68	20.9%	54	29.5%
郵便局	162	16.2%	45	26.5%	41	12.8%	31	9.5%	45	24.6%
農協(支店・支社等)	136	13.6%	12	7.1%	34	10.6%	38	11.7%	52	28.4%
コンビニエンスストア	122	12.2%	10	5.9%	10	3.1%	45	13.8%	57	31.1%
医療機関(内科・歯科等)	105	10.5%	6	3.5%	6	1.9%	28	8.6%	64	35.0%
温泉・宿泊施設	102	10.2%	36	21.2%	34	10.6%	14	4.3%	18	9.8%
ガソリンスタンド	88	8.8%	12	7.1%	7	2.2%	32	9.8%	37	20.2%
スーパーマーケット	70	7.0%	3	1.8%	3	0.9%	19	5.8%	45	24.6%
パン屋	42	4.2%	2	1.2%	4	1.3%	13	4.0%	22	12.0%
タクシー会社	33	3.3%	2	1.2%	2	0.6%	8	2.5%	21	11.5%
その他	61	6.1%	13	7.6%	18	5.6%	22	6.7%	8	4.4%
実回答数	1,001		170		320		326		183	

図表 1-3 集落内施設(世帯規模別)【MA】



	極小規模		小規模		中規模		大規模	
	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合
公民館・集会所	63	67.0%	468	87.0%	222	94.1%	124	94.7%
個人商店	7	7.4%	121	22.5%	99	41.9%	69	52.7%
理容・美容院	7	7.4%	96	17.8%	97	41.1%	75	57.3%
飲食店(仕出し含む)	10	10.6%	76	14.1%	69	29.2%	47	35.9%
介護施設	5	5.3%	61	11.3%	59	25.0%	42	32.1%
郵便局	6	6.4%	76	14.1%	49	20.8%	31	23.7%
農協(支店・支社等)	5	5.3%	47	8.7%	47	19.9%	37	28.2%
コンビニエンスストア	1	1.1%	42	7.8%	45	19.1%	34	26.0%
医療機関(内科・歯科等)	3	3.2%	26	4.8%	39	16.5%	36	27.5%
温泉・宿泊施設	14	14.9%	54	10.0%	23	9.7%	11	8.4%
ガソリンスタンド	4	4.3%	26	4.8%	27	11.4%	31	23.7%
スーパーマーケット	1	1.1%	17	3.2%	28	11.9%	24	18.3%
パン屋	1	1.1%	11	2.0%	16	6.8%	13	9.9%
タクシー会社	1	1.1%	7	1.3%	13	5.5%	12	9.2%
その他	7	7.4%	28	5.2%	11	4.7%	15	11.5%
実回答数	94		538		236		131	

問2 日常生活品の購入方法について

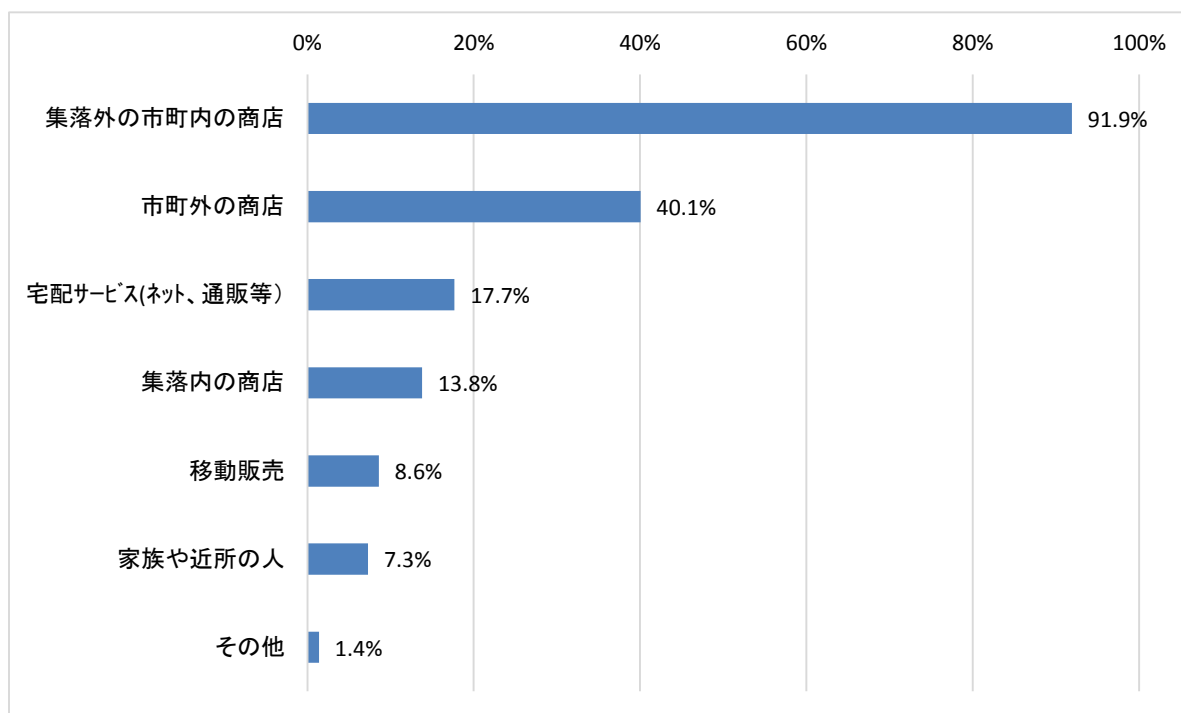
全集落において、「集落外の市町内の商店」における購入が 91.9%と最も高く、次いで「市町外の商店」が 40.1%、「宅配サービス(ネット、通販等)」が 17.7%となった。(図 2-1)

地域区分別に見ると、全地域区分において、「集落外の市町内の商店」が最も高く、次いで「市町外の商店」であるが、中心集落においては「集落内の商店」の利用が 32.2%と他地域区分に比べて利用割合が高い。(図表 2-2)

世帯規模別に見ても、全域において、「集落外の市町内の商店」が最も高い。(図表 2-3)

図 2-1 日常生活品の購入方法(全集落)【MA】

N=1,001

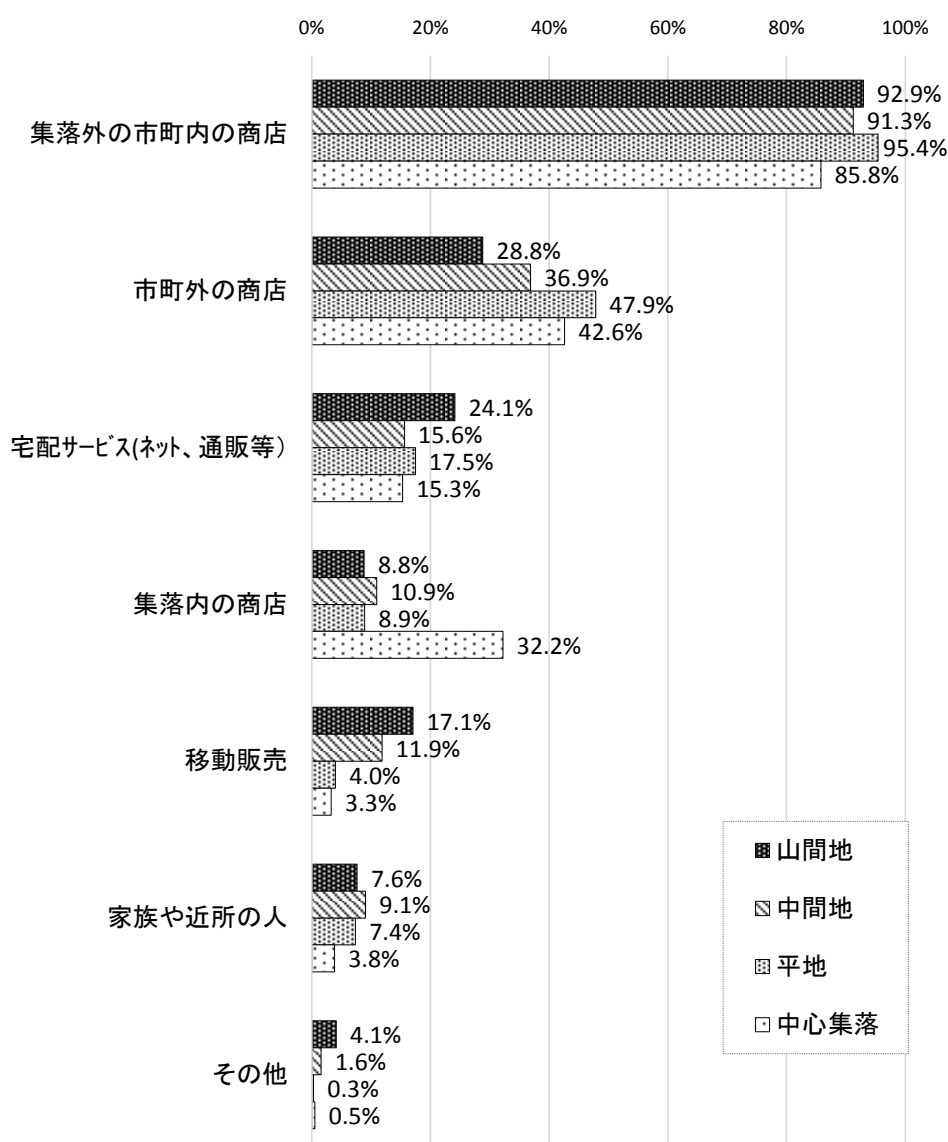


※地域区分不明分も含む

【その他の項目】

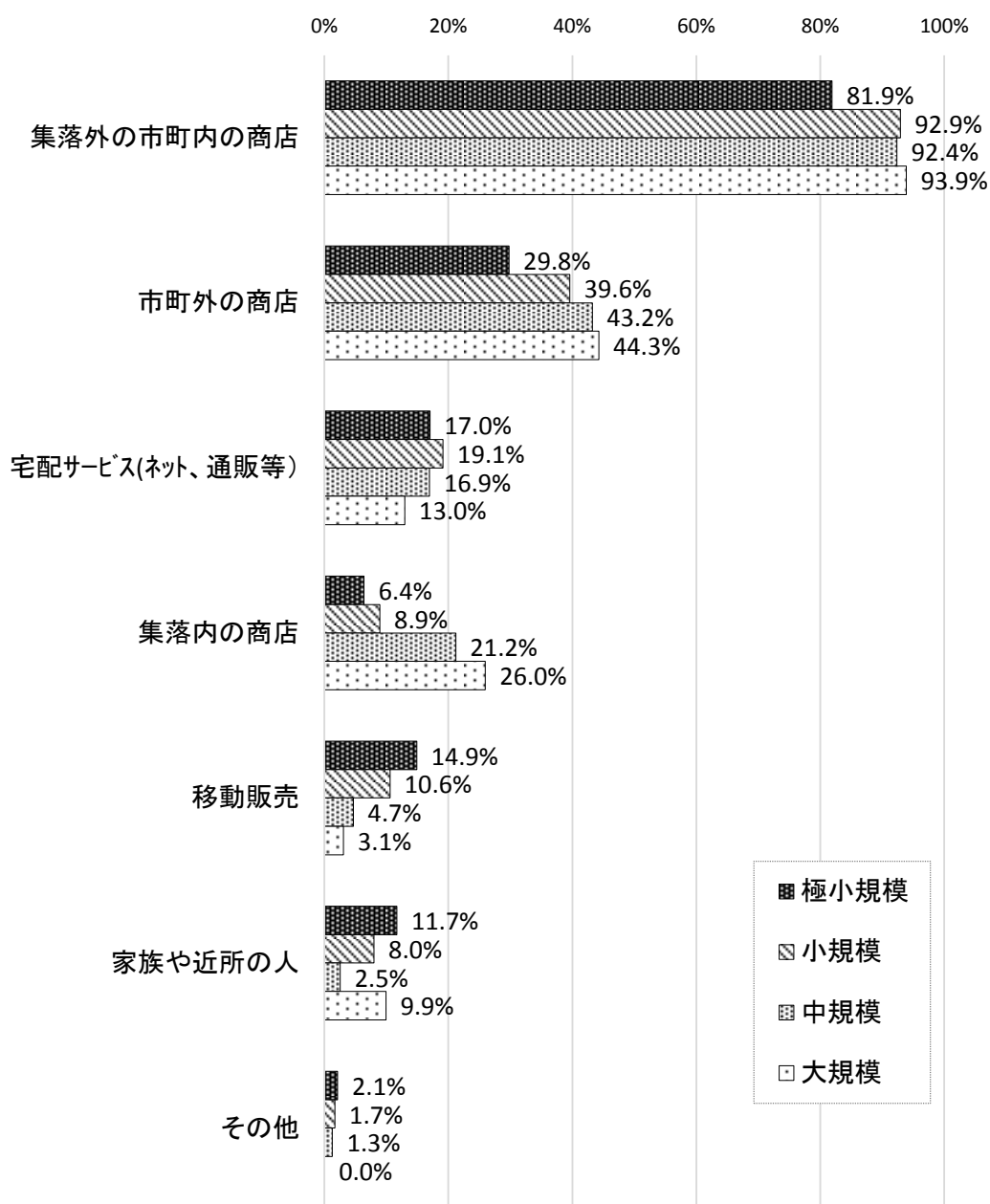
- ・生協(4件)
- ・JA(2件)
- ・車の使用(2件)
- ・コミュニティバスを利用
- ・タクシー
- ・ショッピングセンター
- ・食料自給率の向上

図表 2-2 日常生活品の購入方法(地域区分別)【MA】



	全集落		内 訳							
			山間地		中間地		平地		中心集落	
	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合
集落外の市町内の商店	920	91.9%	158	92.9%	292	91.3%	311	95.4%	157	85.8%
市町外の商店	401	40.1%	49	28.8%	118	36.9%	156	47.9%	78	42.6%
宅配サービス(ネット、通販等)	177	17.7%	41	24.1%	50	15.6%	57	17.5%	28	15.3%
集落内の商店	138	13.8%	15	8.8%	35	10.9%	29	8.9%	59	32.2%
移動販売	86	8.6%	29	17.1%	38	11.9%	13	4.0%	6	3.3%
家族や近所の人	73	7.3%	13	7.6%	29	9.1%	24	7.4%	7	3.8%
その他	14	1.4%	7	4.1%	5	1.6%	1	0.3%	1	0.5%
実回答数	1,001		170		320		326		183	

図表 2-3 日常生活品の購入方法(世帯規模別)【MA】



	極小規模		小規模		中規模		大規模	
	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合
集落外の市町内の商店	77	81.9%	500	92.9%	218	92.4%	123	93.9%
市町外の商店	28	29.8%	213	39.6%	102	43.2%	58	44.3%
宅配サービス(ネット、通販等)	16	17.0%	103	19.1%	40	16.9%	17	13.0%
集落内の商店	6	6.4%	48	8.9%	50	21.2%	34	26.0%
移動販売	14	14.9%	57	10.6%	11	4.7%	4	3.1%
家族や近所の人	11	11.7%	43	8.0%	6	2.5%	13	9.9%
その他	2	2.1%	9	1.7%	3	1.3%	0	0.0%
実回答数	94		538		236		131	

問3 集落内の集会所の活用方法について

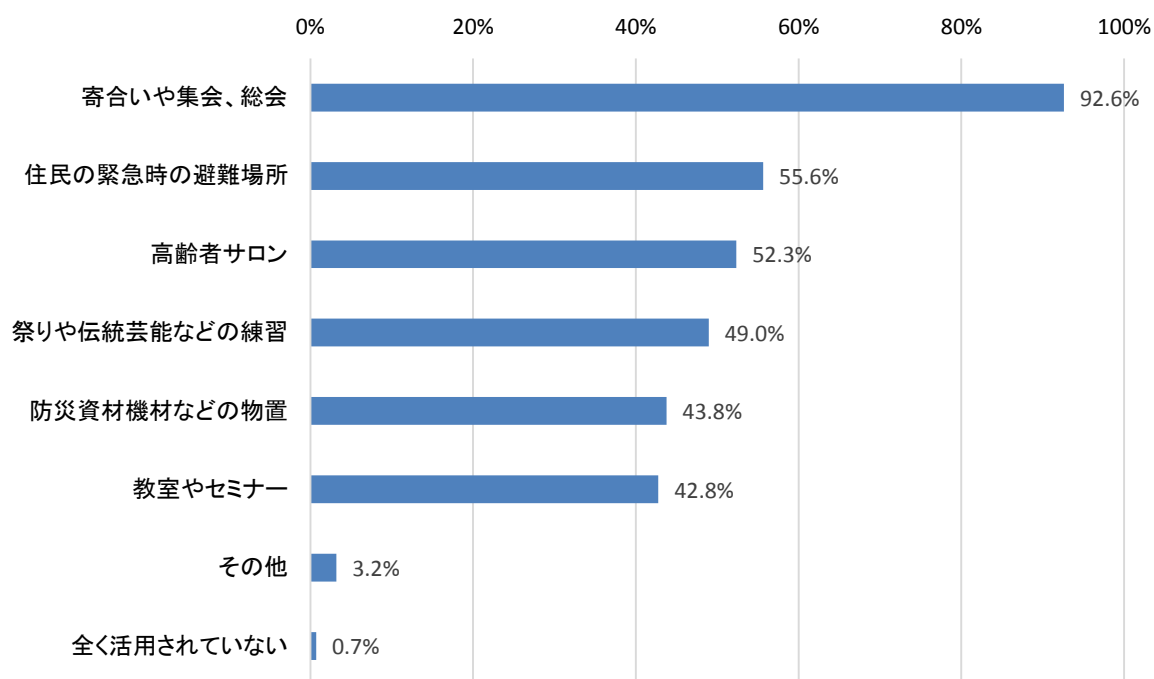
全集落内において、「寄合いや集会、総会」における利用が 92.6%と最も高く、次いで「住民の緊急時の避難場所」が 55.6%、「高齢者サロン」が 52.3%となった。(図 3-1)

地域区分別に見ると、全地域区分において、「寄合いや集会、総会」における利用が最も高く、中心集落においては、「教室やセミナー」が 54.6%と、他の地域に比べて活用割合が高い。(図表 3-2)

世帯規模別に見ると、極小規模においては他の規模に比べて全体的に活用割合が低い。(図表 3-3)

図 3-1 集会所の活用方法(全集落)【MA】

N=1,001

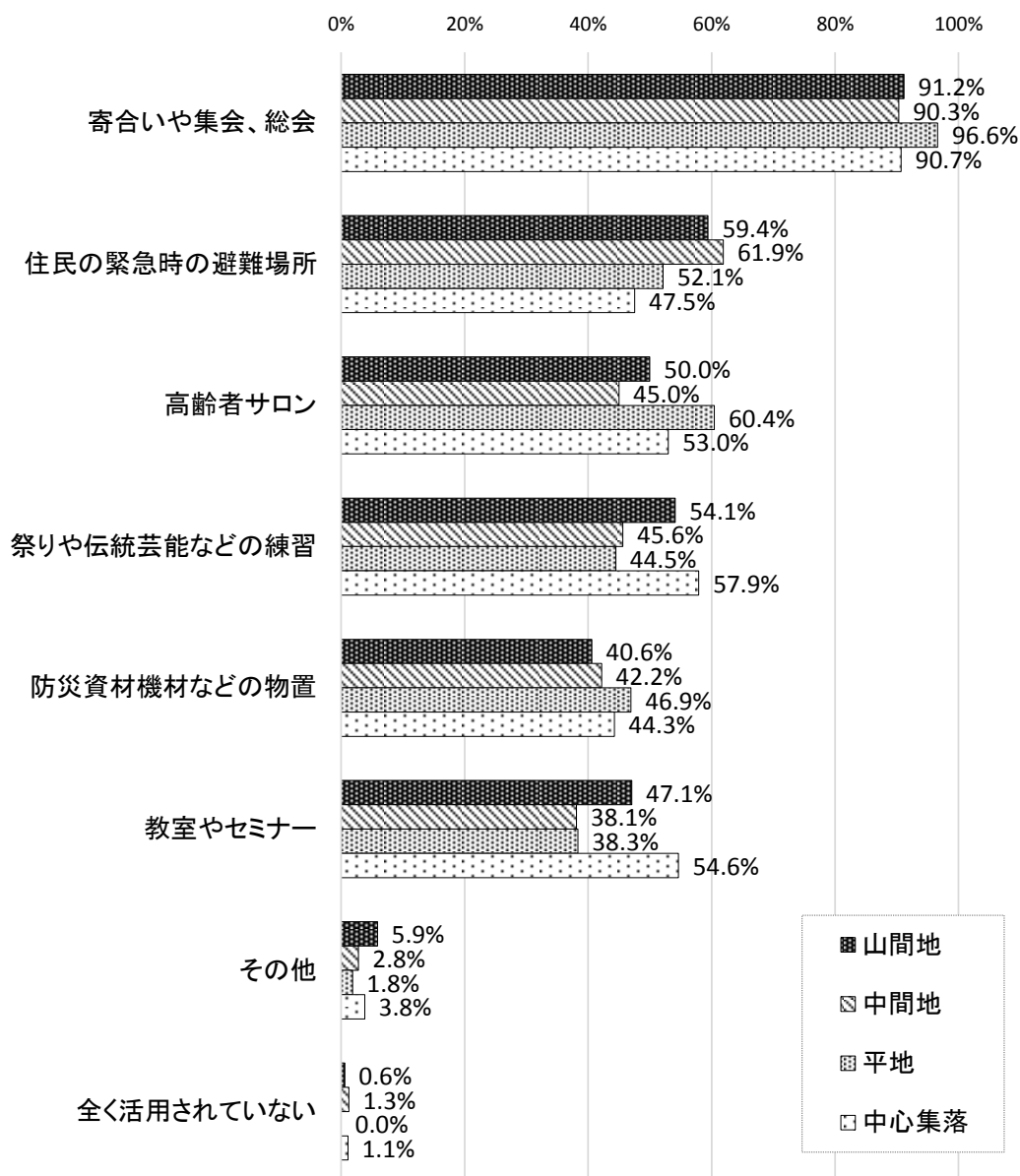


※地域区分不明分も含む

【その他の項目】

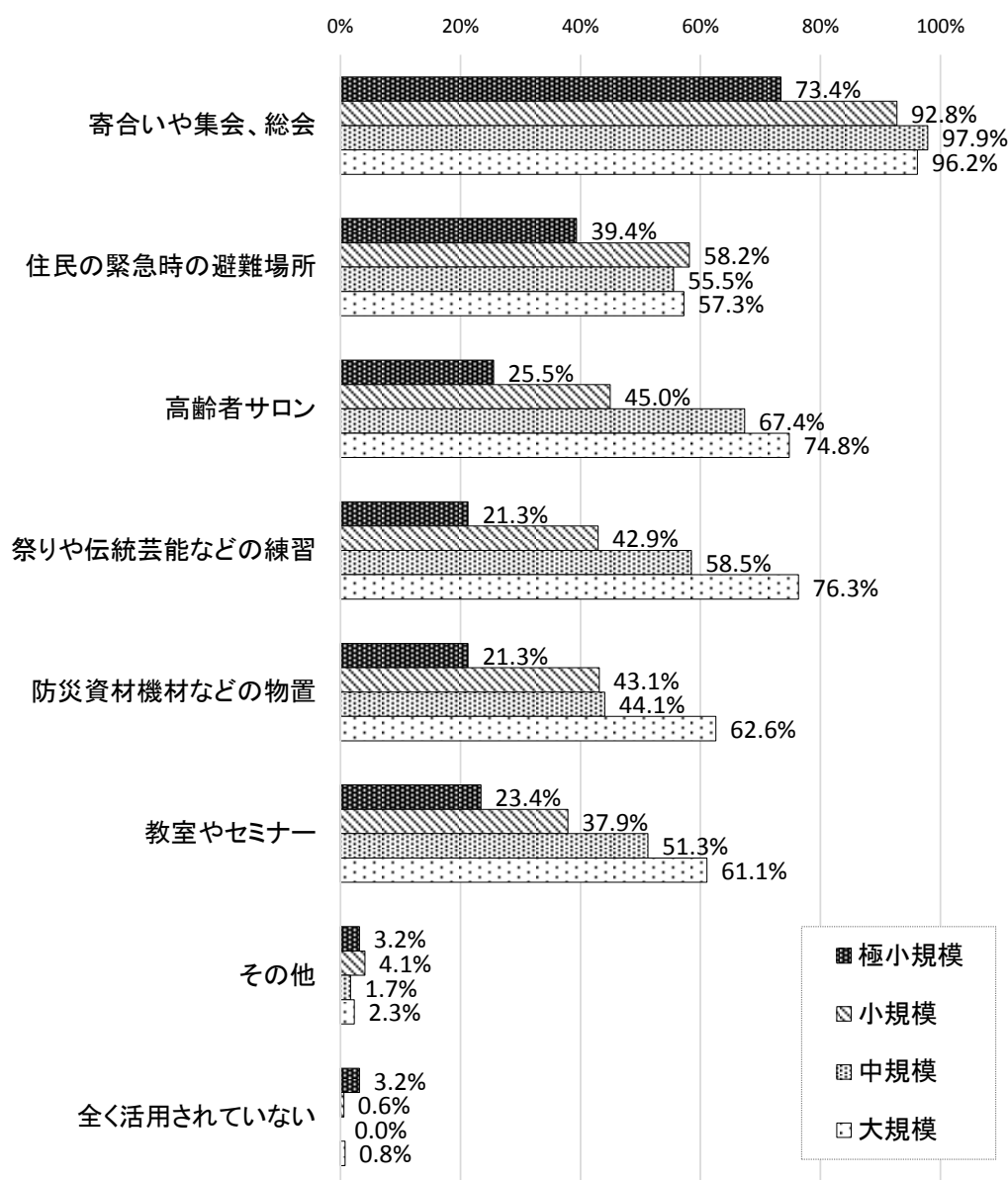
- ・児童クラブ夏休みの会食、お泊り等(2件)
- ・集会所がないので区長宅を提供(2件)
- ・念仏道場しかない(2件)
- ・選挙投票所・個人演説会場(2件)
- ・公民館・集会所なし(2件)
- ・たけのご集荷場
- ・学童保育
- ・町外の団体へ貸し出し
- ・パークゴルフ等の練習
- ・中央病院巡回診療
- ・仏事
- ・山菜加工施設
- ・ふるさとづくりの行事会場
- ・土地改良の事務所併設
- ・集落営農

図表 3-2 集会所の活用方法(地域区分別)【MA】



	全集落		内 訳							
			山間地		中間地		平地		中心集落	
	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合
寄合いや集会、総会	927	92.6%	155	91.2%	289	90.3%	315	96.6%	166	90.7%
住民の緊急時の避難場所	557	55.6%	101	59.4%	198	61.9%	170	52.1%	87	47.5%
高齢者サロン	524	52.3%	85	50.0%	144	45.0%	197	60.4%	97	53.0%
祭りや伝統芸能などの練習	490	49.0%	92	54.1%	146	45.6%	145	44.5%	106	57.9%
防災資材機材などの物置	438	43.8%	69	40.6%	135	42.2%	153	46.9%	81	44.3%
教室やセミナー	428	42.8%	80	47.1%	122	38.1%	125	38.3%	100	54.6%
その他	32	3.2%	10	5.9%	9	2.8%	6	1.8%	7	3.8%
全く活用されていない	7	0.7%	1	0.6%	4	1.3%	0	0.0%	2	1.1%
実回答数	1,001		170		320		326		183	

図表 3-3 集会所の活用方法(世帯規模別)【MA】



	極小規模		小規模		中規模		大規模	
	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合
寄合いや集会、総会	69	73.4%	499	92.8%	231	97.9%	126	96.2%
住民の緊急時の避難場所	37	39.4%	313	58.2%	131	55.5%	75	57.3%
高齢者サロン	24	25.5%	242	45.0%	159	67.4%	98	74.8%
祭りや伝統芸能などの練習	20	21.3%	231	42.9%	138	58.5%	100	76.3%
防災資材機材などの物置	20	21.3%	232	43.1%	104	44.1%	82	62.6%
教室やセミナー	22	23.4%	204	37.9%	121	51.3%	80	61.1%
その他	3	3.2%	22	4.1%	4	1.7%	3	2.3%
全く活用されていない	3	3.2%	3	0.6%	0	0.0%	1	0.8%
実回答数	94		538		236		131	

問4 集落内に新たに（おおむね3年以内）発生した空き家や空き店舗数について

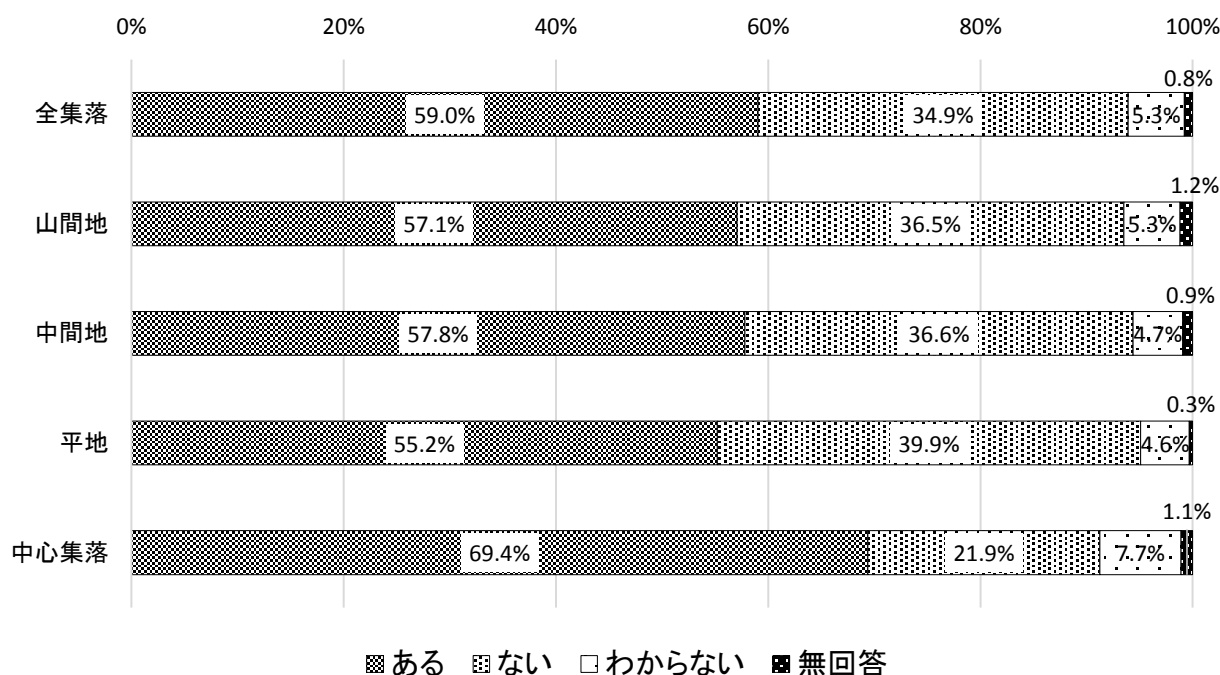
全集落において、空き家や空き店舗が「ある」の回答が59.0%と半数を超えており、「ない」が34.9%となった。

地域区分別にみると、「ある」の回答において中心集落が69.4%と最も高く(図表4-1)、空き家や空き店舗の管理状況においては、全地域において約半数が「定期的に清掃管理されている」となった。

世帯規模別にみると、大規模において「ある」の回答が73.3%と最も高く、極小規模においては「ない」が46.8%と「ある」の値42.6%を上回った。(図表4-3)

図表4-1 空き家や空き店舗の有無(地域区分別)

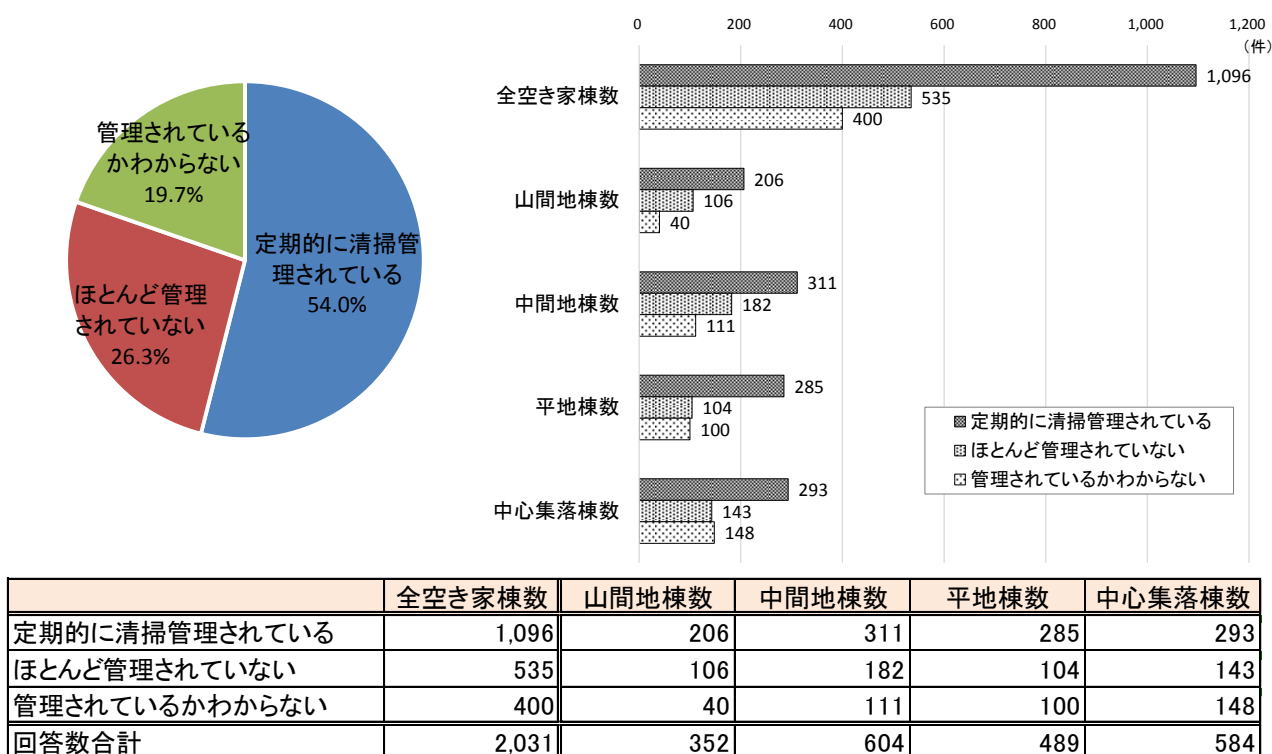
N=1,001



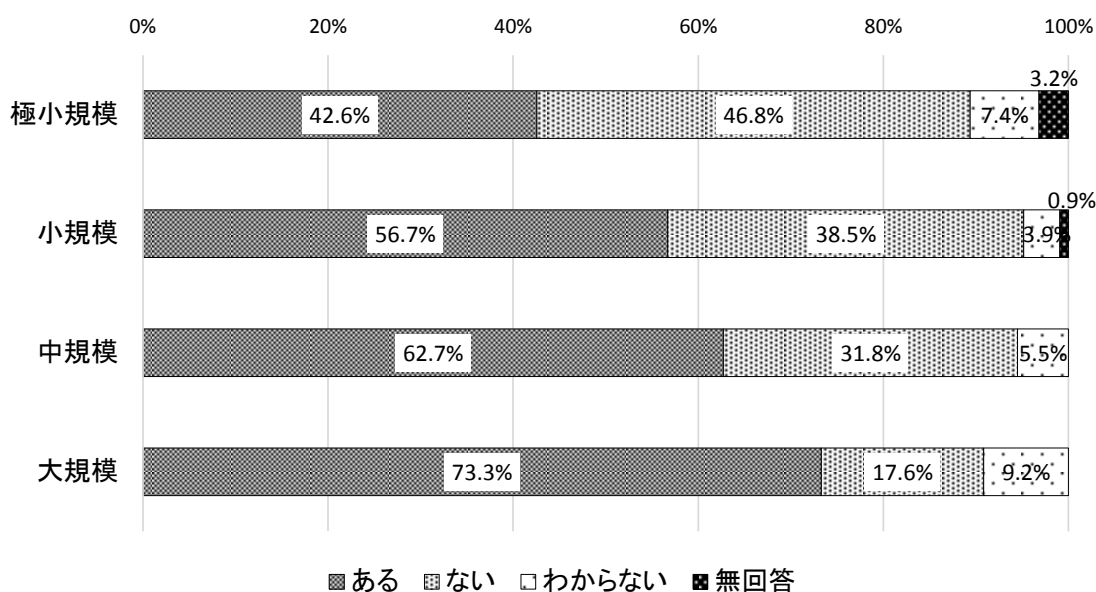
※全集落には地域区分不明分も含む

	全集落		内 訳							
	回答数	割合	山間地		中間地		平地		中心集落	
	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合
ある	591	59.0%	97	57.1%	185	57.8%	180	55.2%	127	69.4%
ない	349	34.9%	62	36.5%	117	36.6%	130	39.9%	40	21.9%
わからない	53	5.3%	9	5.3%	15	4.7%	15	4.6%	14	7.7%
無回答	8	0.8%	2	1.2%	3	0.9%	1	0.3%	2	1.1%
回答数合計	1,001		170		320		326		183	

図表 4-2 空き家、空き店舗の管理状況及び件数(地域区分別)



図表 4-3 空き家、空き店舗の有無(世帯規模別)



	極小規模		小規模		中規模		大規模	
	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合
ある	40	42.6%	305	56.7%	148	62.7%	96	73.3%
ない	44	46.8%	207	38.5%	75	31.8%	23	17.6%
わからない	7	7.4%	21	3.9%	13	5.5%	12	9.2%
無回答	3	3.2%	5	0.9%	0	0.0%	0	0.0%
回答数合計	94		538		236		131	

問5 空き家等の所有者の把握について

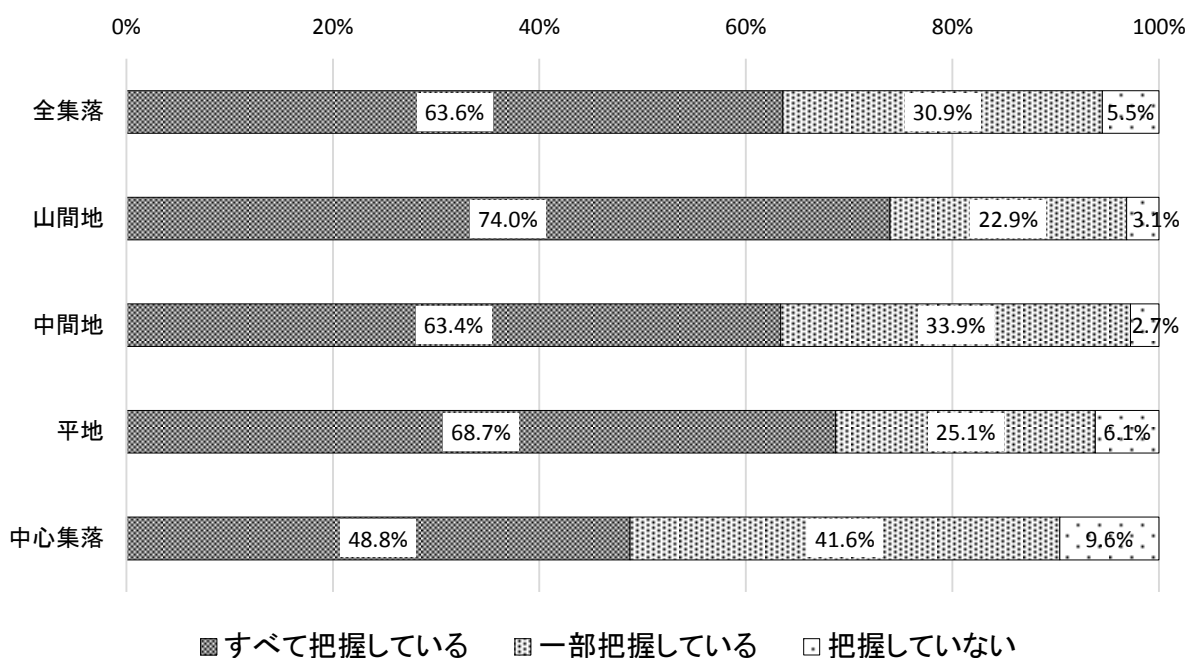
全集落内においては、「すべて把握している」が63.6%、「一部把握している」が30.9%となり、あわせると94.5%を占め、「把握していない」は5.5%となった。(図表5-1)

地域区分別に見ると、「すべて把握している」は他の地域が60%以上を占める中で、中心集落のみが、48.8%と低い値となった。(図表5-1)

世帯規模別に見ると、「すべて把握している」は極小規模が76.9%と最も高く、「把握していない」は0%となった。

図表5-1 空き家等の所有者の把握(地域区分別)

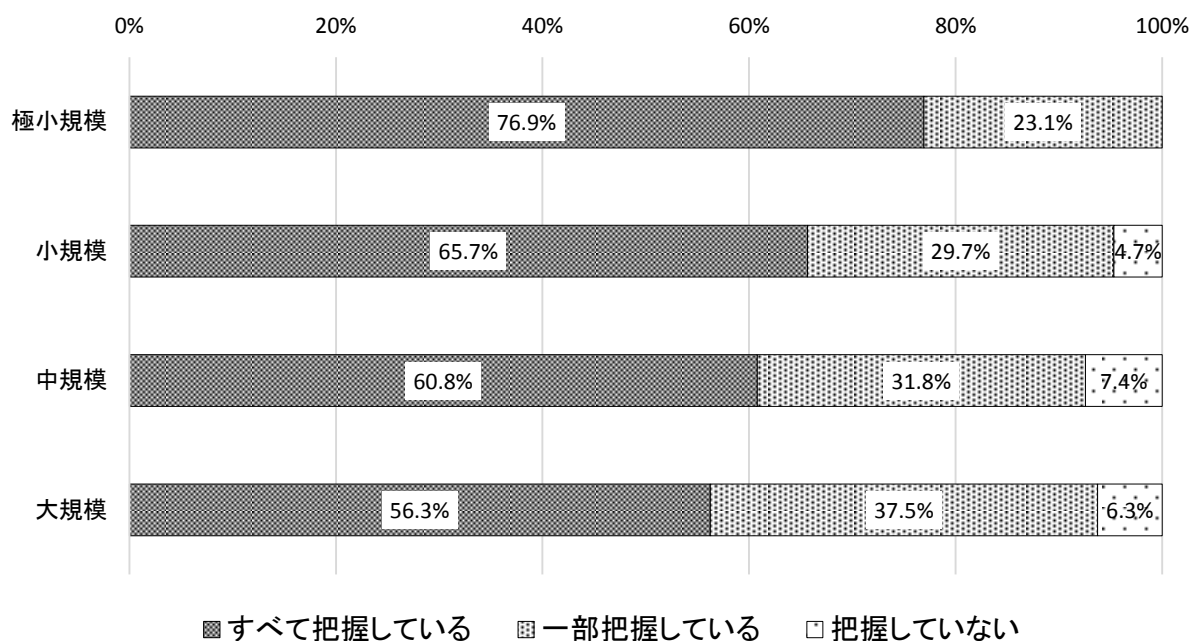
N=1,001



※全集落には地域区分不明分も含む

	全集落		内 訳							
	回答数	割合	山間地		中間地		平地		中心集落	
			回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合
すべて把握している	372	63.6%	71	74.0%	116	63.4%	123	68.7%	61	48.8%
一部把握している	181	30.9%	22	22.9%	62	33.9%	45	25.1%	52	41.6%
把握していない	32	5.5%	3	3.1%	5	2.7%	11	6.1%	12	9.6%
回答数合計	585		96		183		179		125	

図表 5-2 空き家等の所有者の把握(世帯規模別)



	極小規模		小規模		中規模		大規模	
	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合
すべて把握している	30	76.9%	197	65.7%	90	60.8%	54	56.3%
一部把握している	9	23.1%	89	29.7%	47	31.8%	36	37.5%
把握していない	0	0.0%	14	4.7%	11	7.4%	6	6.3%
回答数合計	39		300		148		96	

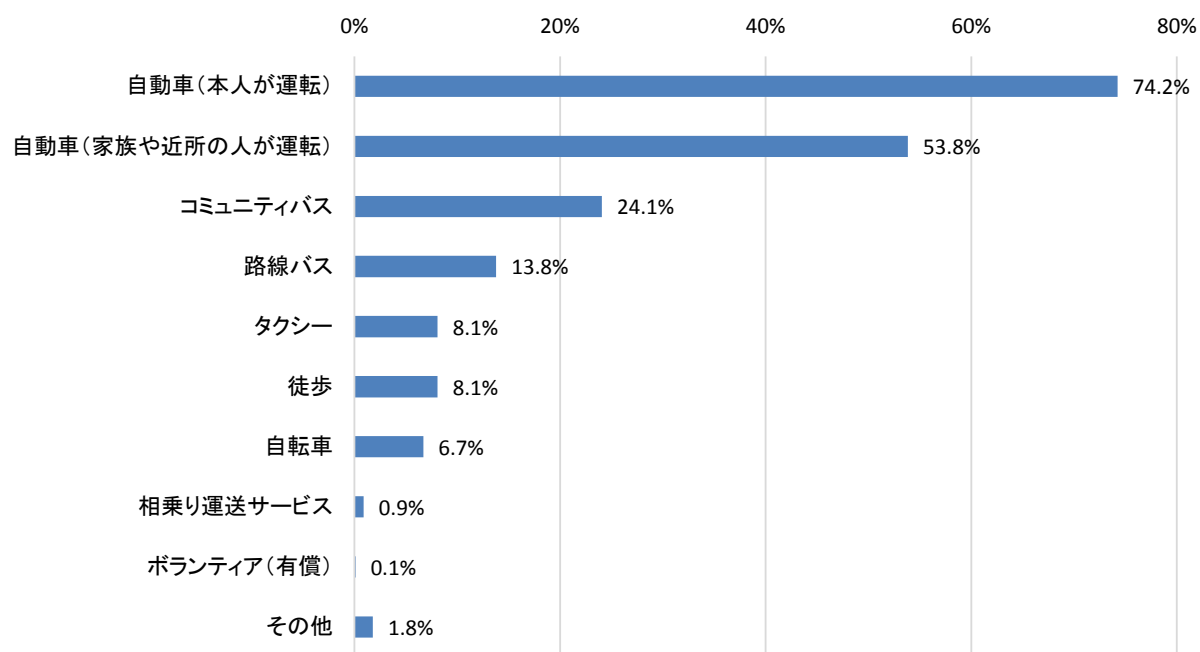
問 6 高齢者が出かける際の主な移動手段について

全集落内において、「自動車(本人が運転)」が74.2%と最も高く、次いで「自動車(家族や近所の人が運転)」が53.8%、「コミュニティバス」が24.1%となった。(図6-1)

地域区分別に見ると、全地域区分において、「自動車(本人が運転)」が最も高く、中心集落においては、「徒歩」が27.3%、「自転車」が18.6%と、他の地域に比べて利用割合が高い。(図表6-2)

世帯規模別に見ると、全域において、「自動車(本人が運転)」、「自動車(家族や近所の人が運転)」が高い。(図表6-3)

図 6-1 高齢者の主な移動手段(全集落)【MA】 N=1,001

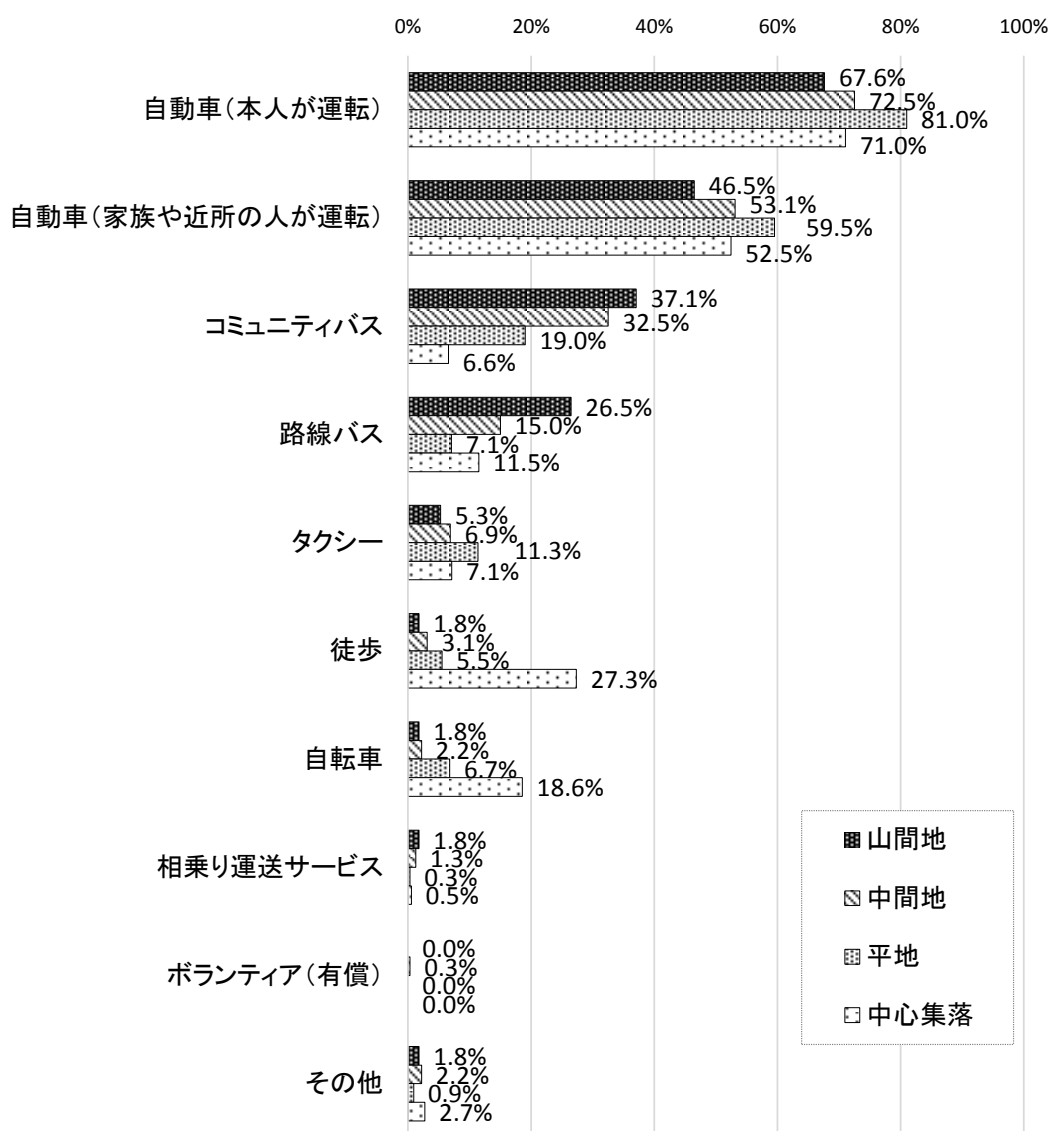


※地域区分不明分も含む

【その他の項目】

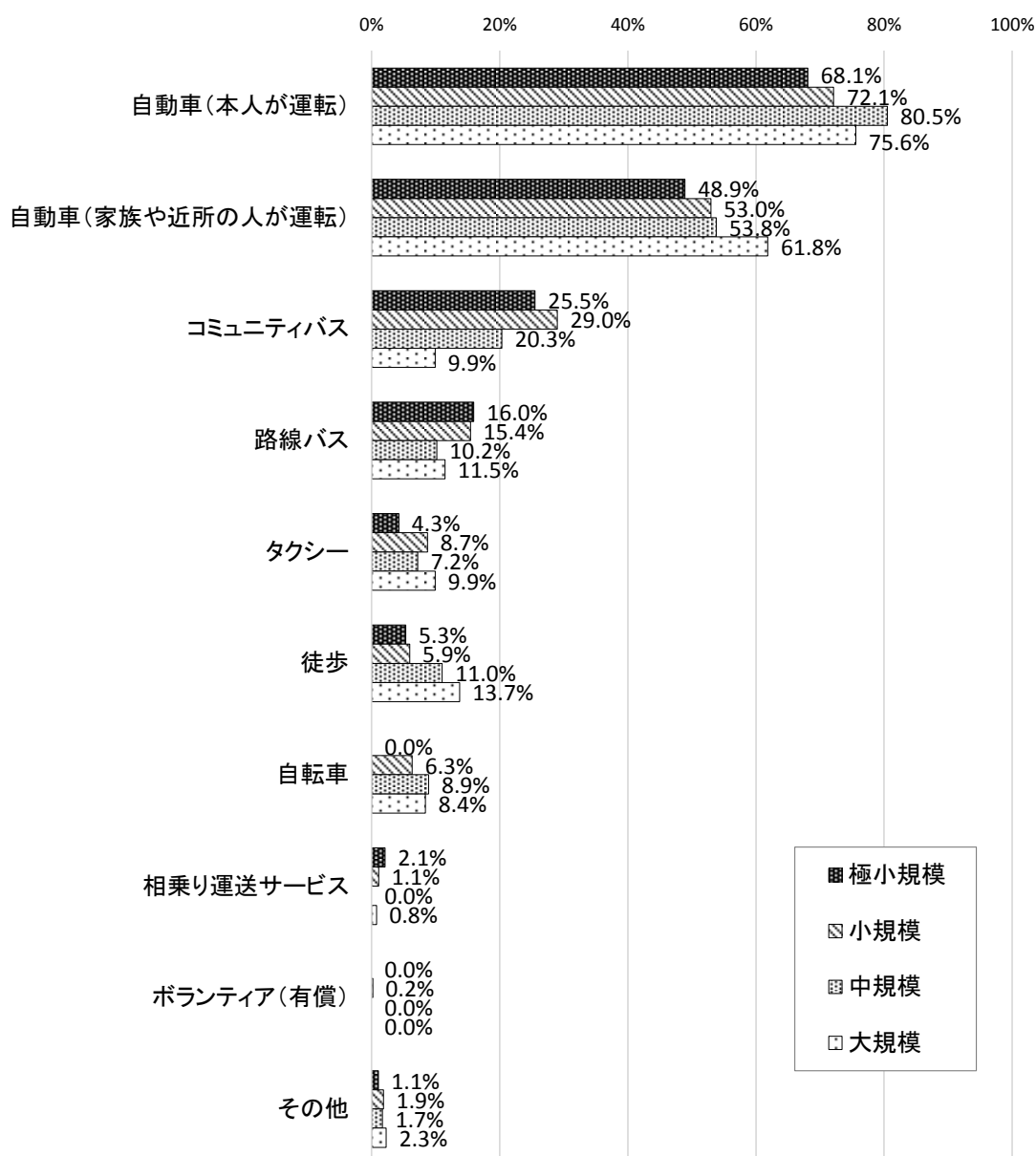
- ・地鉄電車
- ・お出かけ電車

図表 6-2 高齢者の主な移動手段(地域区分別)【MA】



	全集落		内 訳							
	回答数	割合	山間地		中間地		平地		中心集落	
			回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合
自動車(本人が運転)	743	74.2%	115	67.6%	232	72.5%	264	81.0%	130	71.0%
自動車(家族や近所の人が運転)	539	53.8%	79	46.5%	170	53.1%	194	59.5%	96	52.5%
コミュニティバス	241	24.1%	63	37.1%	104	32.5%	62	19.0%	12	6.6%
路線バス	138	13.8%	45	26.5%	48	15.0%	23	7.1%	21	11.5%
タクシー	81	8.1%	9	5.3%	22	6.9%	37	11.3%	13	7.1%
徒歩	81	8.1%	3	1.8%	10	3.1%	18	5.5%	50	27.3%
自転車	67	6.7%	3	1.8%	7	2.2%	22	6.7%	34	18.6%
相乗り運送サービス	9	0.9%	3	1.8%	4	1.3%	1	0.3%	1	0.5%
ボランティア(有償)	1	0.1%	0	0.0%	1	0.3%	0	0.0%	0	0.0%
その他	18	1.8%	3	1.8%	7	2.2%	3	0.9%	5	2.7%
実回答数	1,001		170		320		326		183	

図表 6-3 高齢者の主な移動手段(世帯規模別)【MA】



	極小規模		小規模		中規模		大規模	
	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合
自動車(本人が運転)	64	68.1%	388	72.1%	190	80.5%	99	75.6%
自動車(家族や近所の人が運転)	46	48.9%	285	53.0%	127	53.8%	81	61.8%
コミュニティバス	24	25.5%	156	29.0%	48	20.3%	13	9.9%
路線バス	15	16.0%	83	15.4%	24	10.2%	15	11.5%
タクシー	4	4.3%	47	8.7%	17	7.2%	13	9.9%
徒歩	5	5.3%	32	5.9%	26	11.0%	18	13.7%
自転車	0	0.0%	34	6.3%	21	8.9%	11	8.4%
相乗り運送サービス	2	2.1%	6	1.1%	0	0.0%	1	0.8%
ボランティア(有償)	0	0.0%	1	0.2%	0	0.0%	0	0.0%
その他	1	1.1%	10	1.9%	4	1.7%	3	2.3%
実回答数	94		538		236		131	

問7 高齢者が出かける場合の、今後充実してほしい移動手段について

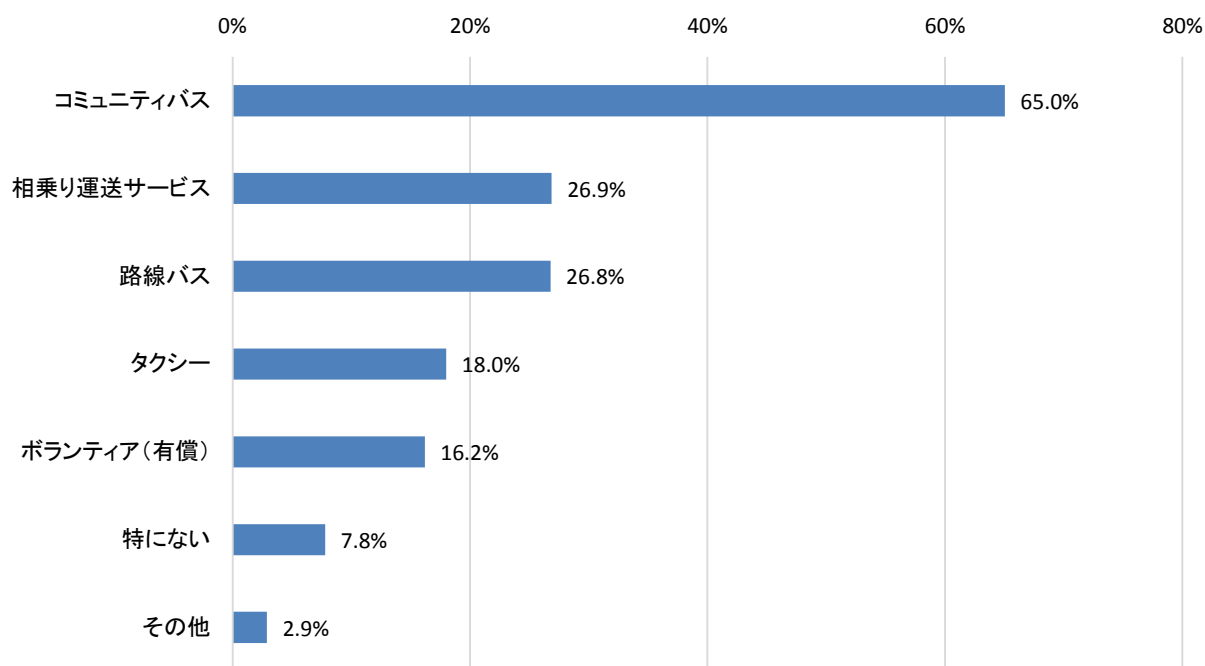
全集落内において充実してほしい交通手段は、「コミュニティバス」が65.0%と最も高く、次いで「相乗り運送サービス」が26.9%、「路線バス」が26.8%となった。(図7-1)

地域区分別に見ると、全地域区分において、「コミュニティバス」が最も高く、70%前後を占める中、中心集落においては、51.4%となった。(図表7-2)

世帯規模別に見ると、全世帯規模において、「コミュニティバス」が最も高く、極小規模においては47.9%、他の規模では60%以上となった。(図表7-3)

図7-1 今後充実してほしい移動手段(全集落)【MA】

N=1,001

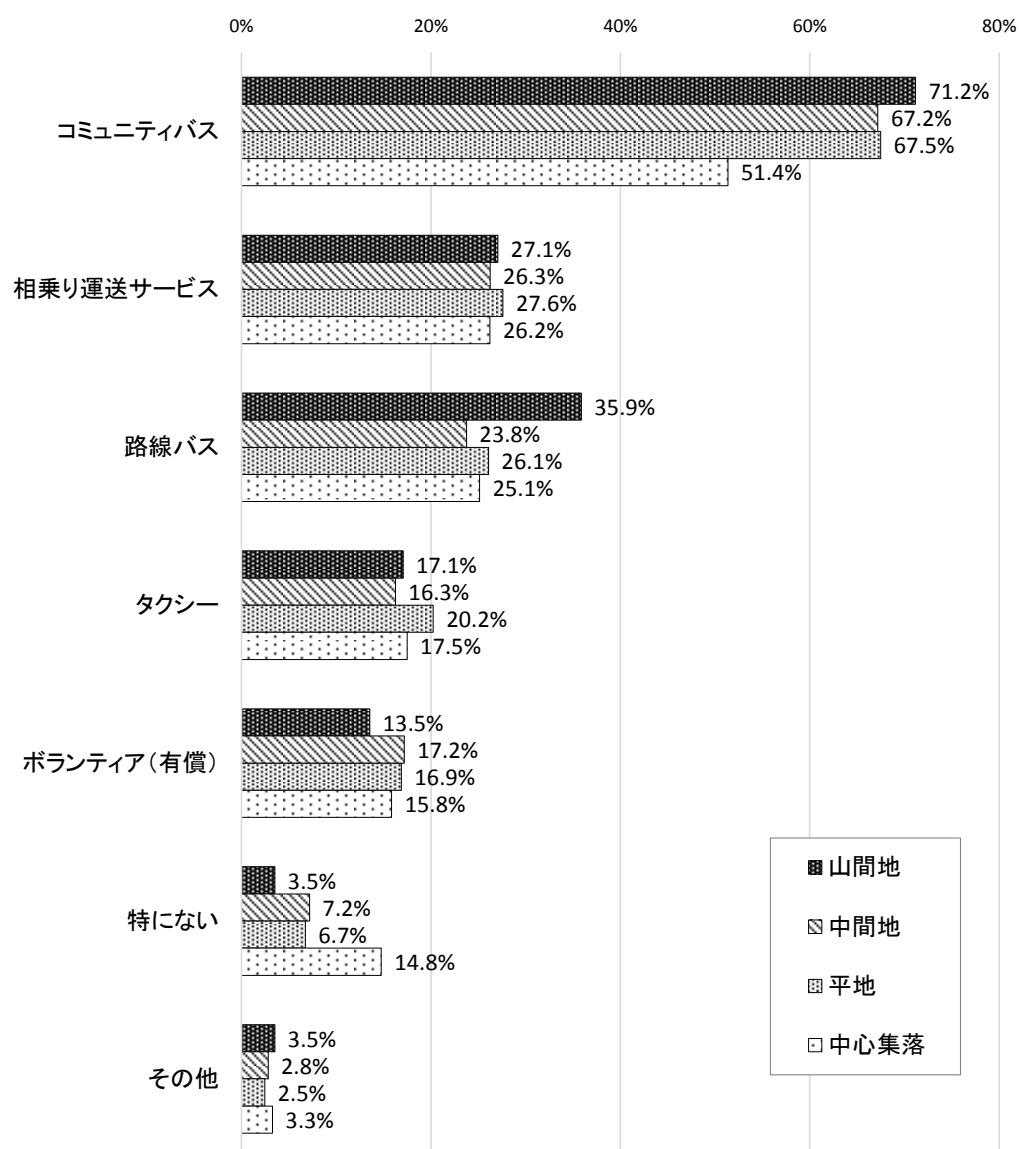


※地域区分不明分も含む

【その他の項目】

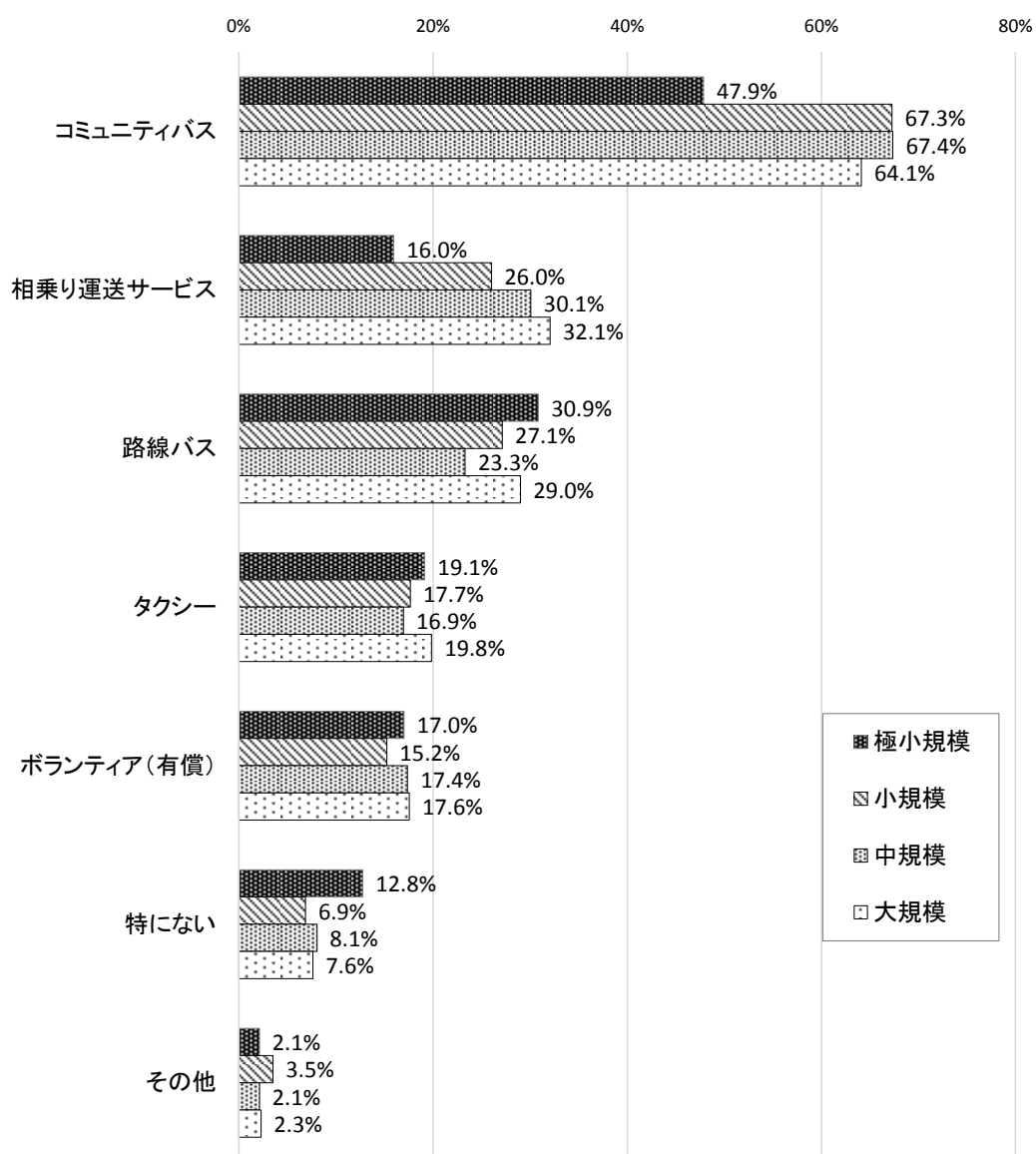
- ・コミュニティバスの継続・本数の増大(3件)
- ・福祉タクシー
- ・デマンド交通(3件)
- ・福祉サービス
- ・無償ボランティア(2件)
- ・最低の移動手段
- ・お出かけ電車の時間延長や市中心部駅の拡大(2件)
- ・市(町)営バス(2件)
- ・自動運転車(2件)
- ・電車(2件)
- ・スーパーや病院を回るバスの運行(2件)
- ・無料送迎
- ・近所の人
- ・週1回程度の循環バス

図表 7-2 今後充実してほしい移動手段(地域区分別)【MA】



	全集落		内 訳							
	回答数	割合	山間地		中間地		平地		中心集落	
			回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合
コミュニティバス	651	65.0%	121	71.2%	215	67.2%	220	67.5%	94	51.4%
相乗り運送サービス	269	26.9%	46	27.1%	84	26.3%	90	27.6%	48	26.2%
路線バス	268	26.8%	61	35.9%	76	23.8%	85	26.1%	46	25.1%
タクシー	180	18.0%	29	17.1%	52	16.3%	66	20.2%	32	17.5%
ボランティア(有償)	162	16.2%	23	13.5%	55	17.2%	55	16.9%	29	15.8%
特にない	78	7.8%	6	3.5%	23	7.2%	22	6.7%	27	14.8%
その他	29	2.9%	6	3.5%	9	2.8%	8	2.5%	6	3.3%
実回答数	1,001		170		320		326		183	

図表 7-3 今後充実してほしい移動手段(世帯規模別)【MA】



	極小規模		小規模		中規模		大規模	
	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合
コミュニティバス	45	47.9%	362	67.3%	159	67.4%	84	64.1%
相乗り運送サービス	15	16.0%	140	26.0%	71	30.1%	42	32.1%
路線バス	29	30.9%	146	27.1%	55	23.3%	38	29.0%
タクシー	18	19.1%	95	17.7%	40	16.9%	26	19.8%
ボランティア(有償)	16	17.0%	82	15.2%	41	17.4%	23	17.6%
特にない	12	12.8%	37	6.9%	19	8.1%	10	7.6%
その他	2	2.1%	19	3.5%	5	2.1%	3	2.3%
実回答数	94		538		236		131	

【集落における「支え合い」について】

問 8 集落内における高齢者だけで住んでいる世帯の有無について

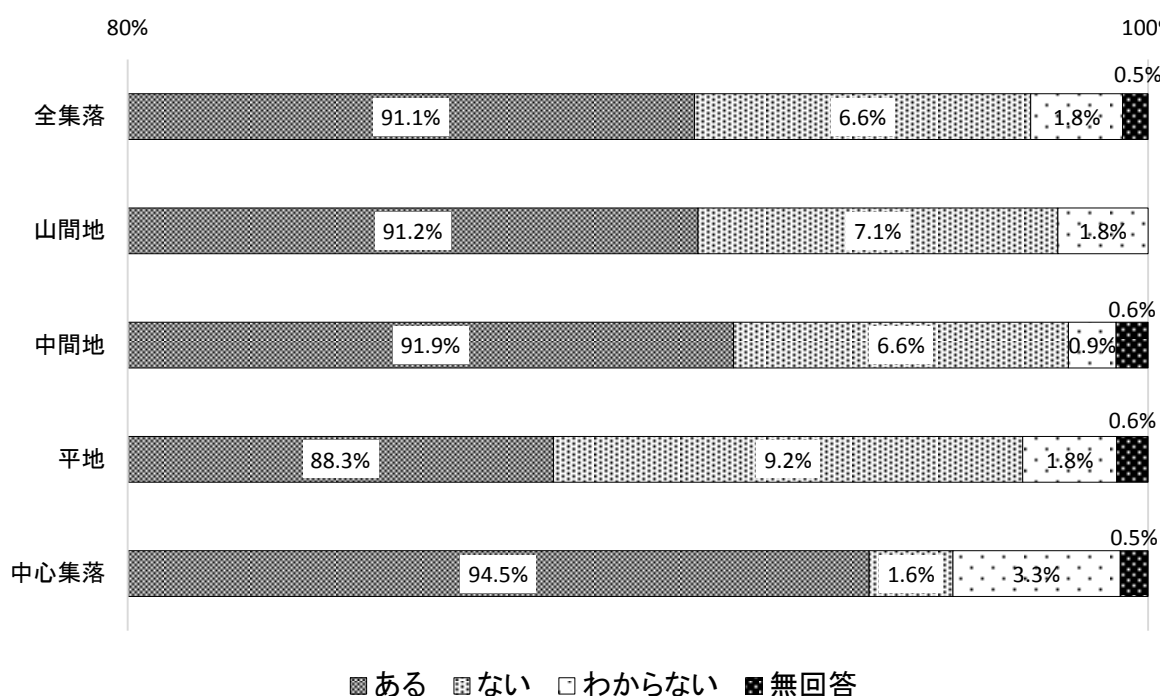
全集落内においては、「ある」が91.1%と、高い割合となった。(図表 8-1)

地域区分別に見ると、「ある」が、中心集落が94.5%と最も高くなった。(図表 8-1)

世帯規模別に見ると、「ある」が、大規模において96.2%と最も高くなった。(図表 8-3)

図表 8-1 高齢者だけの世帯の有無(地域区分別)

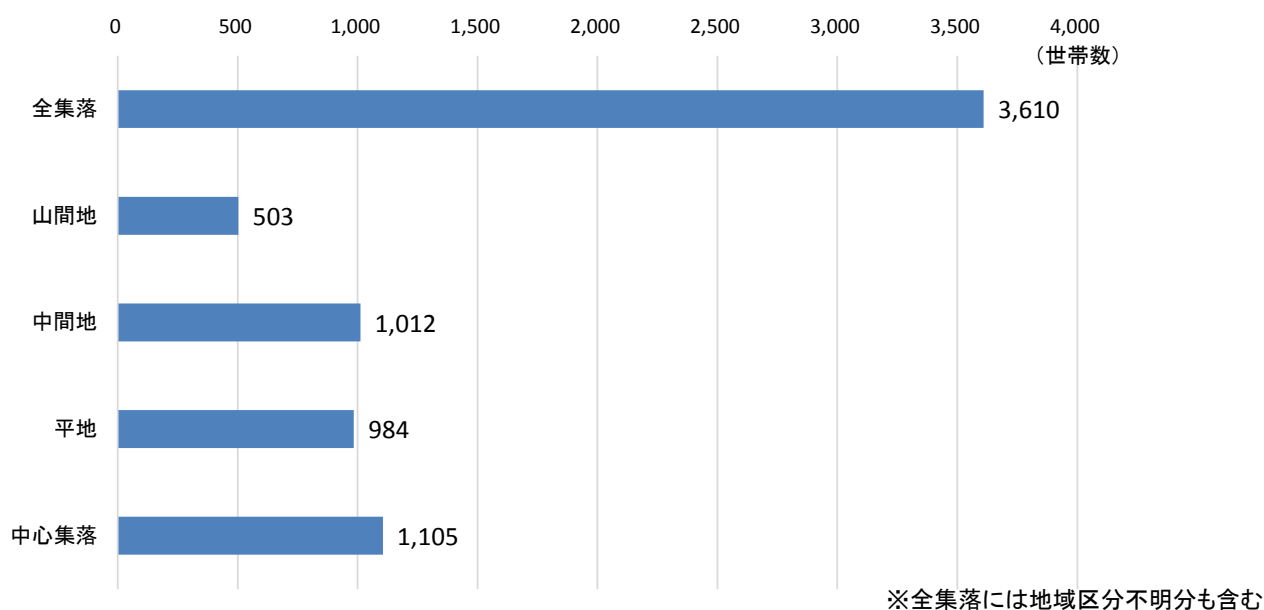
N=1,001



※全集落には地域区分不明分も含む

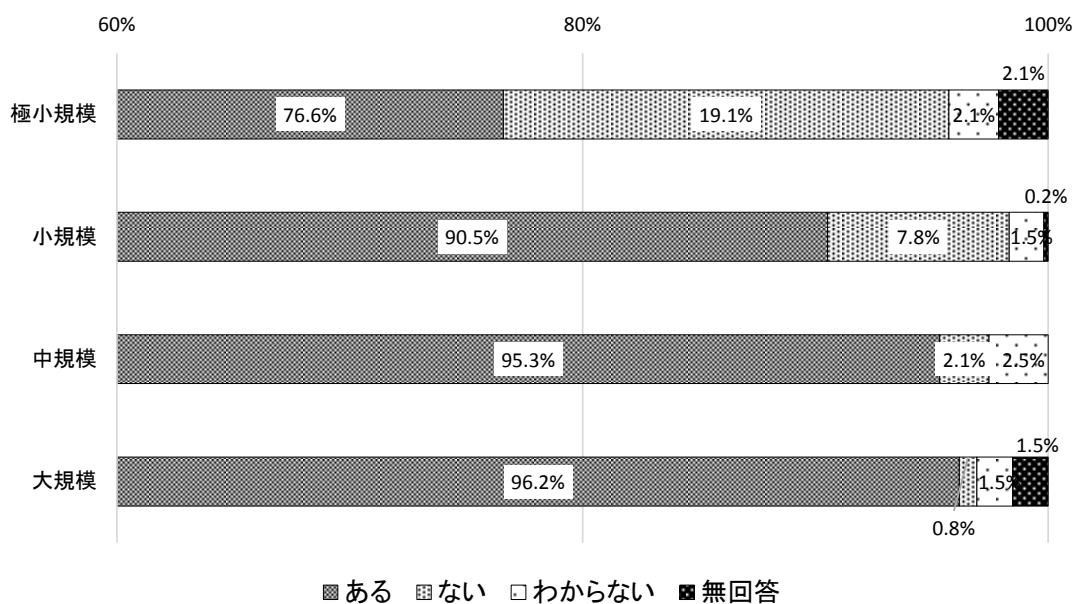
	全集落		内 訳							
	回答数	割合	山間地		中間地		平地		中心集落	
			回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合
ある	912	91.1%	155	91.2%	294	91.9%	288	88.3%	173	94.5%
ない	66	6.6%	12	7.1%	21	6.6%	30	9.2%	3	1.6%
わからない	18	1.8%	3	1.8%	3	0.9%	6	1.8%	6	3.3%
無回答	5	0.5%	0	0.0%	2	0.6%	2	0.6%	1	0.5%
回答数合計	1,001		170		320		326		183	

図表 8-2 独居老人の世帯数(地域区分別)



	内 訳				
	全集落	山間地	中間地	平地	中心集落
独居老人世帯数	3,610	503	1,012	984	1,105

図表 8-3 高齢者だけの世帯の有無(世帯規模別)



	極小規模		小規模		中規模		大規模	
	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合
ある	72	76.6%	487	90.5%	225	95.3%	126	96.2%
ない	18	19.1%	42	7.8%	5	2.1%	1	0.8%
わからない	2	2.1%	8	1.5%	6	2.5%	2	1.5%
無回答	2	2.1%	1	0.2%	0	0.0%	2	1.5%
回答数合計	94		538		236		131	

問9 一人暮らしの高齢者の安否確認の頻度について

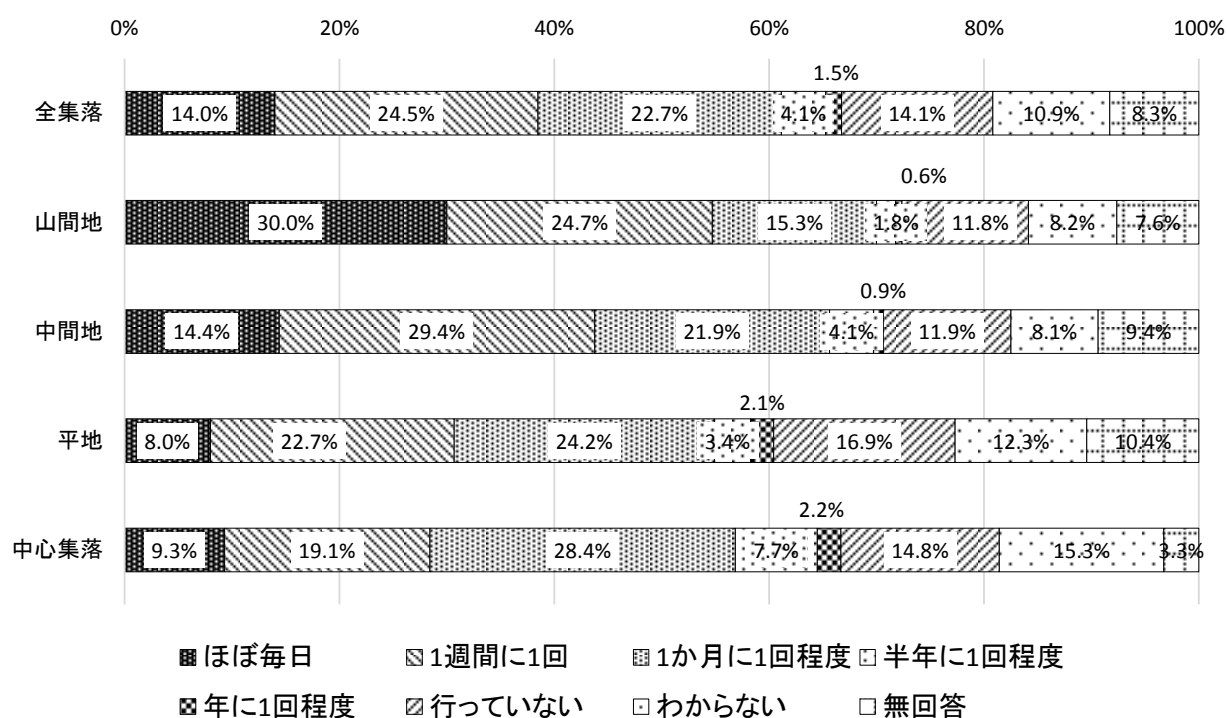
全集落内において、「1週間に1回」が24.5%と最も高く、次いで「1か月に1回程度」が22.7%に対し、「行っていない」、「わからない」が合わせて25.0%となった。(図表9-1)

地域区分別に見ると、山間地において、「ほぼ毎日」が30.0%、「1週間に1回」が24.7%と、合わせて半数以上を越え、頻繁に安否確認を行っていることがわかる。(図表9-1)

世帯規模別に見ると、極小規模において、「ほぼ毎日」が22.3%、「1週間に1回」が26.6%と、合わせて半数近くとなり、頻繁に安否確認を行っていることがわかる。(図表9-2)

図表9-1 高齢者安否確認の頻度(地域区分別)

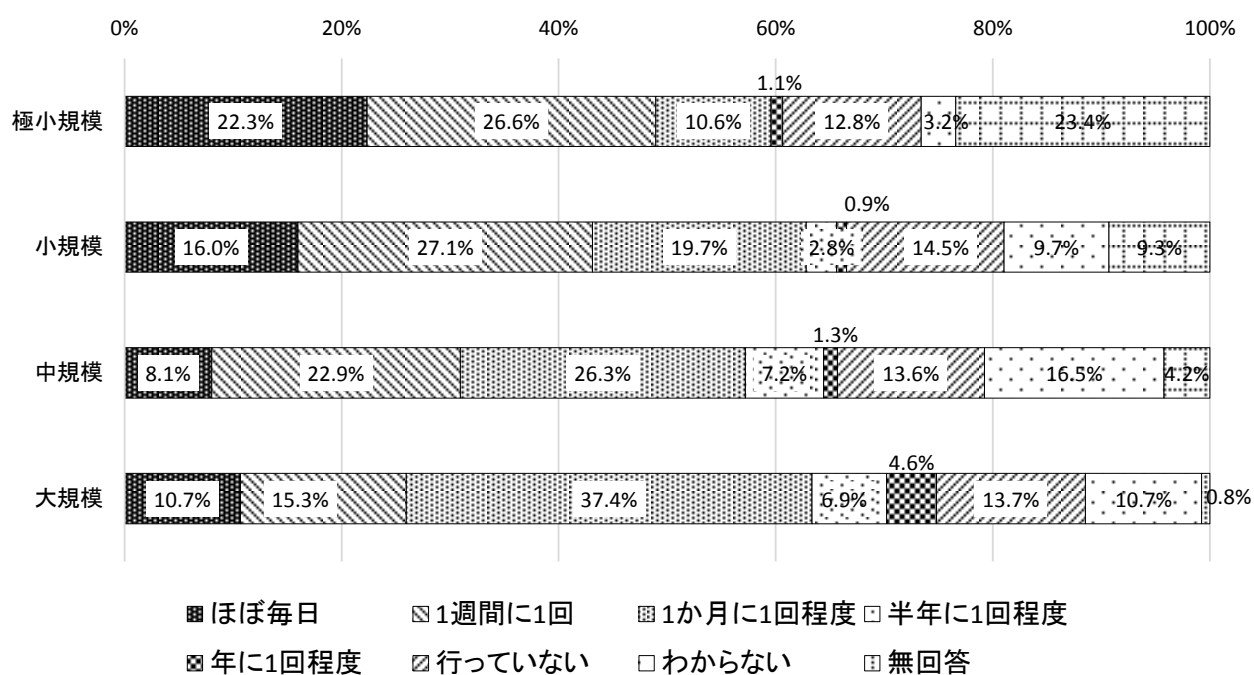
N=1,001



※全集落には地域区分不明分も含む

	全集落		内 訳							
	回答数	割合	山間地		中間地		平地		中心集落	
			回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合
ほぼ毎日	140	14.0%	51	30.0%	46	14.4%	26	8.0%	17	9.3%
1週間に1回	245	24.5%	42	24.7%	94	29.4%	74	22.7%	35	19.1%
1か月に1回程度	227	22.7%	26	15.3%	70	21.9%	79	24.2%	52	28.4%
半年に1回程度	41	4.1%	3	1.8%	13	4.1%	11	3.4%	14	7.7%
年に1回程度	15	1.5%	1	0.6%	3	0.9%	7	2.1%	4	2.2%
行っていない	141	14.1%	20	11.8%	38	11.9%	55	16.9%	27	14.8%
わからない	109	10.9%	14	8.2%	26	8.1%	40	12.3%	28	15.3%
無回答	83	8.3%	13	7.6%	30	9.4%	34	10.4%	6	3.3%
回答数合計	1,001		170		320		326		183	

図表 9-2 高齢者安否確認の頻度(世帯規模別)



	極小規模		小規模		中規模		大規模	
	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合
ほぼ毎日	21	22.3%	86	16.0%	19	8.1%	14	10.7%
1週間に1回	25	26.6%	146	27.1%	54	22.9%	20	15.3%
1か月に1回程度	10	10.6%	106	19.7%	62	26.3%	49	37.4%
半年に1回程度	0	0.0%	15	2.8%	17	7.2%	9	6.9%
年に1回程度	1	1.1%	5	0.9%	3	1.3%	6	4.6%
行っていない	12	12.8%	78	14.5%	32	13.6%	18	13.7%
わからない	3	3.2%	52	9.7%	39	16.5%	14	10.7%
無回答	22	23.4%	50	9.3%	10	4.2%	1	0.8%
回答数合計	94		538		236		131	

問 10 一人暮らしの高齢者の安否確認等の継続に必要なものについて

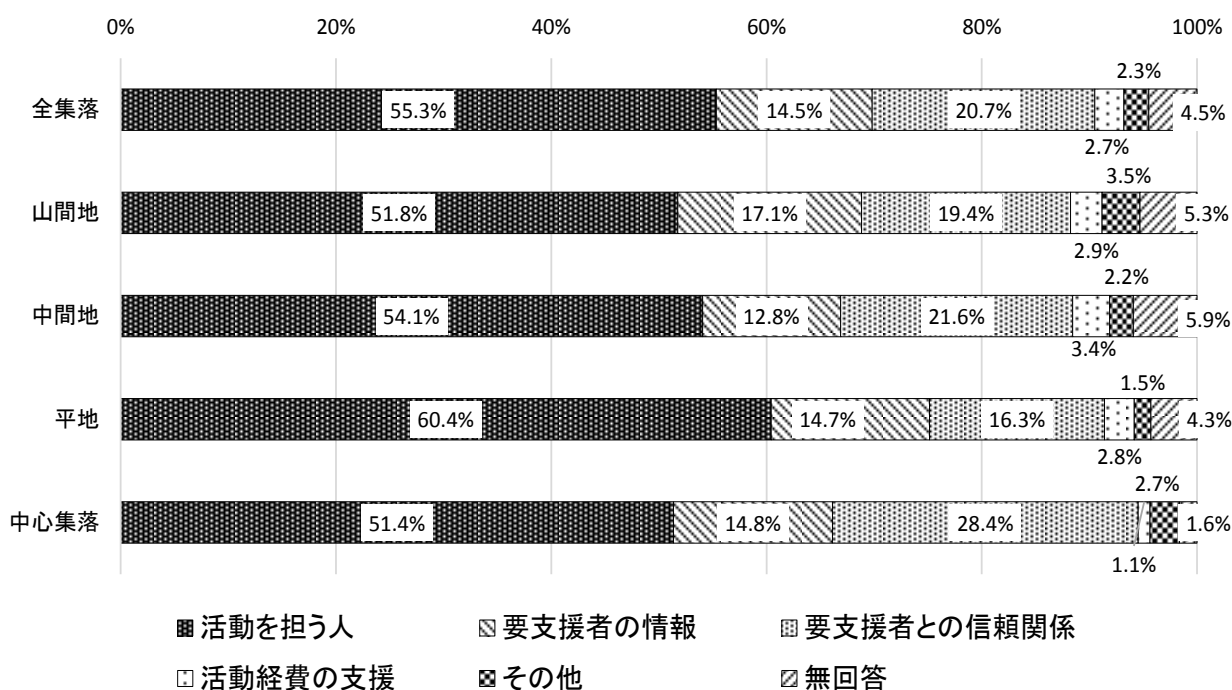
全集落内において、「活動を担う人」が55.3%と最も高く、次いで「要支援者との信頼関係」が20.7%、「要支援者の情報」が14.5%となった。(図表 10-1)

地域区分別に見ると、全地域区分において、「活動を担う人」が50%以上と高く、次いで「要支援者との信頼関係」、「要支援者の情報」の順となった。(図表 10-1)

世帯規模別に見ると、全規模において、「活動を担う人」が50%前後と高く、次いで「要支援者との信頼関係」、「要支援者の情報」の順となった。(図表 10-2)

図表 10-1 高齢者安否確認の継続に必要なもの(地域区分別)

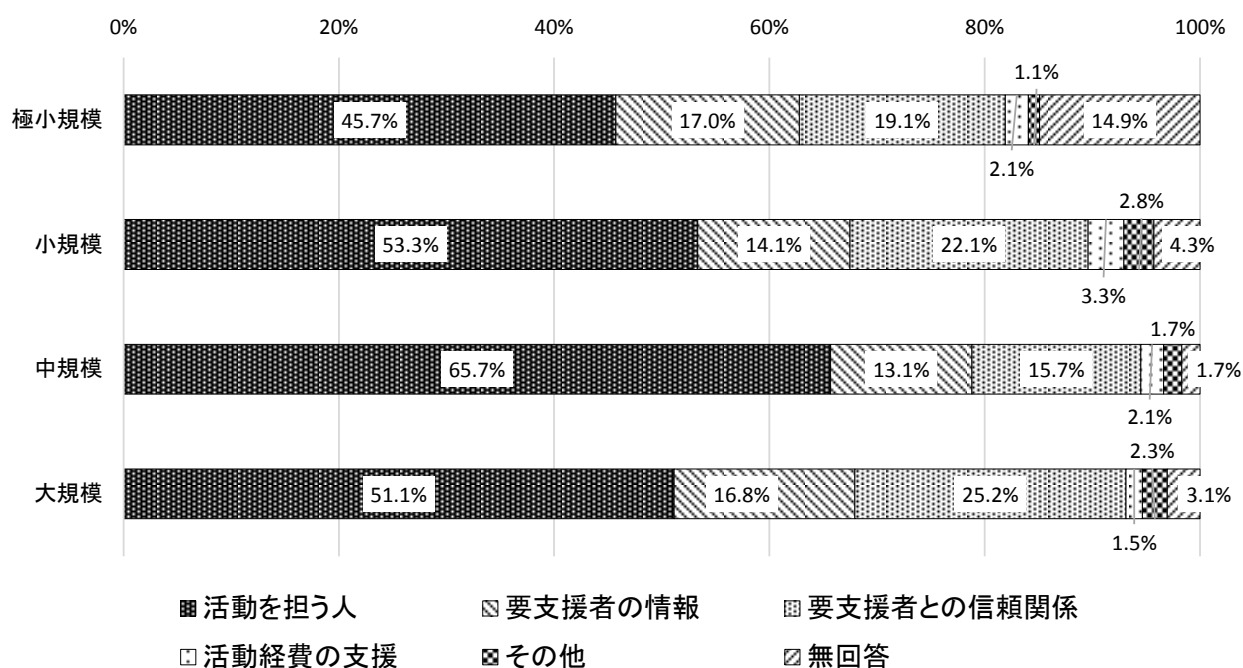
N=1,001



※全集落には地域区分不明分も含む

	全集落		内 訳							
			山間地		中間地		平地		中心集落	
	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合
活動を担う人	554	55.3%	88	51.8%	173	54.1%	197	60.4%	94	51.4%
要支援者の情報	145	14.5%	29	17.1%	41	12.8%	48	14.7%	27	14.8%
要支援者との信頼関係	207	20.7%	33	19.4%	69	21.6%	53	16.3%	52	28.4%
活動経費の支援	27	2.7%	5	2.9%	11	3.4%	9	2.8%	2	1.1%
その他	23	2.3%	6	3.5%	7	2.2%	5	1.5%	5	2.7%
無回答	45	4.5%	9	5.3%	19	5.9%	14	4.3%	3	1.6%
回答数合計	1,001		170		320		326		183	

図表 10-2 高齢者安否確認の継続に必要なもの(世帯規模別)



	極小規模		小規模		中規模		大規模	
	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合
活動を担う人	43	45.7%	287	53.3%	155	65.7%	67	51.1%
要支援者の情報	16	17.0%	76	14.1%	31	13.1%	22	16.8%
要支援者との信頼関係	18	19.1%	119	22.1%	37	15.7%	33	25.2%
活動経費の支援	2	2.1%	18	3.3%	5	2.1%	2	1.5%
その他	1	1.1%	15	2.8%	4	1.7%	3	2.3%
無回答	14	14.9%	23	4.3%	4	1.7%	4	3.1%
回答数合計	94		538		236		131	

【その他の項目】

- ・近所や地域の見守り(3件)
- ・遠方監視装置等の先端技術の充実(3件)
- ・民生委員などの公的役員のほか、隣近所の人(2件)
- ・新聞・電気水道代などの集金・検針員等の連携(2件)
- ・毎月一度は集会所に集まる活動
- ・家族の見守り
- ・市からの調査・配布(受け取り確認)要請
- ・当集落の実施内容
- ・選択項目の全て
- ・地方自治と自治会の連携
- ・近隣住民と町内会、町との連携
- ・一人暮らしではないが、日中家に居る方の心がけ次第

【集落の魅力や誇りについて】

問 11 集落に対する愛着や誇りについて（個人的感想）

全集落内において、「多少感じる」が 48.3%と最も高く、次いで「強く感じる」が 38.4%の一方で、「感じない」は 7.2%と低い値となった。（図表 11-1）

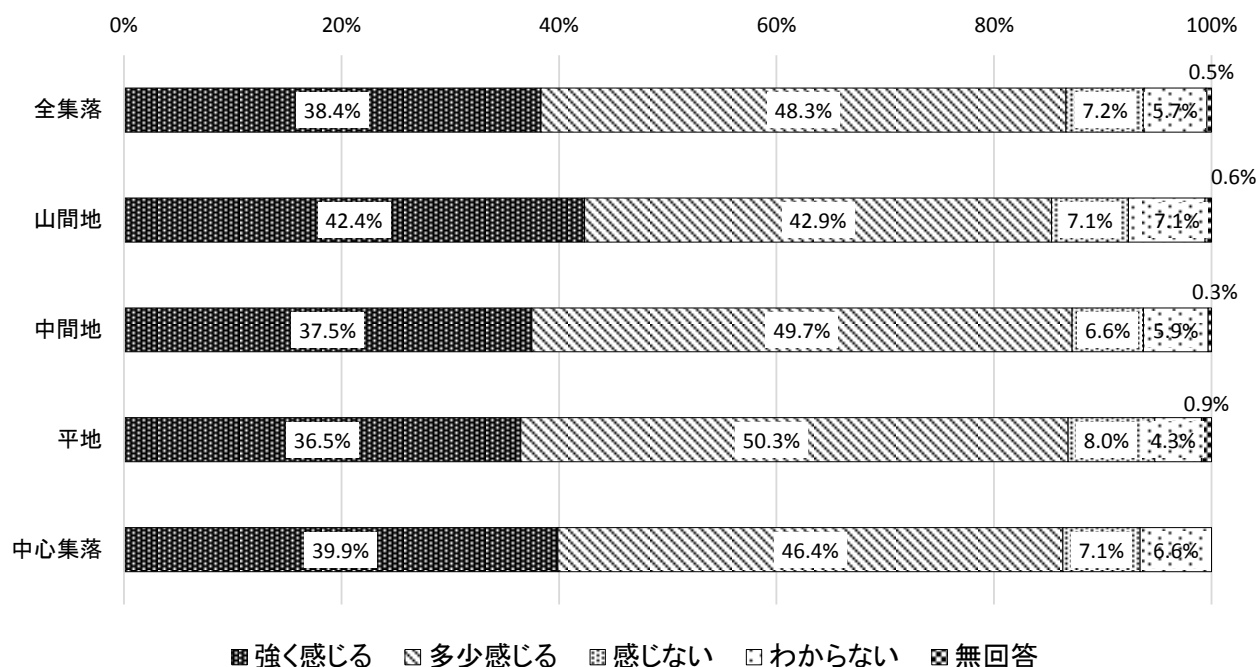
地域区分別、世帯規模別に見ると、全地域区分、全規模において、「強く感じる」、「多少感じる」の合計が 80.0%を越える高い値となった。（図表 11-1）（図表 11-2）

自治会長等経験年数に見ると、経験年数が長くなるほど「強く感じる」の値が高くなった。（図 11-3）

回答者の年代別に見ると、年代が高いほど、「強く感じる」の値が高くなった。（図 11-4）

図表 11-1 集落に対する愛着や誇り（地域区分別）

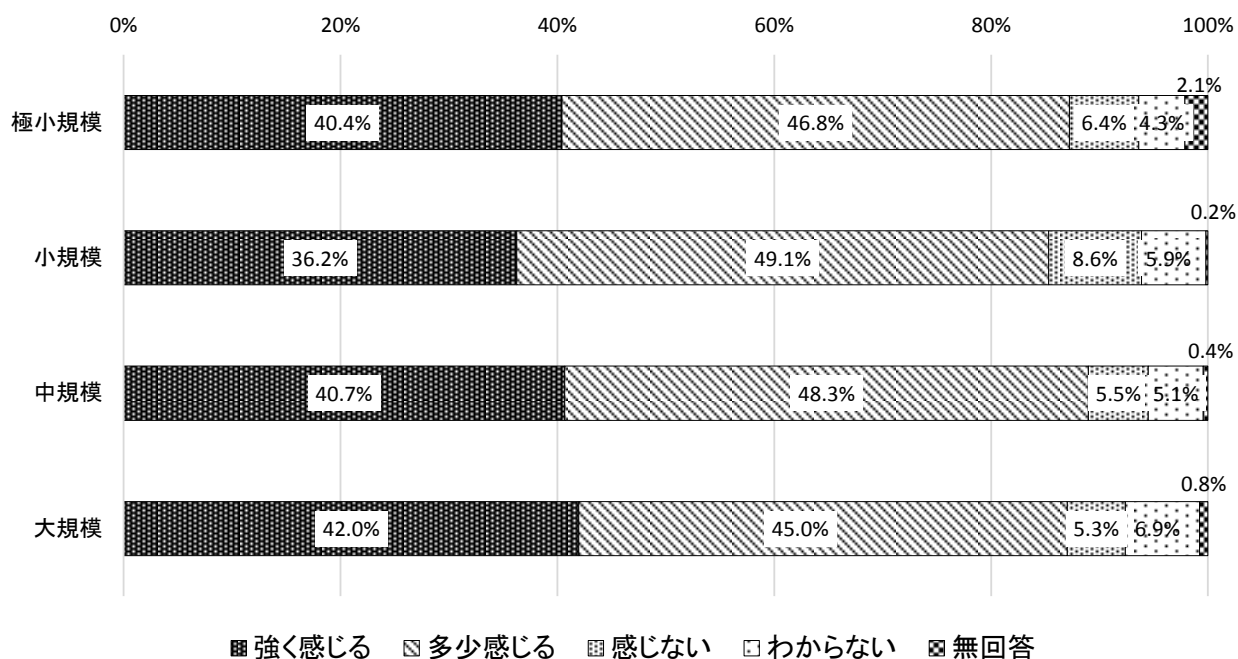
N=1,001



※全集落には地域区分不明分も含む

	全集落		内 訳							
			山間地		中間地		平地		中心集落	
	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合
強く感じる	384	38.4%	72	42.4%	120	37.5%	119	36.5%	73	39.9%
多少感じる	483	48.3%	73	42.9%	159	49.7%	164	50.3%	85	46.4%
感じない	72	7.2%	12	7.1%	21	6.6%	26	8.0%	13	7.1%
わからない	57	5.7%	12	7.1%	19	5.9%	14	4.3%	12	6.6%
無回答	5	0.5%	1	0.6%	1	0.3%	3	0.9%	0	0.0%
回答数合計	1,001		170		320		326		183	

図表 11-2 集落に対する愛着や誇り(世帯規模別)



	極小規模		小規模		中規模		大規模	
	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合
強く感じる	38	40.4%	195	36.2%	96	40.7%	55	42.0%
多少感じる	44	46.8%	264	49.1%	114	48.3%	59	45.0%
感じない	6	6.4%	46	8.6%	13	5.5%	7	5.3%
わからない	4	4.3%	32	5.9%	12	5.1%	9	6.9%
無回答	2	2.1%	1	0.2%	1	0.4%	1	0.8%
回答数合計	94		538		236		131	

図 11-3 集落に対する愛着や誇り(自治会長等経験年数別)

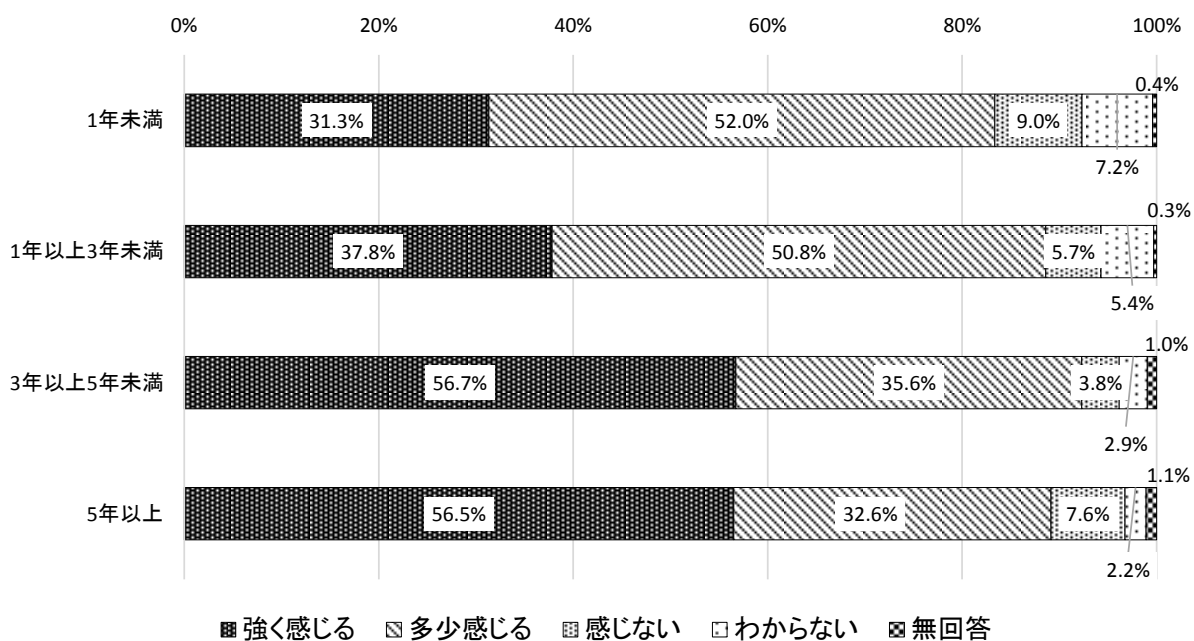
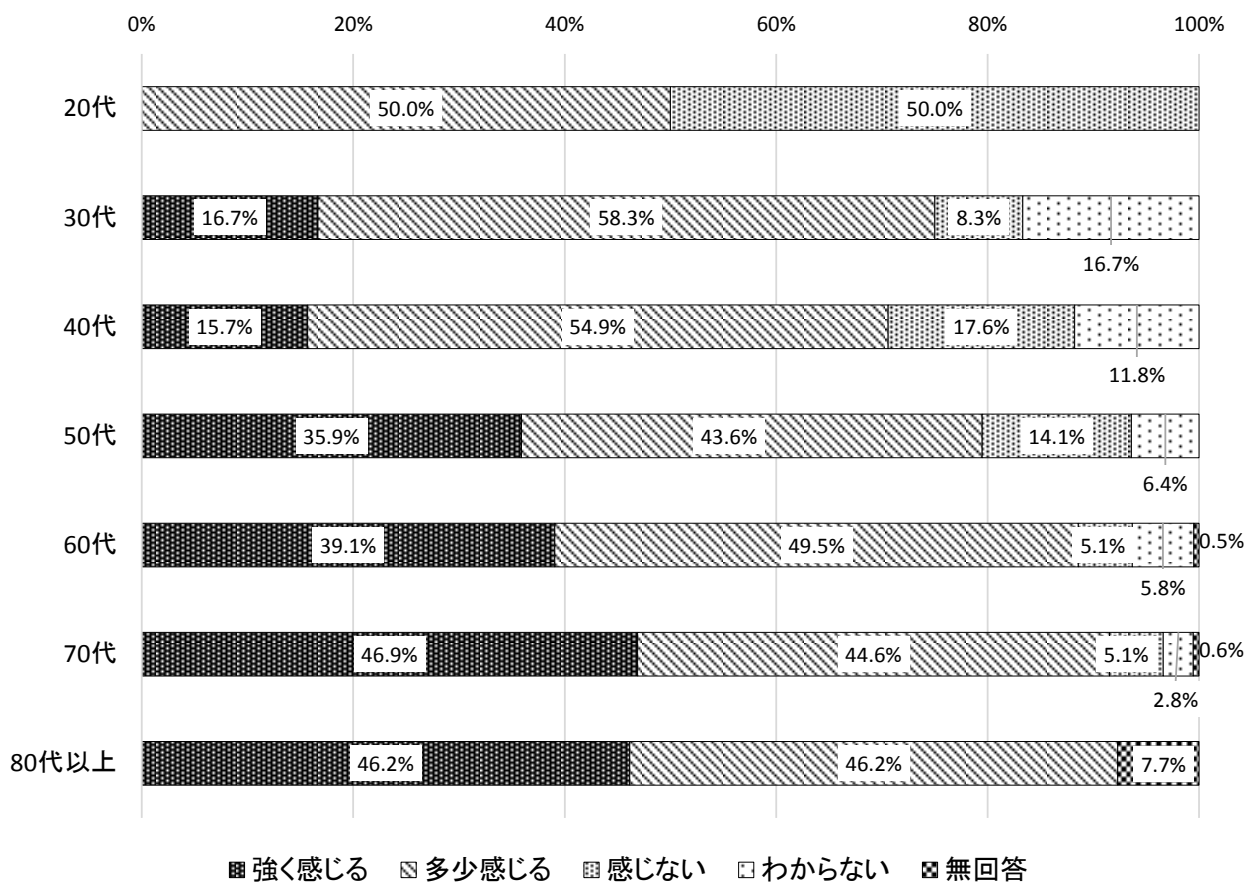


図 11-4 集落に対する愛着や誇り(回答者年代別)



問 12 集落において誇れるものや自慢できるものについて

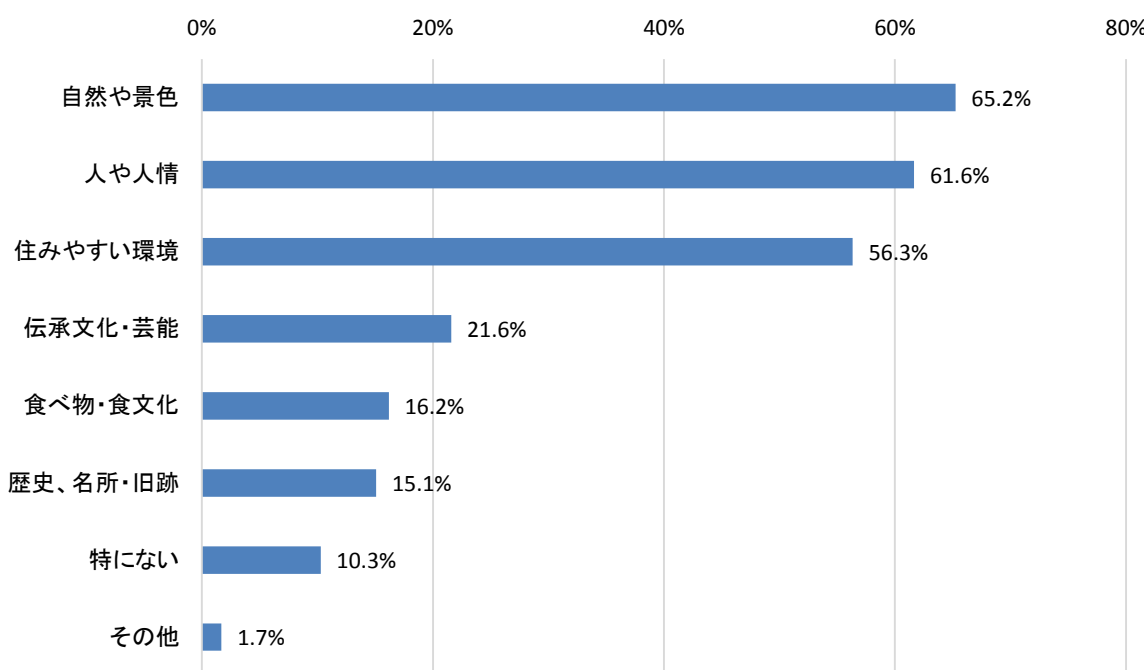
全集落内において、「自然や景色」が 65.2%と最も高く、次いで「人や人情」が 61.6%、「住みやすい環境」56.3%となった。(図 12-1)

地域区分別に見ると、山間地と中間地では、「自然や景色」が最も多いが、平地と中心集落では「住みやすい環境」が最も高くなった。(図表 12-2)

世帯規模別に見ると、極小規模においては、「自然や景色」が 74.5%と最も多いが、大規模においては「住みやすい環境」が 72.5%と最も高くなった。(図表 12-3)

図 12-1 集落内の自慢・誇れるもの(全集落)【MA】

N=1,001

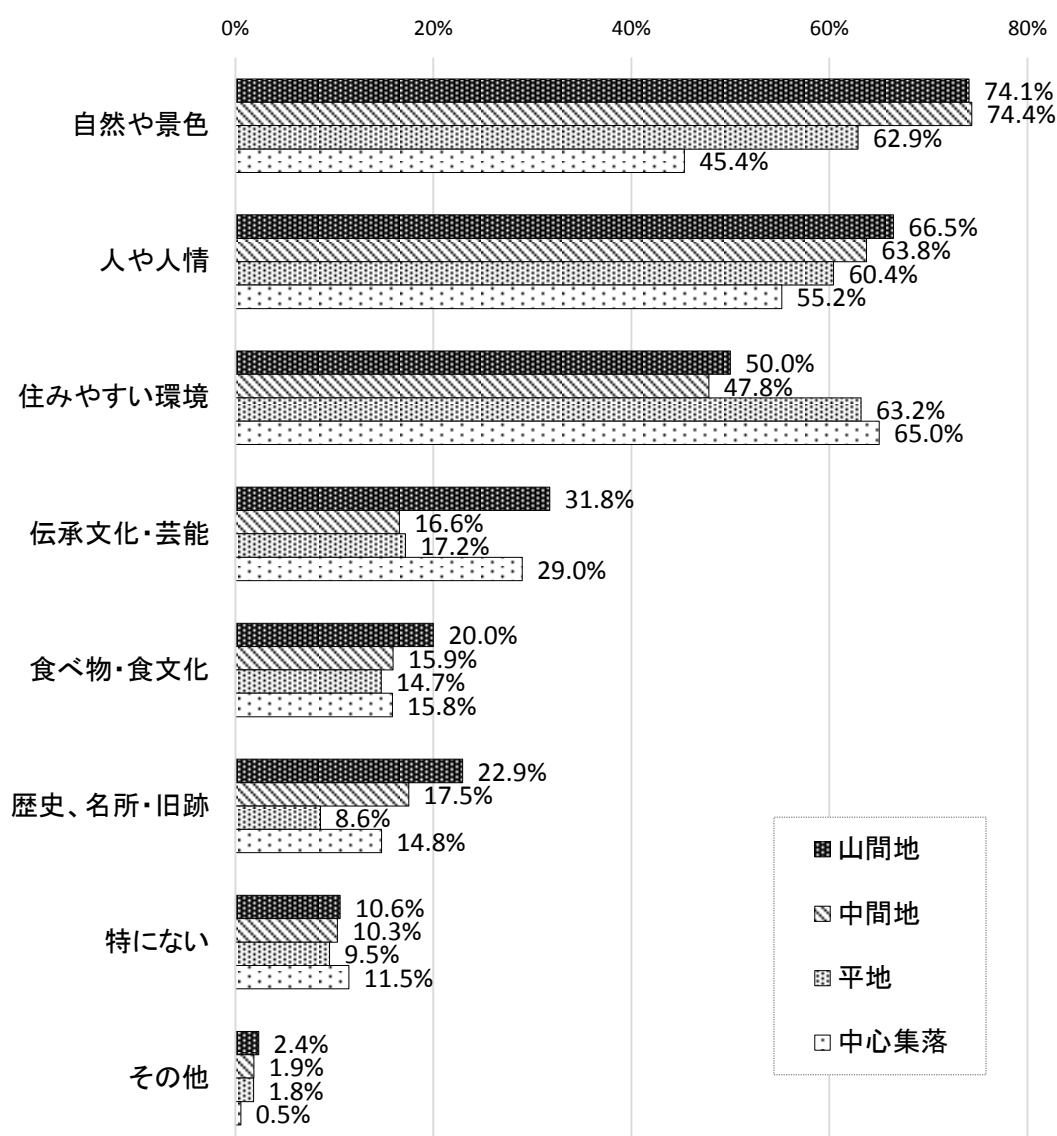


※地域区分不明分も含む

【その他の項目】

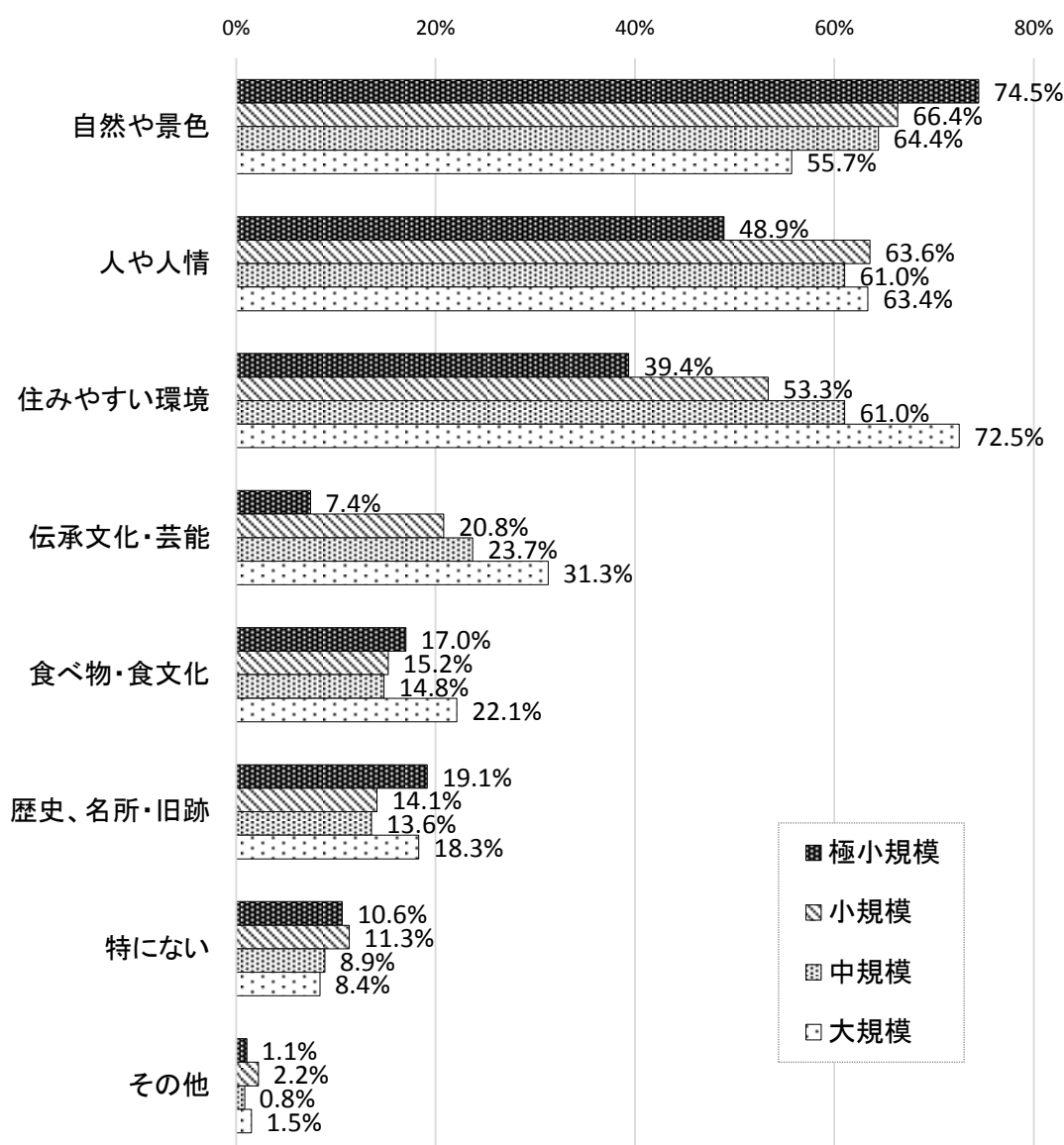
- ・毎月定例会の実施
- ・米がおいしい
- ・町内活動の継続
- ・近すぎず遠くない好奇心、関心
- ・のどかなこと

図表 12-2 集落内の自慢・誇れるもの(地域区分別)【MA】



	全集落		内 訳							
			山間地		中間地		平地		中心集落	
	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合
自然や景色	653	65.2%	126	74.1%	238	74.4%	205	62.9%	83	45.4%
人や人情	617	61.6%	113	66.5%	204	63.8%	197	60.4%	101	55.2%
住みやすい環境	564	56.3%	85	50.0%	153	47.8%	206	63.2%	119	65.0%
伝承文化・芸能	216	21.6%	54	31.8%	53	16.6%	56	17.2%	53	29.0%
食べ物・食文化	162	16.2%	34	20.0%	51	15.9%	48	14.7%	29	15.8%
歴史、名所・旧跡	151	15.1%	39	22.9%	56	17.5%	28	8.6%	27	14.8%
特にない	103	10.3%	18	10.6%	33	10.3%	31	9.5%	21	11.5%
その他	17	1.7%	4	2.4%	6	1.9%	6	1.8%	1	0.5%
実回答数	1,001		170		320		326		183	

図表 12-3 集落内の自慢・誇れるもの(世帯規模別)【MA】



	極小規模		小規模		中規模		大規模	
	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合
自然や景色	70	74.5%	357	66.4%	152	64.4%	73	55.7%
人や人情	46	48.9%	342	63.6%	144	61.0%	83	63.4%
住みやすい環境	37	39.4%	287	53.3%	144	61.0%	95	72.5%
伝承文化・芸能	7	7.4%	112	20.8%	56	23.7%	41	31.3%
食べ物・食文化	16	17.0%	82	15.2%	35	14.8%	29	22.1%
歴史、名所・旧跡	18	19.1%	76	14.1%	32	13.6%	24	18.3%
特にない	10	10.6%	61	11.3%	21	8.9%	11	8.4%
その他	1	1.1%	12	2.2%	2	0.8%	2	1.5%
実回答数	94		538		236		131	

【農業について】

問 13 集落内における地域の農業を支える担い手の有無について

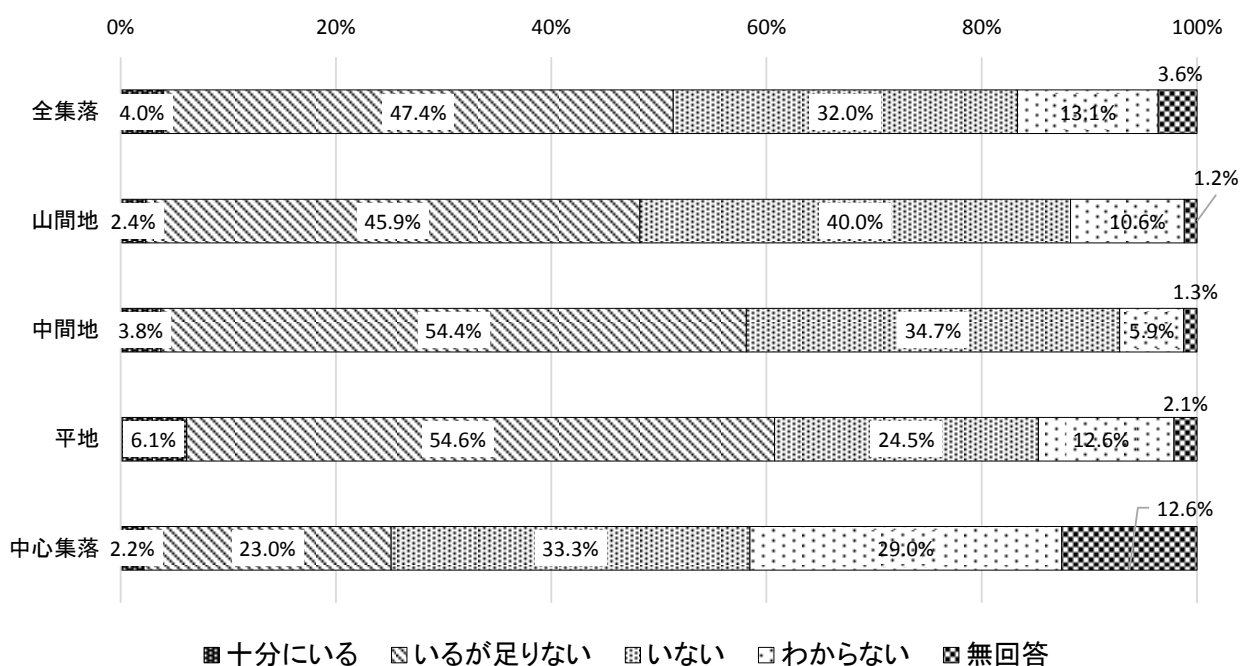
全集落内において、「いるが足りない」が 47.4%と最も高く、「いない」が 32.0%で、「十分にいる」は最も低く、わずか 4.0%となった。(図表 13-1)

地域区分別に見ると、中心集落以外において、「いるが足りない」が最も高く、次いで「いない」の順となった。(図表 13-1)

世帯規模別に見ると、極小規模において、「いない」が 53.2%と半数を超える高い値となった。(図表 13-2)

図表 13-1 地域の農業を支える担い手の有無(地域区分別)

N=1,001

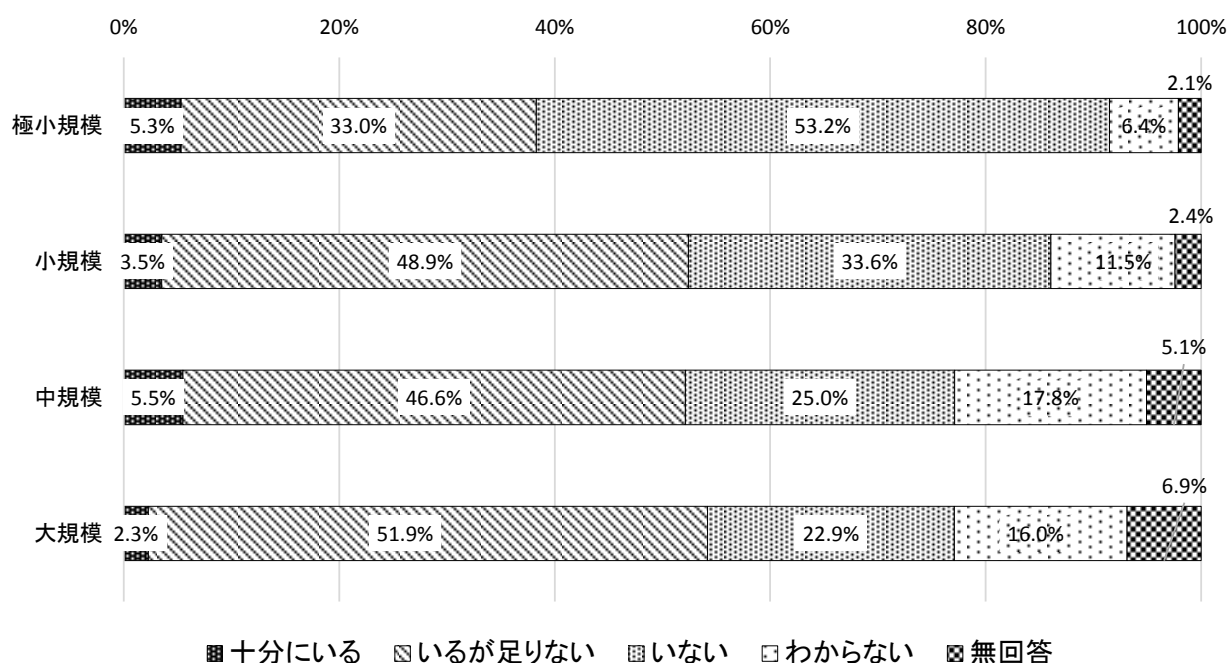


※全集落には地域区分不明分も含む

	全集落		内 訳							
	回答数	割合	山間地		中間地		平地		中心集落	
			回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合
十分にいる	40	4.0%	4	2.4%	12	3.8%	20	6.1%	4	2.2%
いるが足りない	474	47.4%	78	45.9%	174	54.4%	178	54.6%	42	23.0%
いない	320	32.0%	68	40.0%	111	34.7%	80	24.5%	61	33.3%
わからない	131	13.1%	18	10.6%	19	5.9%	41	12.6%	53	29.0%
無回答	36	3.6%	2	1.2%	4	1.3%	7	2.1%	23	12.6%
回答数合計	1,001		170		320		326		183	

図表 13-2 地域の農業を支える担い手の有無(世帯規模別)

N=1,001



	極小規模		小規模		中規模		大規模	
	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合
十分にいる	5	5.3%	19	3.5%	13	5.5%	3	2.3%
いるが足りない	31	33.0%	263	48.9%	110	46.6%	68	51.9%
いない	50	53.2%	181	33.6%	59	25.0%	30	22.9%
わからない	6	6.4%	62	11.5%	42	17.8%	21	16.0%
無回答	2	2.1%	13	2.4%	12	5.1%	9	6.9%
回答数合計	94		538		236		131	

問 14 集落における農地の維持・管理を行う人について

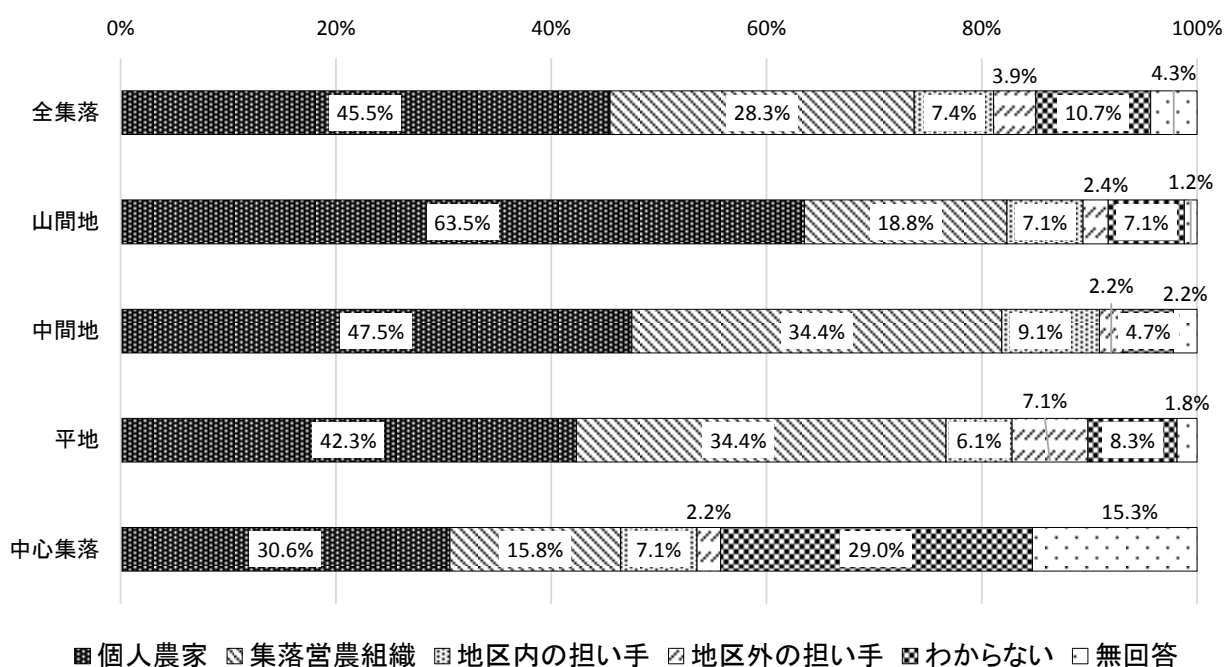
全集落内においては、「個人農業」が 45.5%と最も高く、次いで「集落営農組織」が 28.3%、「地区内の担い手」が 7.4%となった。(図表 14-1)

地域区分別に見ると、山間地において、「個人農家」が 63.5%と半数を超え、他の地域区分においても「個人農家」が最も高くなった。(図表 14-1)

世帯規模別に見ると、極小規模において、「個人農家」が 68.1%と半数を超えた。(図表 14-2)

図表 14-1 農地の維持・管理を行う人(地域区分別)

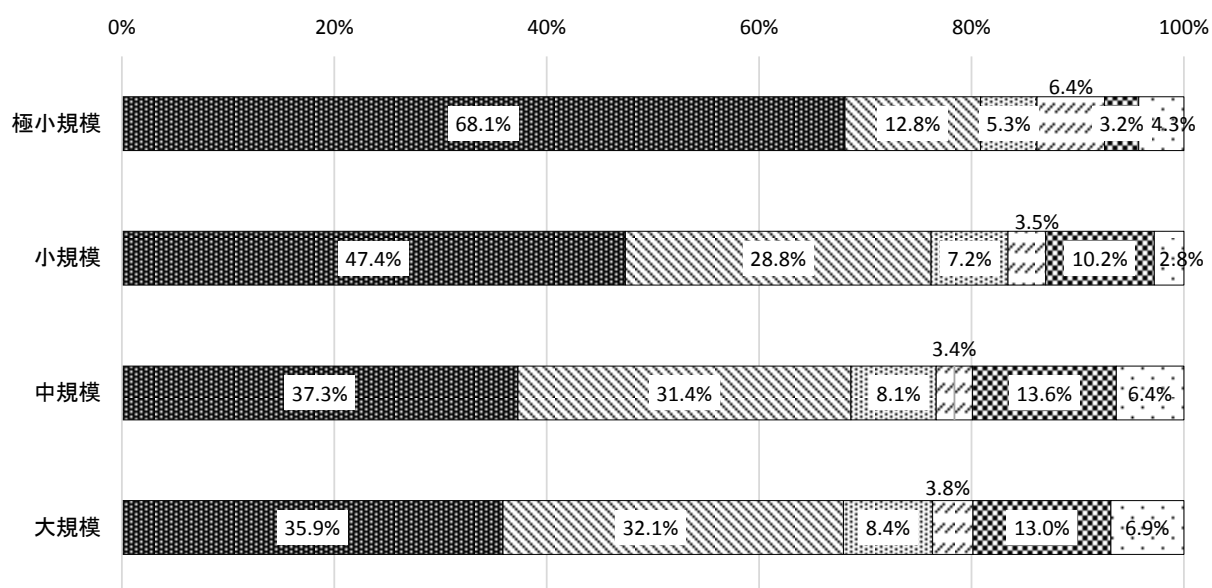
N=1,001



※全集落には地域区分不明分も含む

	全集落		内 訳							
			山間地		中間地		平地		中心集落	
	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合
個人農家	455	45.5%	108	63.5%	152	47.5%	138	42.3%	56	30.6%
集落営農組織	283	28.3%	32	18.8%	110	34.4%	112	34.4%	29	15.8%
地区内の担い手	74	7.4%	12	7.1%	29	9.1%	20	6.1%	13	7.1%
地区外の担い手	39	3.9%	4	2.4%	7	2.2%	23	7.1%	4	2.2%
わからない	107	10.7%	12	7.1%	15	4.7%	27	8.3%	53	29.0%
無回答	43	4.3%	2	1.2%	7	2.2%	6	1.8%	28	15.3%
	1,001		170		320		326		183	

図表 14-2 農地の維持・管理を行う人(世帯規模別)



■個人農家 ■集落営農組織 ■地区内の担い手 ■地区外の担い手 ■わからない □無回答

	極小規模		小規模		中規模		大規模	
	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合
個人農家	64	68.1%	255	47.4%	88	37.3%	47	35.9%
集落営農組織	12	12.8%	155	28.8%	74	31.4%	42	32.1%
地区内の担い手	5	5.3%	39	7.2%	19	8.1%	11	8.4%
地区外の担い手	6	6.4%	19	3.5%	8	3.4%	5	3.8%
わからない	3	3.2%	55	10.2%	32	13.6%	17	13.0%
無回答	4	4.3%	15	2.8%	15	6.4%	9	6.9%
回答数合計	94		538		236		131	

問 15 中山間地域の農業の維持・管理に必要なものについて

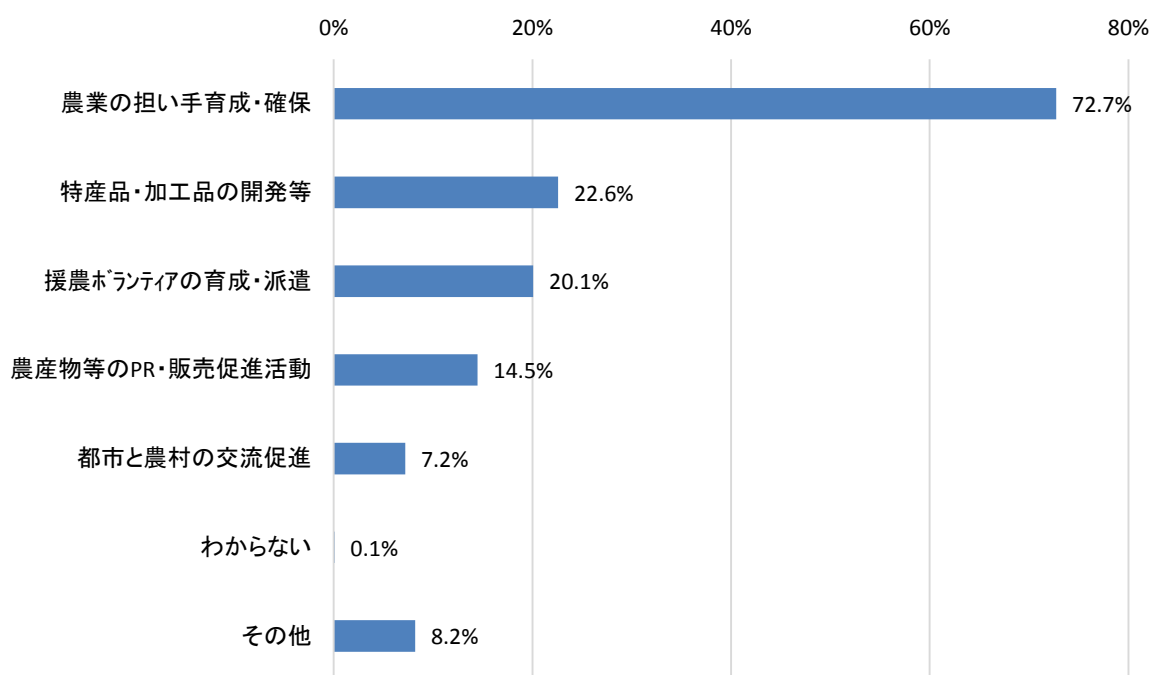
全集落内において、「農業の担い手育成・確保」が 72.7%と最も高く、次いで「特産品・加工品の開発等」が 22.6%、「援農ボランティアの育成・派遣」が 20.1%となった。(図 15-1)

地域区分別に見ると、全地域区分において、「農業の担い手育成・確保」が最も高く、中心集落を除いて 70%以上の高い割合となった。(図表 15-2)

世帯規模別に見ると、全世帯規模において、「農業の担い手育成・確保」が最も高くなった。(図表 15-3)

図 15-1 農業の維持・管理に必要なもの(全集落)【MA】

N=1,001

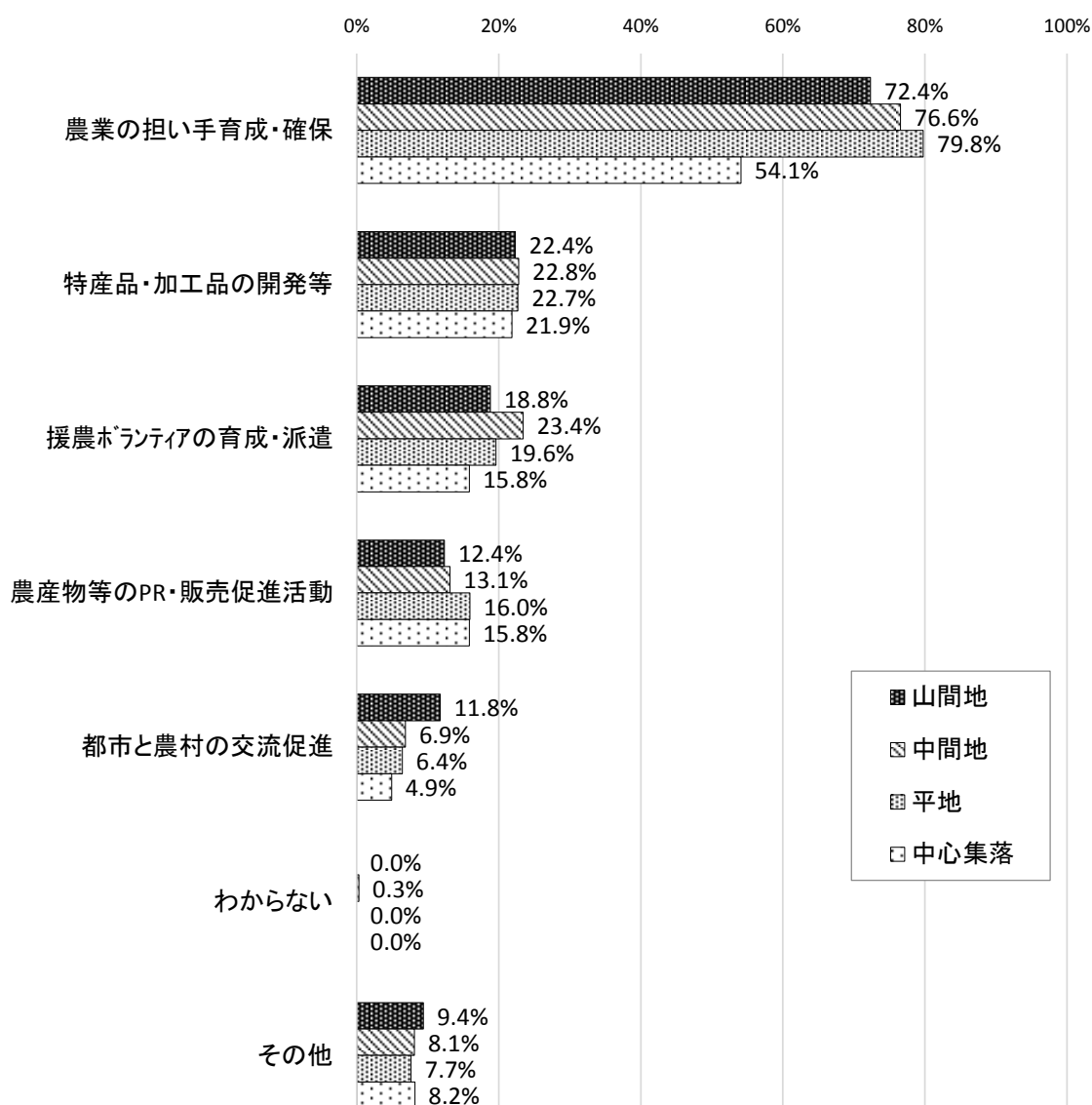


※地域区分不明分も含む

【その他の項目】

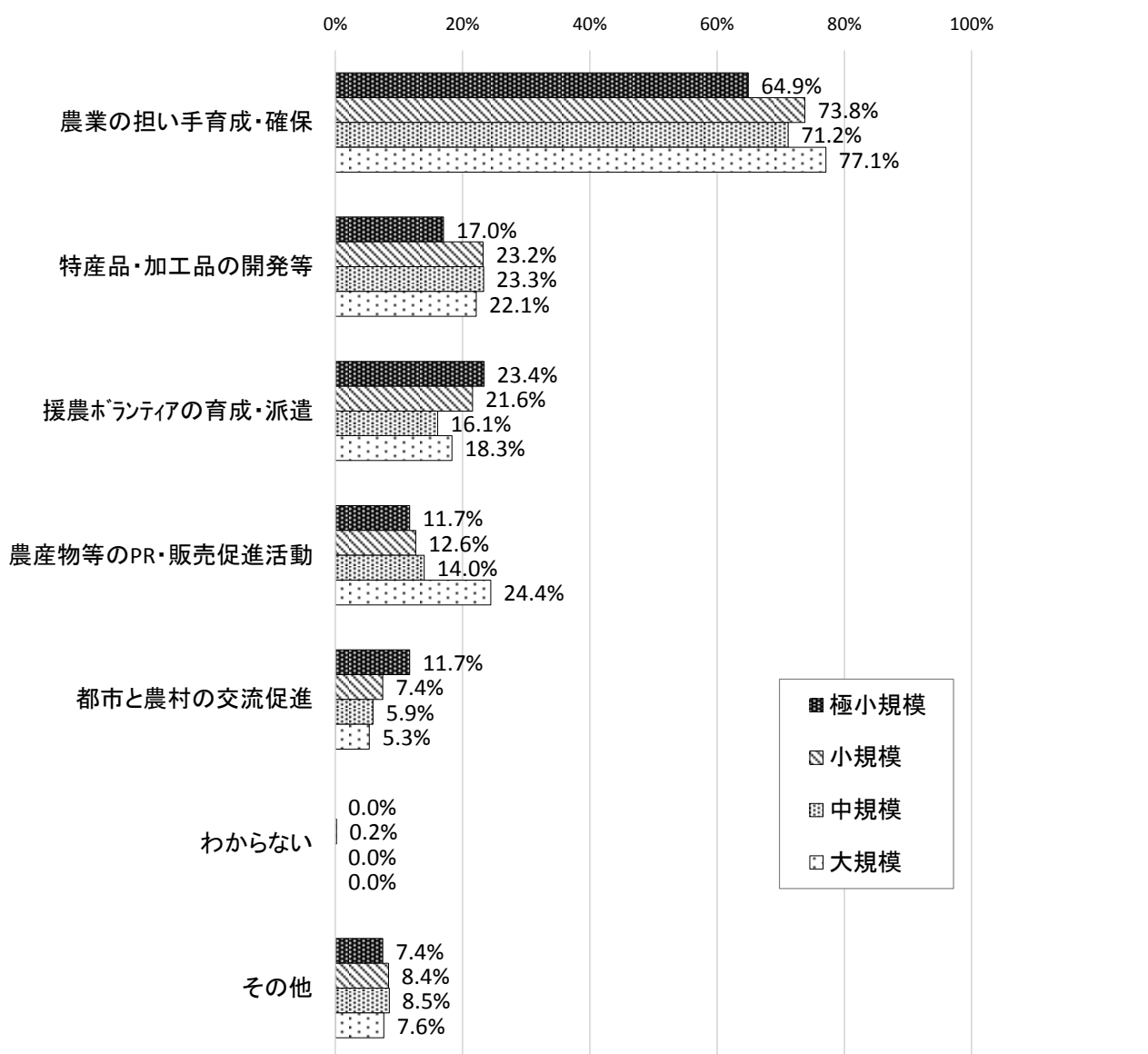
- ・農業用施設の維持費用の軽減または、行政による支援(18件)
- ・農業収入アップの支援、指導(14件)
- ・有害鳥獣の対策(11件)
- ・農業用水の保全、費用面を含めた維持管理(5件)
- ・育休があるように、農業休があると良い
- ・農業に対して希望が持てる施策
- ・米が安くなり、維持が難しくなってきた
- ・昔のような3世代同居
- ・人口減少と高齢化で農業の将来が見通せない
- ・集落営農検討中である(アンケート調査済)
- ・市内に安定した職場の確保(人口流出を防ぐ)
- ・基本的に不可能
- ・適地適作物・農業に条件が合わないところは林業へ
- ・政府が農業をつぶすようにしている
- ・この町で農業を振興する必要はない
- ・農地の維持が精一杯でそれ以外の形は見えない
- ・農業を放棄する人が80名以上となった
- ・集落に人が居ない
- ・地域性のある作物の導入
- ・集落内のコミュニケーション

図表 15-2 農業の維持・管理に必要なもの(地域区分別)【MA】



	全集落		内 訳							
			山間地		中間地		平地		中心集落	
	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合
農業の担い手育成・確保	728	72.7%	123	72.4%	245	76.6%	260	79.8%	99	54.1%
特産品・加工品の開発等	226	22.6%	38	22.4%	73	22.8%	74	22.7%	40	21.9%
援農ボランティアの育成・派遣	201	20.1%	32	18.8%	75	23.4%	64	19.6%	29	15.8%
農産物等のPR・販売促進活動	145	14.5%	21	12.4%	42	13.1%	52	16.0%	29	15.8%
都市と農村の交流促進	72	7.2%	20	11.8%	22	6.9%	21	6.4%	9	4.9%
わからない	1	0.1%	0	0.0%	1	0.3%	0	0.0%	0	0.0%
その他	82	8.2%	16	9.4%	26	8.1%	25	7.7%	15	8.2%
実回答数	1,001		170		320		326		183	

図表 15-3 農業の維持・管理に必要なもの(世帯規模別)【MA】



	極小規模		小規模		中規模		大規模	
	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合
農業の担い手育成・確保	61	64.9%	397	73.8%	168	71.2%	101	77.1%
特産品・加工品の開発等	16	17.0%	125	23.2%	55	23.3%	29	22.1%
援農ボランティアの育成・派遣	22	23.4%	116	21.6%	38	16.1%	24	18.3%
農産物等のPR・販売促進活動	11	11.7%	68	12.6%	33	14.0%	32	24.4%
都市と農村の交流促進	11	11.7%	40	7.4%	14	5.9%	7	5.3%
わからない	0	0.0%	1	0.2%	0	0.0%	0	0.0%
その他	7	7.4%	45	8.4%	20	8.5%	10	7.6%
実回答数	94		538		236		131	

【集落の活動について】

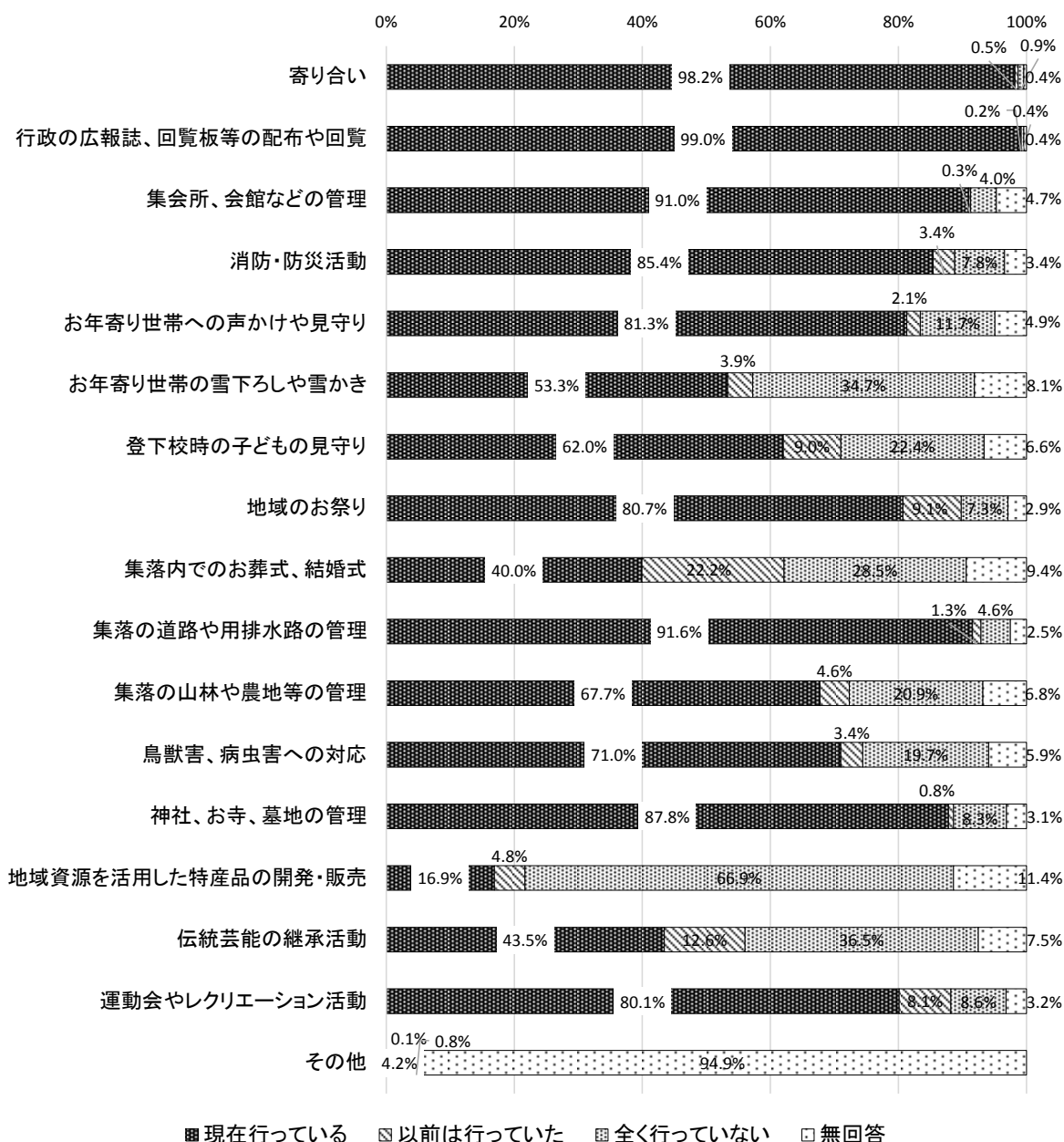
問 16 地域の活動内容の実施の有無について

全集落内において行っている活動内容は、「行政の広報誌、回覧板等の配布や回覧」が 99.0%と最も高く、次いで「寄り合い」が 98.2%、「集落の道路や用排水路の管理」が 91.6%となった。以前は行っていたが現在は行っていない活動内容は、「集落内でのお葬式、結婚式」が 22.2%と最も高く、次いで「伝統芸能の継承活動」が 12.6%となった。全く行っていない活動内容は、「地域資源を活用した特産品の開発・販売」が、66.9%と最も高くなった。

(図 16-1)、(表 16-1)

図 16-1 地域の活動内容実施の有無(全集落)

N=1,001



※地域区分不明分も含む

Ⅱ 調査結果

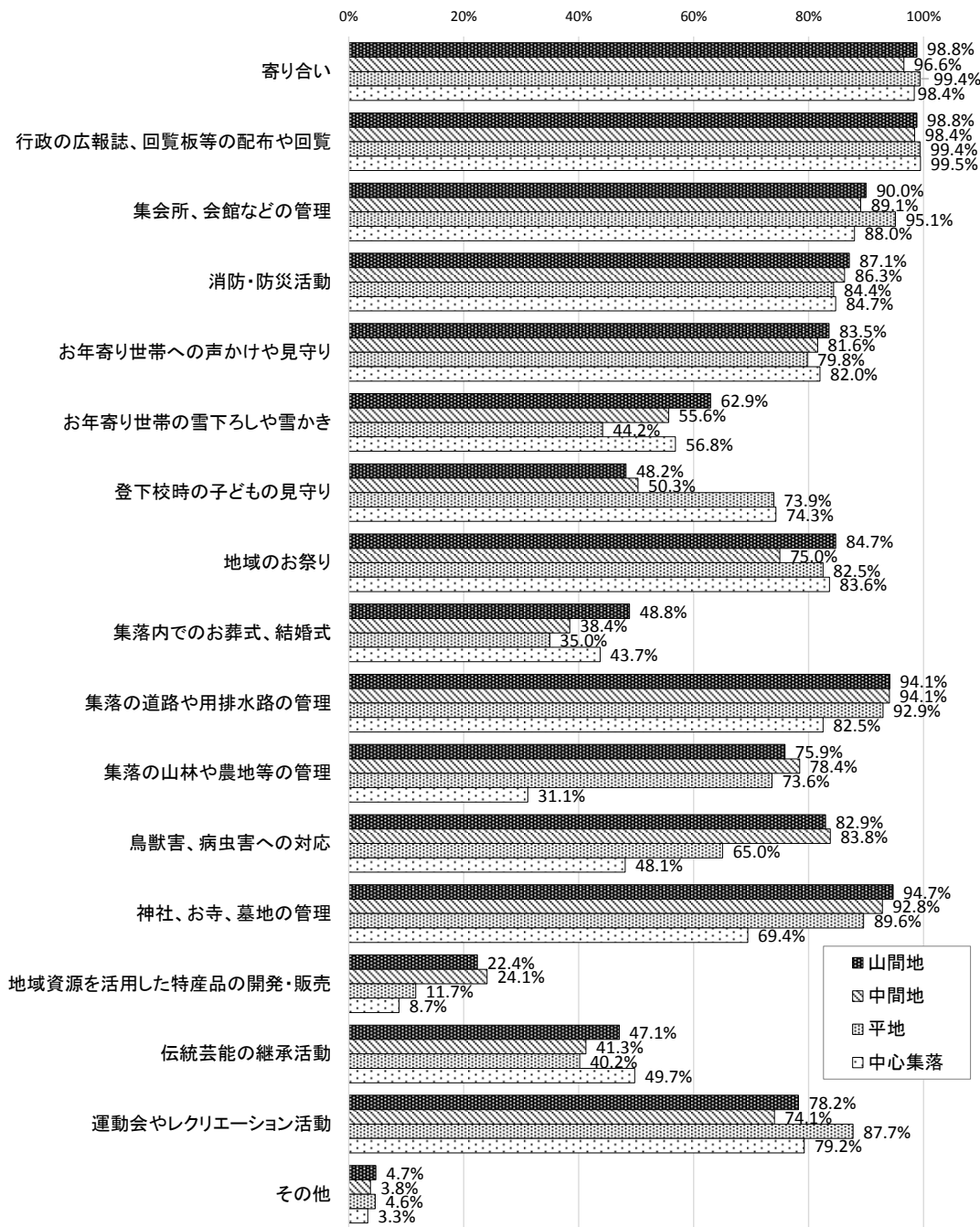
表 16-1 地域の活動内容実施の有無(全集落)

	現在行っている		以前は行っていた		全く行っていない		無回答	
	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合
寄り合い	983	98.2%	5	0.5%	9	0.9%	4	0.4%
行政の広報誌、回覧板等の配布や回覧	991	99.0%	2	0.2%	4	0.4%	4	0.4%
集会所、会館などの管理	911	91.0%	3	0.3%	40	4.0%	47	4.7%
消防・防災活動	855	85.4%	34	3.4%	78	7.8%	34	3.4%
お年寄り世帯への声かけや見守り	814	81.3%	21	2.1%	117	11.7%	49	4.9%
お年寄り世帯の雪下ろしや雪かき	534	53.3%	39	3.9%	347	34.7%	81	8.1%
登下校時の子どもの見守り	621	62.0%	90	9.0%	224	22.4%	66	6.6%
地域のお祭り	808	80.7%	91	9.1%	73	7.3%	29	2.9%
集落内でのお葬式、結婚式	400	40.0%	222	22.2%	285	28.5%	94	9.4%
集落の道路や用排水路の管理	917	91.6%	13	1.3%	46	4.6%	25	2.5%
集落の山林や農地等の管理	678	67.7%	46	4.6%	209	20.9%	68	6.8%
鳥獣害、病虫害への対応	711	71.0%	34	3.4%	197	19.7%	59	5.9%
神社、お寺、墓地の管理	879	87.8%	8	0.8%	83	8.3%	31	3.1%
地域資源を活用した特産品の開発・販売	169	16.9%	48	4.8%	670	66.9%	114	11.4%
伝統芸能の継承活動	435	43.5%	126	12.6%	365	36.5%	75	7.5%
運動会やレクリエーション活動	802	80.1%	81	8.1%	86	8.6%	32	3.2%
その他	42	4.2%	1	0.1%	8	0.8%	950	94.9%

表 16-2 地域の活動内容を「現在行っている」と回答した内訳(地域区分別)

	内 訳							
	山間地		中間地		平地		中心集落	
	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合
寄り合い	168	98.8%	309	96.6%	324	99.4%	180	98.4%
行政の広報誌、回覧板等の配布や回覧	168	98.8%	315	98.4%	324	99.4%	182	99.5%
集会所、会館などの管理	153	90.0%	285	89.1%	310	95.1%	161	88.0%
消防・防災活動	148	87.1%	276	86.3%	275	84.4%	155	84.7%
お年寄り世帯への声かけや見守り	142	83.5%	261	81.6%	260	79.8%	150	82.0%
お年寄り世帯の雪下ろしや雪かき	107	62.9%	178	55.6%	144	44.2%	104	56.8%
登下校時の子どもの見守り	82	48.2%	161	50.3%	241	73.9%	136	74.3%
地域のお祭り	144	84.7%	240	75.0%	269	82.5%	153	83.6%
集落内でのお葬式、結婚式	83	48.8%	123	38.4%	114	35.0%	80	43.7%
集落の道路や用排水路の管理	160	94.1%	301	94.1%	303	92.9%	151	82.5%
集落の山林や農地等の管理	129	75.9%	251	78.4%	240	73.6%	57	31.1%
鳥獣害、病虫害への対応	141	82.9%	268	83.8%	212	65.0%	88	48.1%
神社、お寺、墓地の管理	161	94.7%	297	92.8%	292	89.6%	127	69.4%
地域資源を活用した特産品の開発・販売	38	22.4%	77	24.1%	38	11.7%	16	8.7%
伝統芸能の継承活動	80	47.1%	132	41.3%	131	40.2%	91	49.7%
運動会やレクリエーション活動	133	78.2%	237	74.1%	286	87.7%	145	79.2%
その他	8	4.7%	12	3.8%	15	4.6%	6	3.3%
実回答数	170		320		326		183	

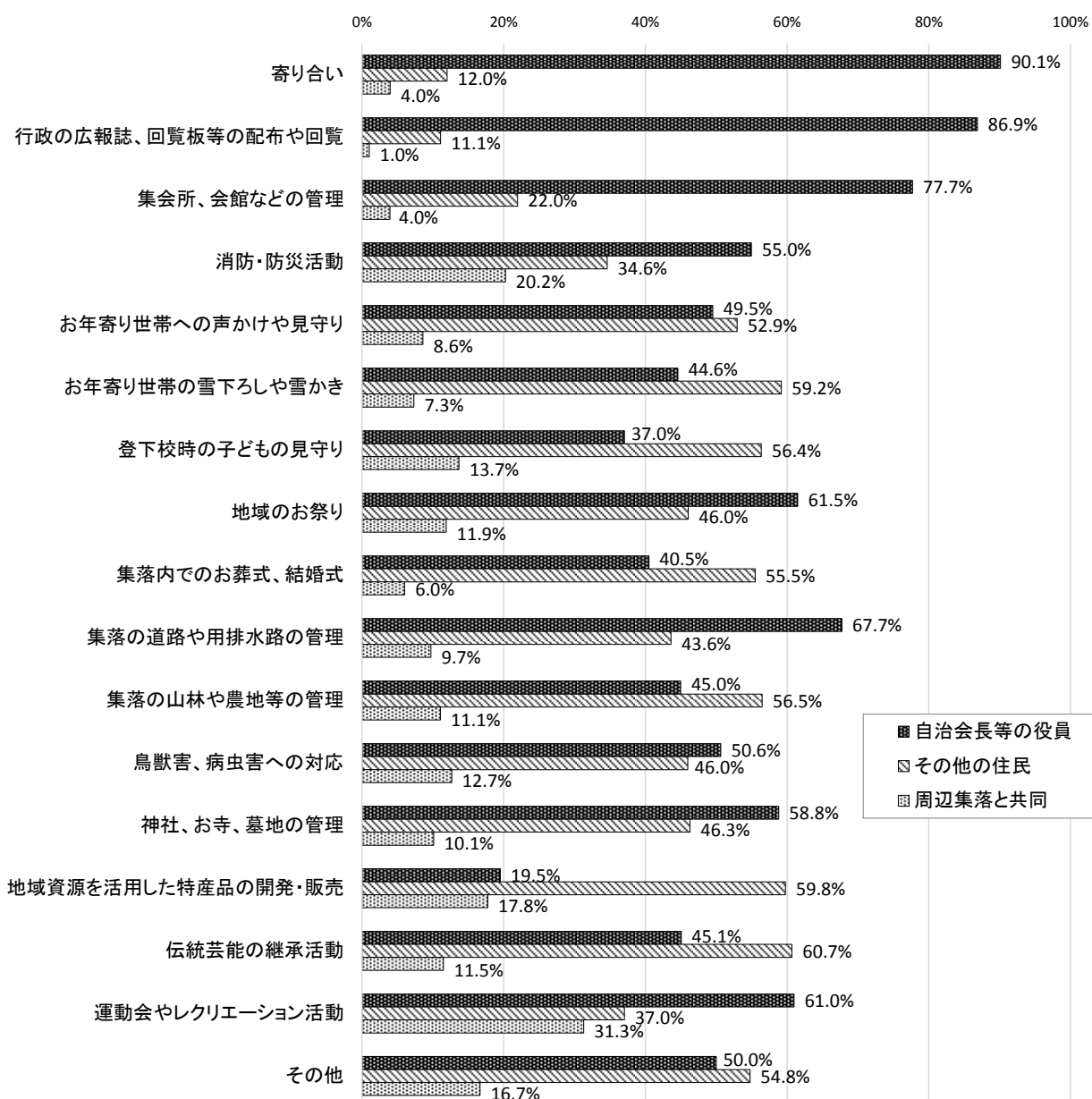
図 16-2 地域の活動内容を「現在行っている」と回答した内訳(地域区分別)



【その他の項目】

- ・道路、山林の掃除、草刈(5件)
- ・いきいきサロン(3件)
- ・敬老会、親睦会、夕涼み会(3件)
- ・環境保全活動(3件)
- ・報恩講・地藏祭(2件)
- ・老人会の活動(2件)
- ・交通安全運動活動(2件)
- ・地域づくり活動の推進(2件)
- ・たけのこ掘体験・竹灯籠作りと点火
- ・除雪協力、その他団体との協力
- ・神社前山藤の管理
- ・春祭り、火祭り、あさがお祭り
- ・移住定住促進
- ・史跡の保存
- ・営農組合の収穫感謝祭
- ・夜の防犯パトロール
- ・町との情報などの共有
- ・ゴミ分別回収

図表 16-3 地域の活動内容を「現在行っている」と回答した地域における、活動の中心人物(全集落)【MA】



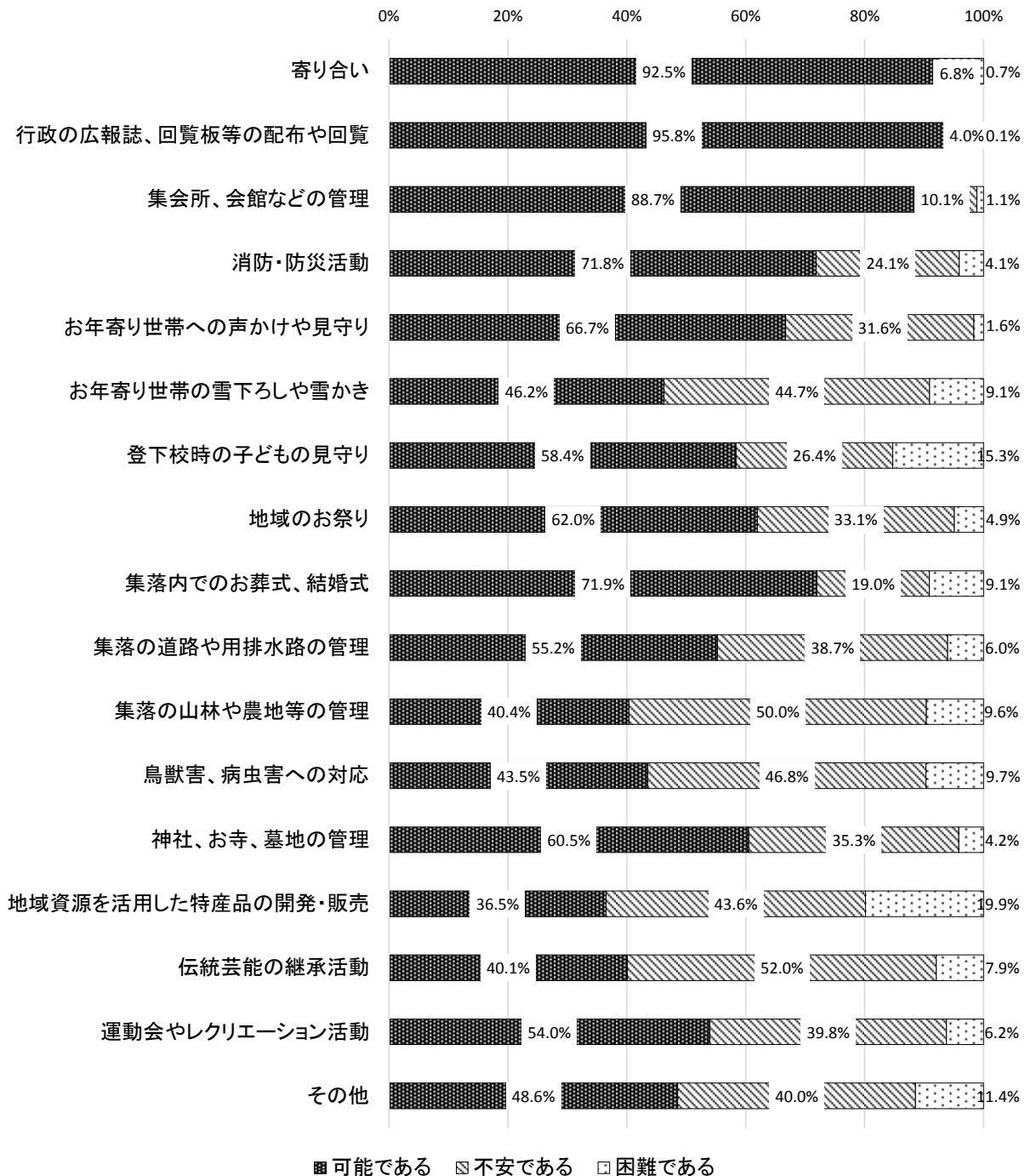
	自治会長等の役員		その他の住民		周辺集落と共同	
	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合
寄り合い	886	90.1%	118	12.0%	39	4.0%
行政の広報誌、回覧板等の配布や回覧	861	86.9%	110	11.1%	10	1.0%
集会所、会館などの管理	708	77.7%	200	22.0%	36	4.0%
消防・防災活動	470	55.0%	296	34.6%	173	20.2%
お年寄り世帯への声かけや見守り	403	49.5%	431	52.9%	70	8.6%
お年寄り世帯の雪下ろしや雪かき	238	44.6%	316	59.2%	39	7.3%
登下校時の子どもの見守り	230	37.0%	350	56.4%	85	13.7%
地域のお祭り	497	61.5%	372	46.0%	96	11.9%
集落内でのお葬式、結婚式	162	40.5%	222	55.5%	24	6.0%
集落の道路や用排水路の管理	621	67.7%	400	43.6%	89	9.7%
集落の山林や農地等の管理	305	45.0%	383	56.5%	75	11.1%
鳥獣害、病虫害への対応	360	50.6%	327	46.0%	90	12.7%
神社、お寺、墓地の管理	517	58.8%	407	46.3%	89	10.1%
地域資源を活用した特産品の開発・販売	33	19.5%	101	59.8%	30	17.8%
伝統芸能の継承活動	196	45.1%	264	60.7%	50	11.5%
運動会やレクリエーション活動	489	61.0%	297	37.0%	251	31.3%
その他	21	50.0%	23	54.8%	7	16.7%

問 17 【問 16】で「現在行っている」地域活動の継続の可能性について

前問において「現在行っている」と回答した中で、継続が可能である活動は「行政の広報誌、回覧板等の配布や回覧」が 95.8%と最も高く、次いで「寄り合い」が 92.5%となった。不安である活動は「伝統芸能の継承活動」が 52.0%と最も高く、次いで「集落の山林や農地等の管理」50.0%となった。(図 17-1)(表 17-1)

図 17-1 地域活動継続の可能性(全集落)

N=1,001



※全集落には地域区分不明分も含む

表 17-1 地域活動継続の可能性

	可能である		不安である		困難である	
	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合
寄り合い	887	92.5%	65	6.8%	7	0.7%
行政の広報誌、回覧板等の配布や回覧	923	95.8%	39	4.0%	1	0.1%
集会所、会館などの管理	788	88.7%	90	10.1%	10	1.1%
消防・防災活動	597	71.8%	200	24.1%	34	4.1%
お年寄り世帯への声かけや見守り	527	66.7%	250	31.6%	13	1.6%
お年寄り世帯の雪下ろしや雪かき	240	46.2%	232	44.7%	47	9.1%
登下校時の子どもの見守り	463	58.4%	209	26.4%	121	15.3%
地域のお祭り	479	62.0%	256	33.1%	38	4.9%
集落内でのお葬式、結婚式	277	71.9%	73	19.0%	35	9.1%
集落の道路や用排水路の管理	485	55.2%	340	38.7%	53	6.0%
集落の山林や農地等の管理	265	40.4%	328	50.0%	63	9.6%
鳥獣害、病虫害への対応	297	43.5%	319	46.8%	66	9.7%
神社、お寺、墓地の管理	509	60.5%	297	35.3%	35	4.2%
地域資源を活用した特産品の開発・販売	57	36.5%	68	43.6%	31	19.9%
伝統芸能の継承活動	172	40.1%	223	52.0%	34	7.9%
運動会やレクリエーション活動	416	54.0%	307	39.8%	48	6.2%
その他	17	48.6%	14	40.0%	4	11.4%

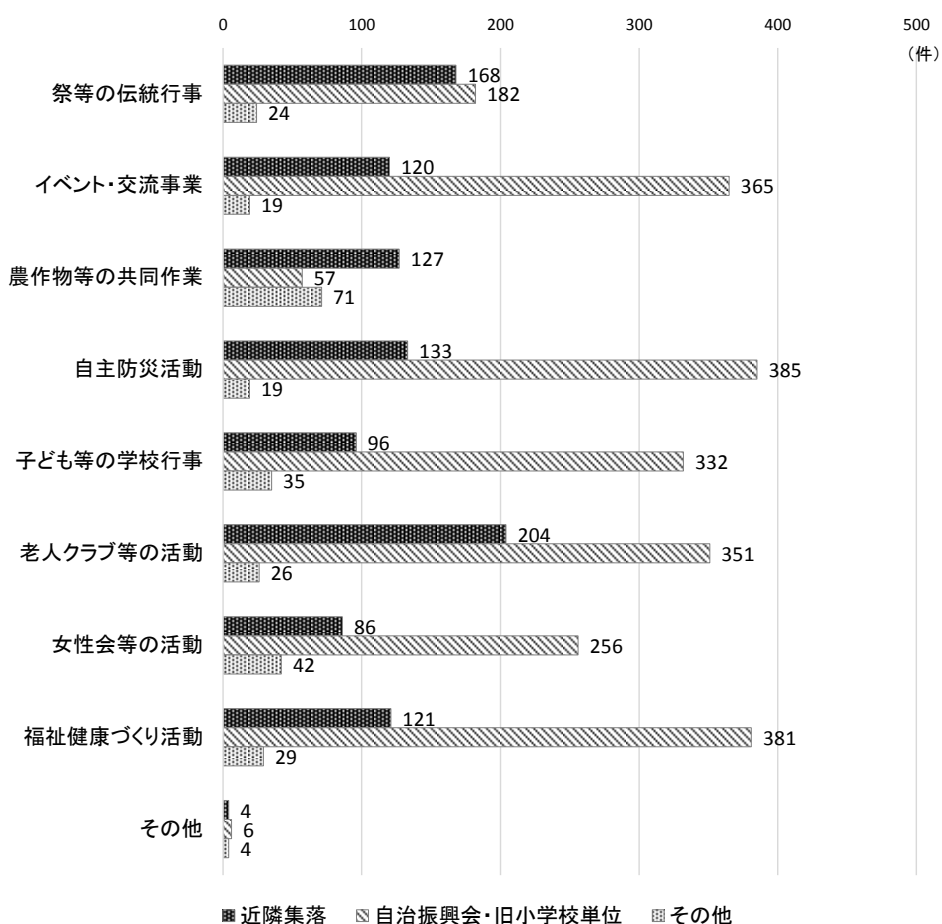
問 18 活動における近隣集落等との連携状況について（単独で実施の場合は含まない）

現在、全集落内において、近隣集落との連携における活動内容は、「老人クラブ等の活動」が 204 件と最も高く、次いで「祭等の伝統行事」が 168 件となった。「自主防災活動」、「福祉健康づくり活動」、「イベント・交流事業」、「老人クラブ等の活動」、「子ども等の学校行事」においては、自治振興会・旧小学校単位との連携において活動を実施している集落が、それぞれ 300 件以上ある。（図表 18-1）

将来における連携の意向においては、近隣集落との連携を希望する件数が、現在と比較すると、「農作物等の共同作業」では 41 件増加している一方で、「老人クラブ等の活動」は 55 件減少している。（図表 18-1）（図表 18-2）

図表 18-1 活動における連携の範囲（現在）【MA】

N=1,001



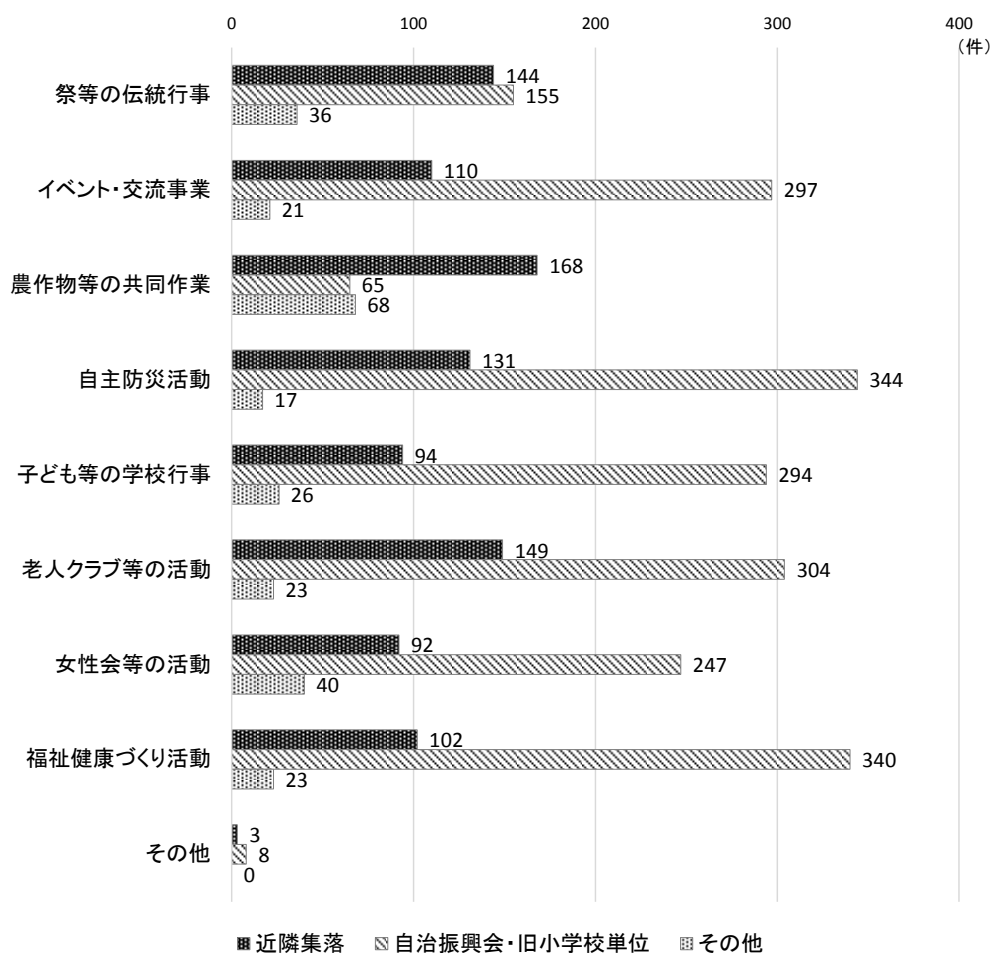
	近隣集落	自治振興会・旧小学校単位	その他
祭等の伝統行事	168	182	24
イベント・交流事業	120	365	19
農作物等の共同作業	127	57	71
自主防災活動	133	385	19
子ども等の学校行事	96	332	35
老人クラブ等の活動	204	351	26
女性会等の活動	86	256	42
福祉健康づくり活動	121	381	29
その他	4	6	4

【連携の範囲（現在）その他の項目】

- ・営農・実践組合、農業法人(3件)
- ・現小学校・中学校区単位(3件)
- ・神社単位(2件)
- ・行政(2件)
- ・縁故
- ・PTA
- ・意欲のある人

図表 18-2 活動における連携の意向・範囲(将来)【MA】

N=1,001



※地域区分不明分も含む

	近隣集落	自治振興会・旧小学校単位	その他
祭等の伝統行事	144	155	36
イベント・交流事業	110	297	21
農作物等の共同作業	168	65	68
自主防災活動	131	344	17
子ども等の学校行事	94	294	26
老人クラブ等の活動	149	304	23
女性会等の活動	92	247	40
福祉健康づくり活動	101	340	23
その他	3	8	0

【連携の範囲(将来)その他の項目】

- ・困難、見直し(5件)
- ・行政(2件)
- ・現小学校単位(2件)
- ・営農、実践組合(2件)
- ・町内会等
- ・全市

【活動内容 その他の項目】

- ・老人会
- ・子育てサロン
- ・花いっぱい運動
- ・高齢者見守り
- ・再生資源回収
- ・農地・用水保全会議

問 19 移住者の受け入れ実績（過去5年間）について

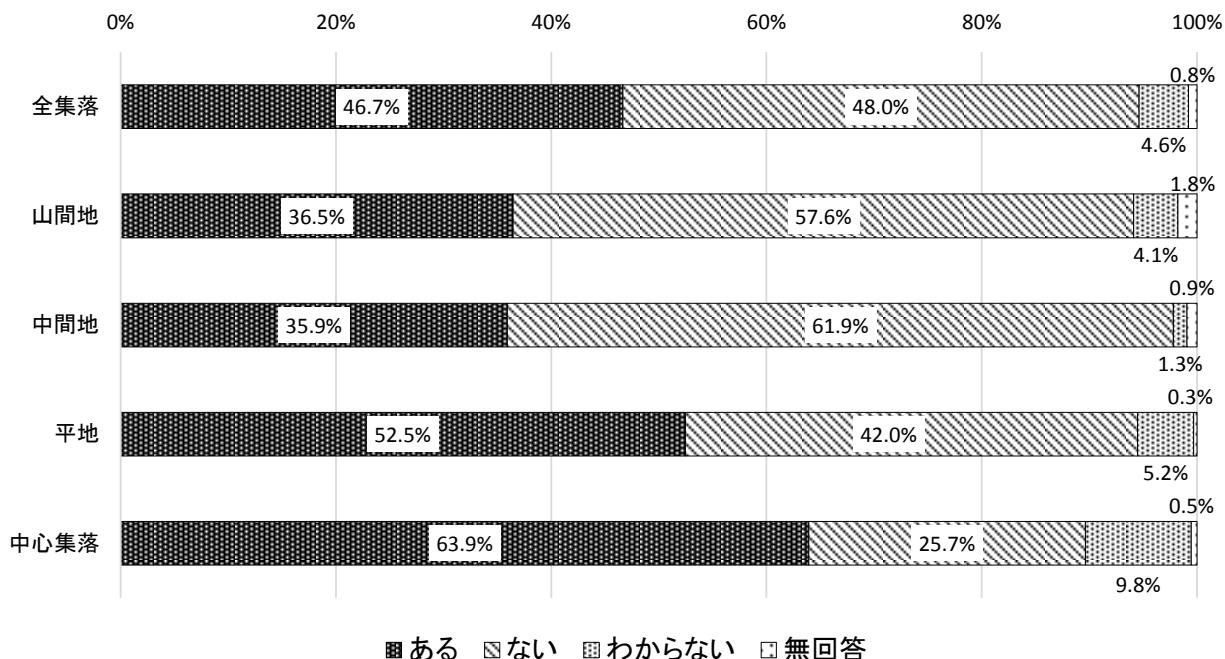
全集落内において、移住者の受け入れが「ある」は46.7%で、「ない」は48.0%となった。（図表19-1）

地域区分別に見ると、中心集落において、「ある」が63.9%と最も高く、山間地では36.5%と最も低くなった。世帯規模別に見ると、大規模において、「ある」は77.9%と最も高く、極小規模においては24.5%と最も低くなった。

（図表19-3）

図表 19-1 移住者の受け入れ実績（地域区分別）

N=1,001



※全集落には地域区分不明分も含む

	全集落		内 訳							
			山間地		中間地		平地		中心集落	
	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合
ある	467	46.7%	62	36.5%	115	35.9%	171	52.5%	117	63.9%
ない	480	48.0%	98	57.6%	198	61.9%	137	42.0%	47	25.7%
わからない	46	4.6%	7	4.1%	4	1.3%	17	5.2%	18	9.8%
無回答	8	0.8%	3	1.8%	3	0.9%	1	0.3%	1	0.5%
回答数合計	1,001		170		320		326		183	

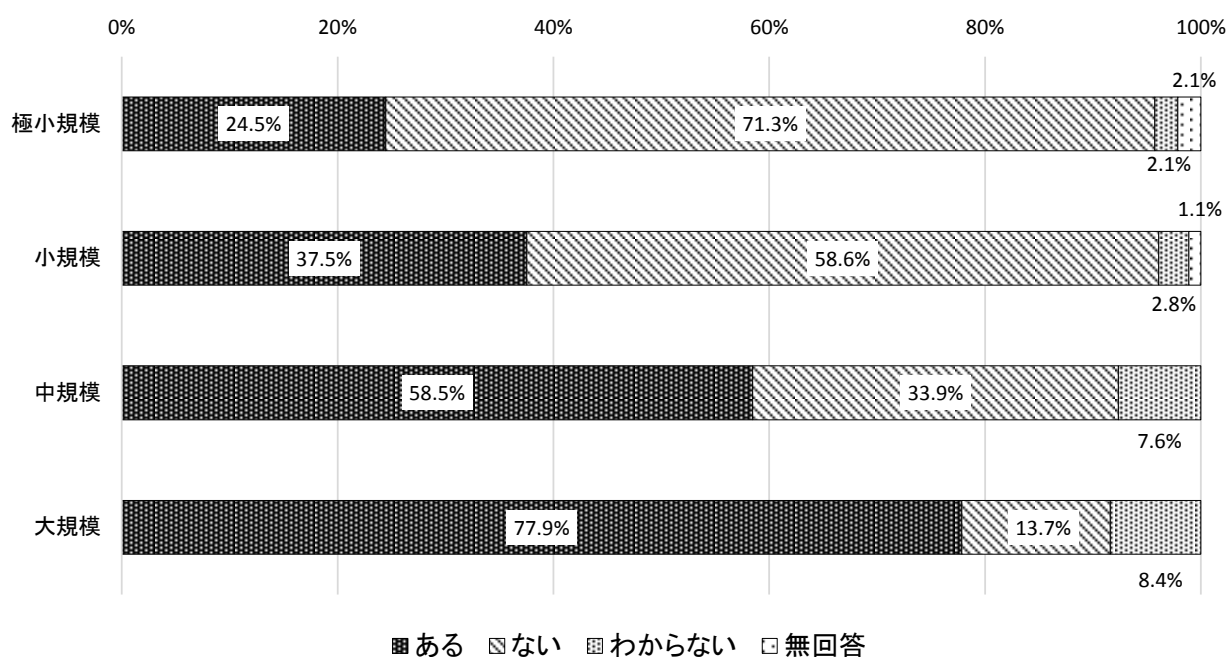
図 19-2 移住者受け入れ「あり」の受け入れ人数

	全集落		内 訳							
			山間地		中間地		平地		中心集落	
	総合計	平均	合計	平均	合計	平均	合計	平均	合計	平均
移住者受入数	2,480	5.3	187	3.0	487	4.2	1,040	6.1	754	6.4

※全集落には地域区分不明分も含む

図表 19-3 移住者の受け入れ実績(世帯規模別)

N=1,001



	極小規模		小規模		中規模		大規模	
	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合
ある	23	24.5%	202	37.5%	138	58.5%	102	77.9%
ない	67	71.3%	315	58.6%	80	33.9%	18	13.7%
わからない	2	2.1%	15	2.8%	18	7.6%	11	8.4%
無回答	2	2.1%	6	1.1%	0	0.0%	0	0.0%
回答数合計	94		538		236		131	

図 19-4 移住者受け入れ「あり」の受け入れ人数

	極小規模		小規模		中規模		大規模	
	合計	平均	合計	平均	合計	平均	合計	平均
移住者受入数	67	2.9	769	3.8	831	6.0	801	7.9

問 20 集落への移住者受け入れの可否について

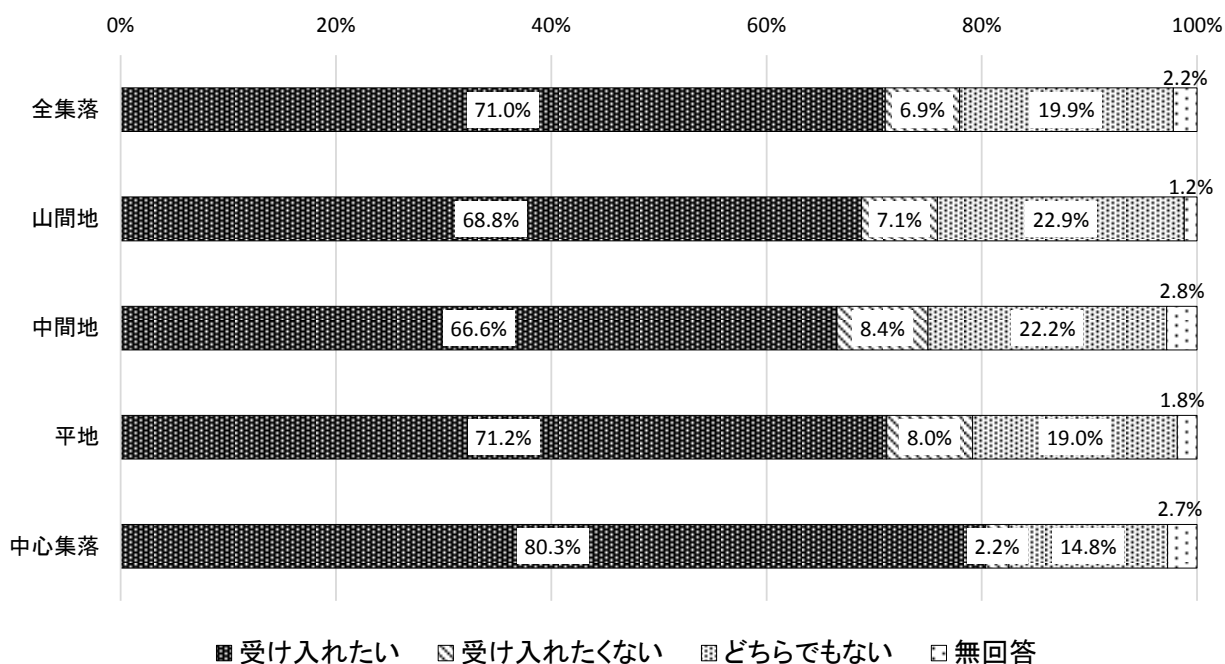
全集落内において、移住者の受け入れに関して、「受け入れたい」71.0%と最も高く、理由は「世帯が増える」が512件、「空き家の有効活用」が388件、「集落の担い手として期待」が345件の順となった。(図表 20-1)(表 20-3)

地域区分別に見ると、中心集落において、「受け入れたい」が80.3%と最も高く、それ以外の地域においても60%以上の高い割合となった。(図表 20-1)

世帯規模別に見ても、全世帯規模において、「受け入れたい」が50%以上と、最も高い。

図表 20-1 移住者の受け入れ可否(地域区分別)

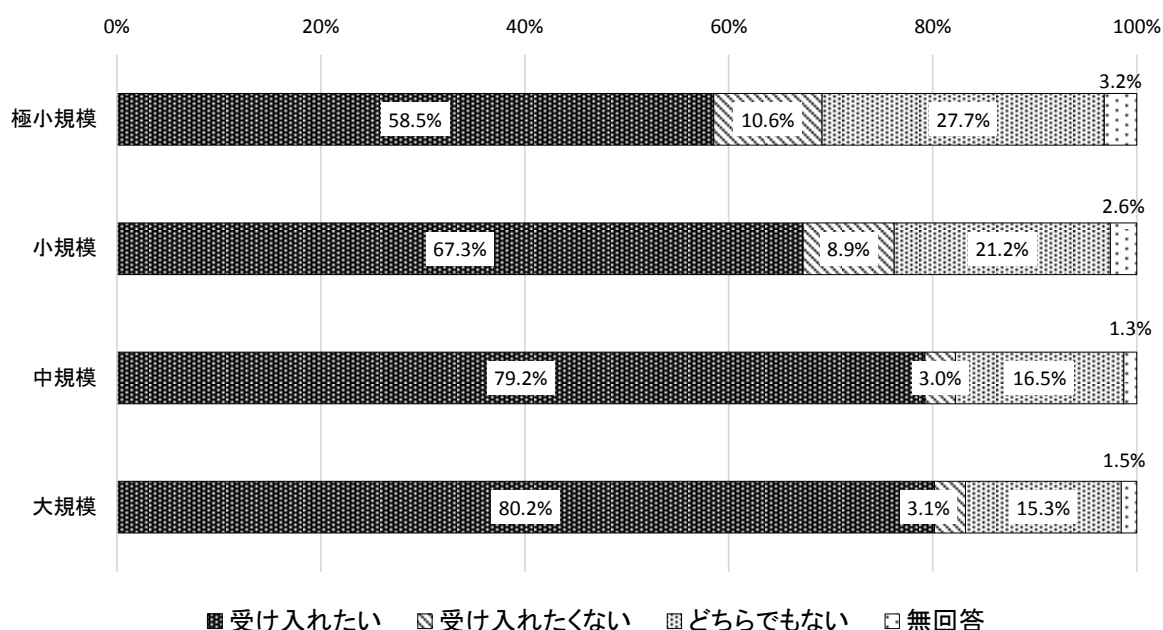
N=1,001



※全集落には地域区分不明分も含む

	全集落		内 訳							
	回答数	割合	山間地		中間地		平地		中心集落	
			回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合
受け入れたい	711	71.0%	117	68.8%	213	66.6%	232	71.2%	147	80.3%
受け入れたくない	69	6.9%	12	7.1%	27	8.4%	26	8.0%	4	2.2%
どちらでもない	199	19.9%	39	22.9%	71	22.2%	62	19.0%	27	14.8%
無回答	22	2.2%	2	1.2%	9	2.8%	6	1.8%	5	2.7%
回答数合計	1,001		170		320		326		183	

図表 20-2 移住者の受け入れ可否(世帯規模別)



	極小規模		小規模		中規模		大規模	
	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合
受け入れたい	55	58.5%	362	67.3%	187	79.2%	105	80.2%
受け入れたくない	10	10.6%	48	8.9%	7	3.0%	4	3.1%
どちらでもない	26	27.7%	114	21.2%	39	16.5%	20	15.3%
無回答	3	3.2%	14	2.6%	3	1.3%	2	1.5%
回答数合計	94		538		236		131	

表 20-3 受け入れたい理由【MA】

理由	回答数
世帯が増える	512
空き家の有効活用	388
集落の担い手として期待	345
その他	14

【受け入れたい理由 その他の項目】

- ・若手が増え地域内が活性化する(5件)
- ・若年層がいない
- ・転出者はいるが、転入希望者はいない
- ・受け入れたいが、地区役員や行事が大変
- ・地区のルールを守る条件で
- ・町内の人足
- ・良人に限る
- ・賑わいができる
- ・未使用地の活用

表 20-4 受け入れたくない理由【MA】

理由	回答数
トラブルが心配	46
見ず知らずの人への抵抗感	21
その他	9

【受け入れたくない理由 その他の項目】

- ・消滅集落のため(2件)
- ・移住者の目的にもよる
- ・入居しても地域住民と交流しない人が多い
- ・受け入れる施設がない
- ・研修生の移住者
- ・持ち主・住民であれば問題ない
- ・冬期間は住めない

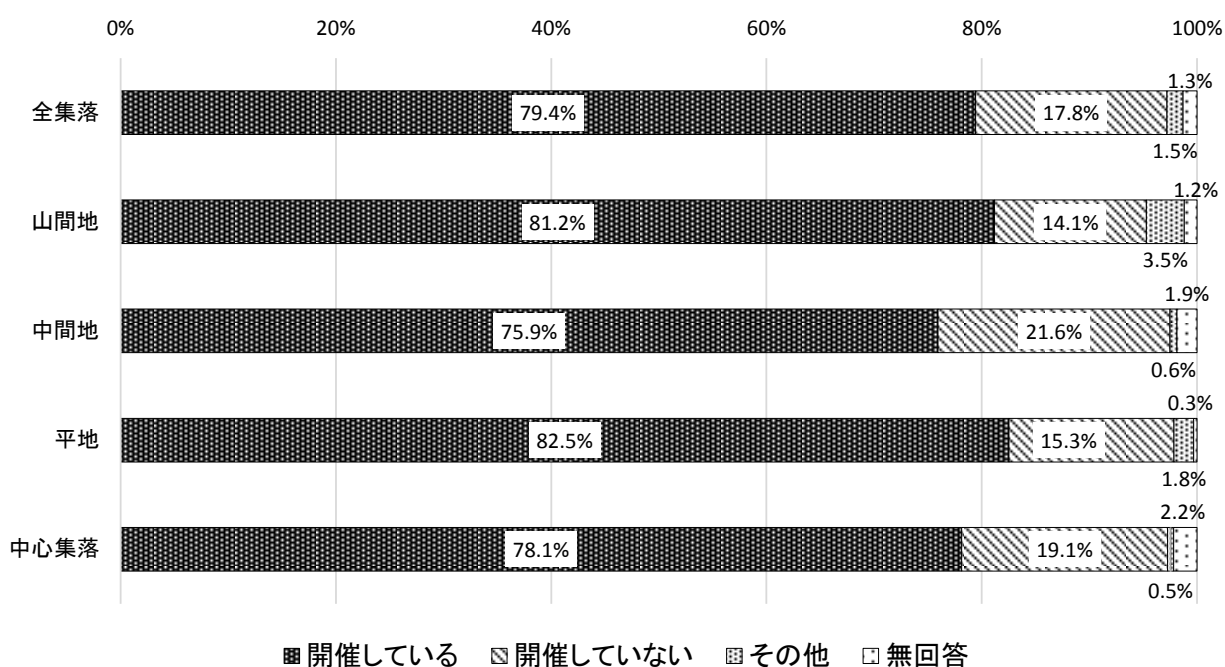
【集落（自治会）の今後について】

問 21 課題の話し合いの開催の有無について

全集落内においては、「開催している」が 79.4%と最も高く、「開催していない」は 17.8%となった。(図表 21-1)
 開催頻度は「定期的に開催」が 54.0%、「不定期に開催」が 44.8%となり、地域区分別の格差はあまりない(図 21-2)が、世帯規模別では、規模が大きくなるにつれて「開催している」割合が高い傾向にある。(図表 21-4)

図表 21-1 課題の話し合い開催の有無(地域区分別)

N=1,001



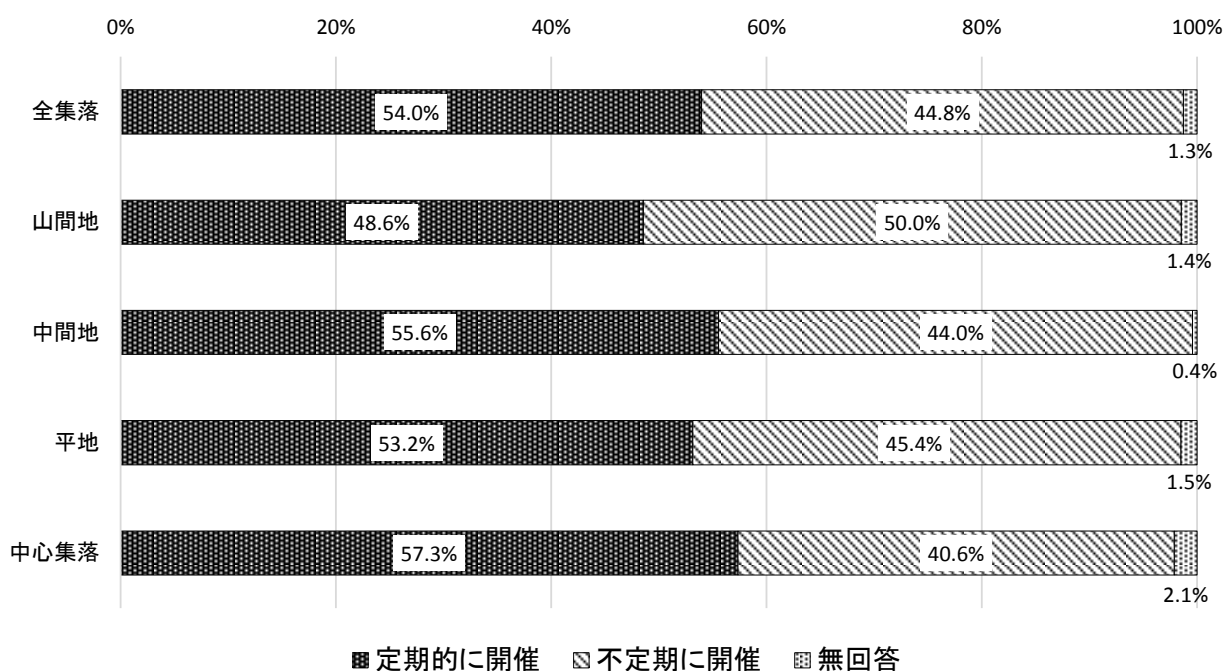
※全集落では地域区分不明分も含む

	全集落		内 訳							
			山間地		中間地		平地		中心集落	
	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合
開催している	795	79.4%	138	81.2%	243	75.9%	269	82.5%	143	78.1%
開催していない	178	17.8%	24	14.1%	69	21.6%	50	15.3%	35	19.1%
その他	15	1.5%	6	3.5%	2	0.6%	6	1.8%	1	0.5%
無回答	13	1.3%	2	1.2%	6	1.9%	1	0.3%	4	2.2%
回答数合計	1,001		170		320		326		183	

【その他の項目】

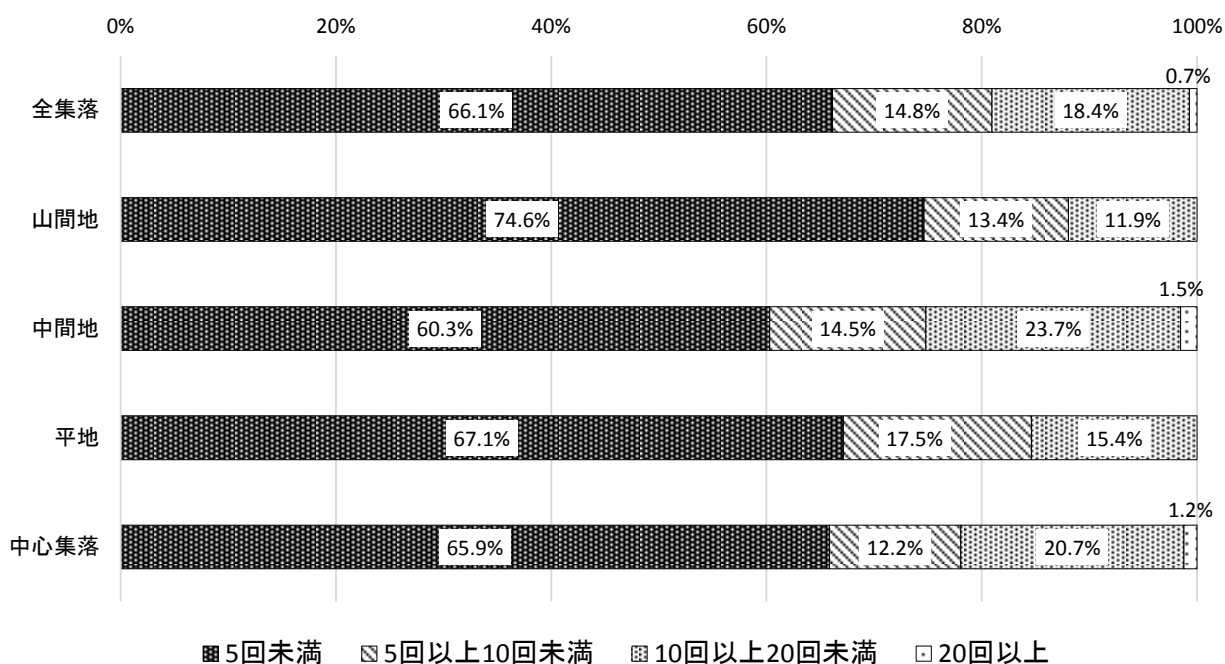
- ・役員会や会合のとき(3件)
- ・毎月集会時、課題があれば話し合いをする(2件)
- ・将来の度合いが分からない(2件)
- ・自由で多様な意見を発言しづらい雰囲気が出しづらい
- ・個人的に実施
- ・課題があれば開催する
- ・役員会や総会等で話が出るが、具体化しない
- ・来年度から小規模多機自治を開始する
- ・話題の中で出る程度
- ・人が集まらないし、提言しても話題に乗らないし進まない

図 21-2 課題の話し合い開催頻度(地域区分別)

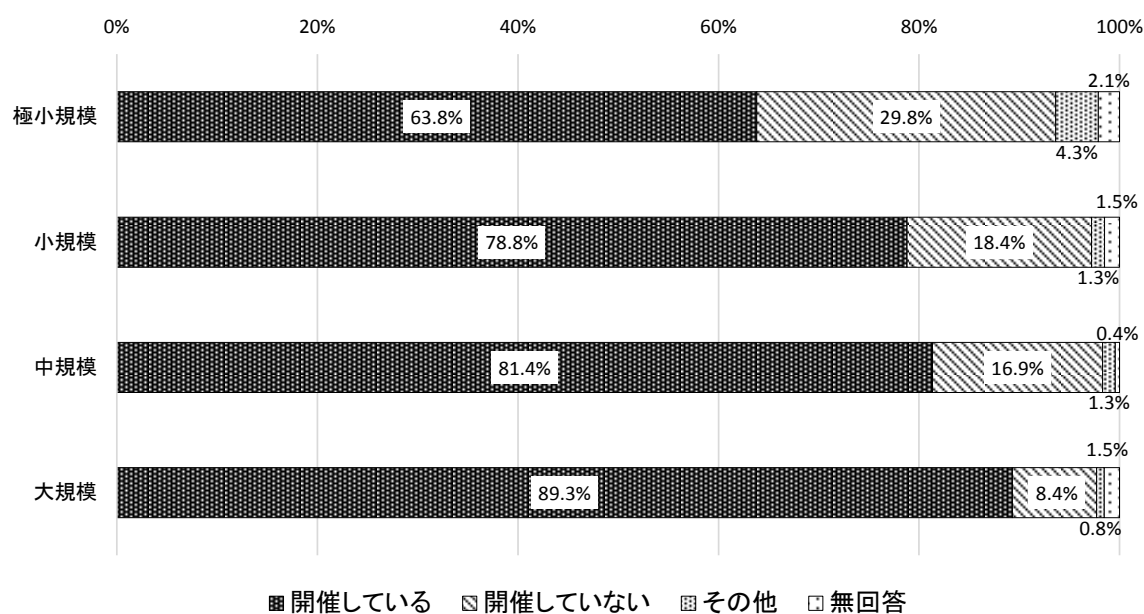


※全集落では地域区分不明分も含む

図 21-3 課題の話し合い年間開催回数(地域区分別)



図表 21-4 課題の話し合い開催の有無(世帯規模別)



	極小規模		小規模		中規模		大規模	
	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合
開催している	60	63.8%	424	78.8%	192	81.4%	117	89.3%
開催していない	28	29.8%	99	18.4%	40	16.9%	11	8.4%
その他	4	4.3%	7	1.3%	3	1.3%	1	0.8%
無回答	2	2.1%	8	1.5%	1	0.4%	2	1.5%
回答数合計	94		538		236		131	

図 21-5 課題の話し合い開催頻度(世帯規模別)

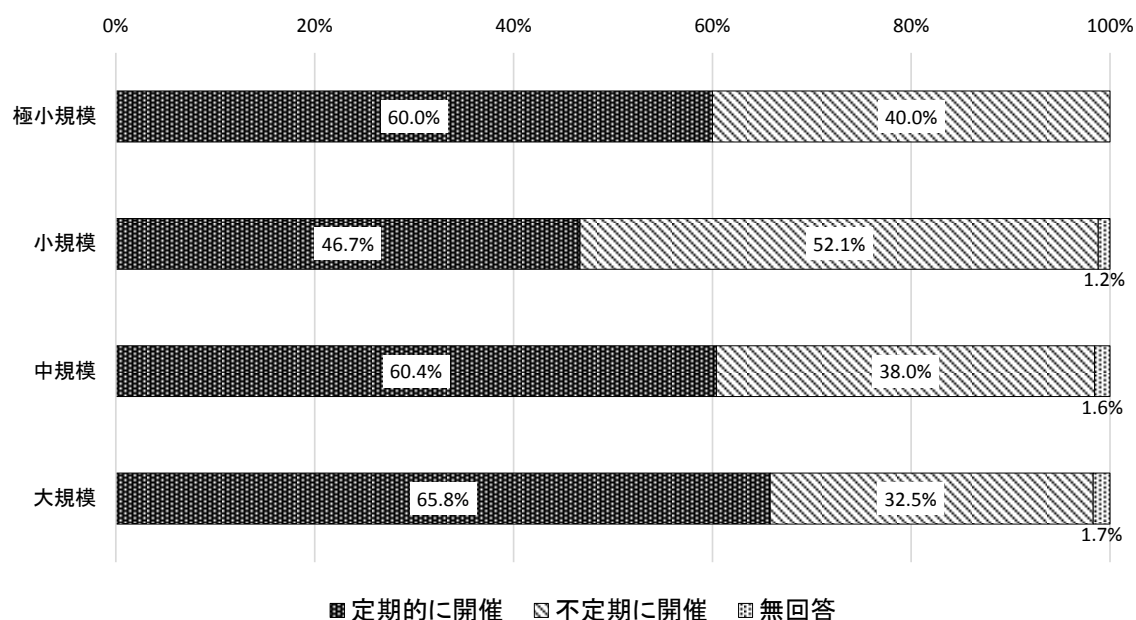
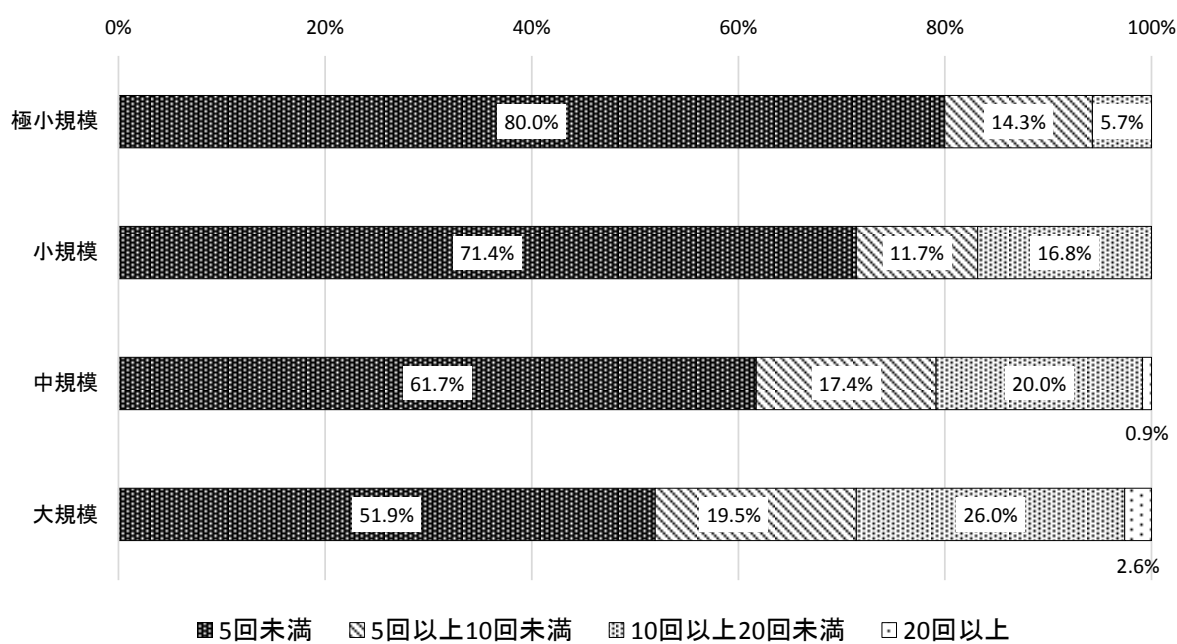


図 21-6 課題の話し合い年間開催回数(世帯規模別)



問 22 【問 21】で「開催している」場合、集落の将来の話し合いの有無について

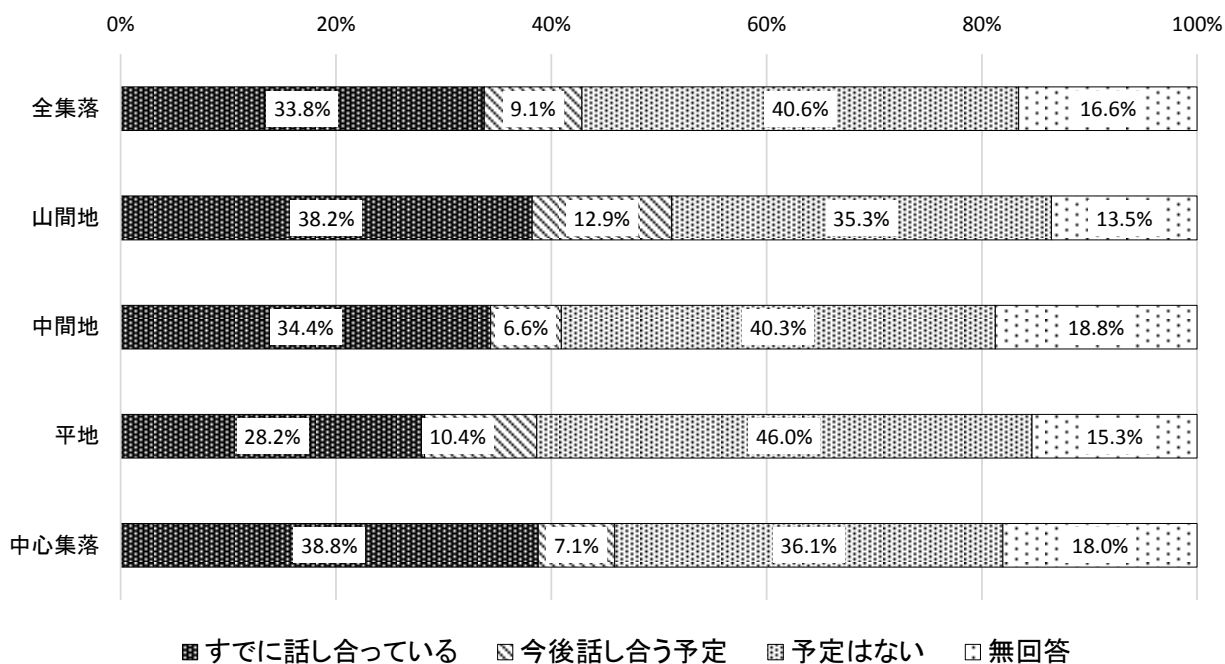
全集落内においては、「予定はない」が 40.6%と最も高く、「すでに話し合っている」が 33.8%、「今後話し合う予定」が 9.1%となった。(図表 22-1)

地域区分別に見ると、「すでに話し合っている」、「今後話し合う予定」の合計が山間地で 51.1%と最も高く、平地で 38.6%と最も低い割合となった。(図表 22-1)

世帯規模別に見ると、「すでに話し合っている」、「今後話し合う予定」の合計が大規模になるほど高い傾向がある。(図表 22-2)

図表 22-1 集落の将来の話し合いの有無(地域区分別)

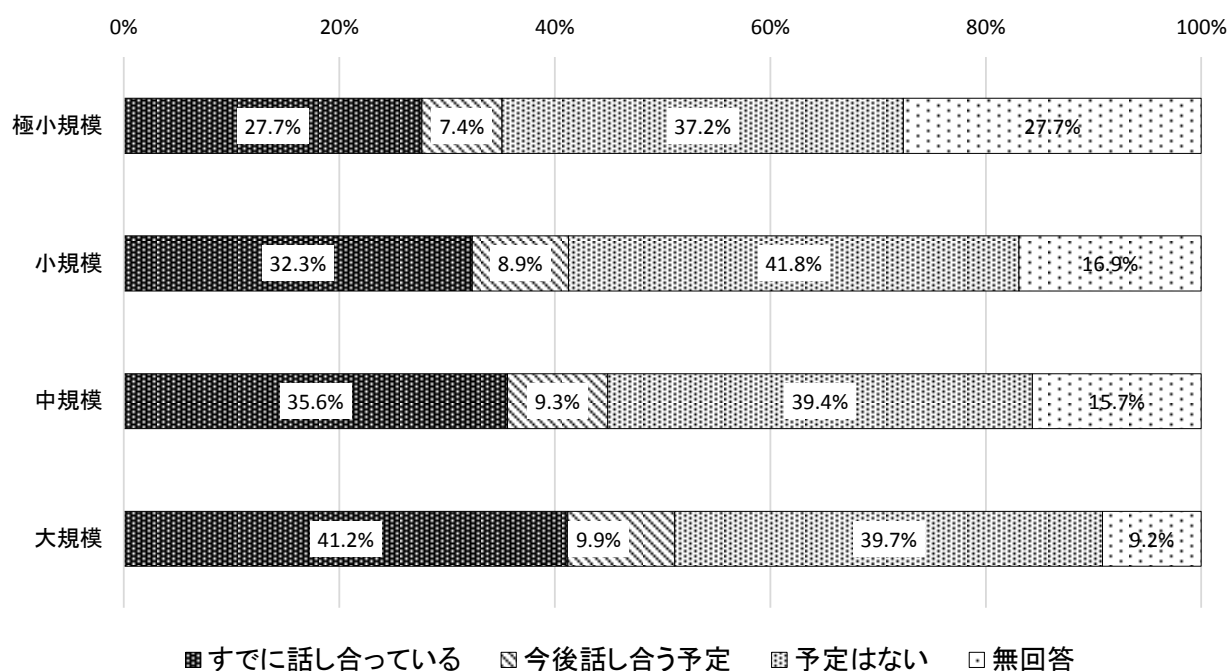
N=1,001



※全集落には地域区分不明分も含む

	全集落		内 訳							
			山間地		中間地		平地		中心集落	
	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合
すでに話し合っている	338	33.8%	65	38.2%	110	34.4%	92	28.2%	71	38.8%
今後話し合う予定	91	9.1%	22	12.9%	21	6.6%	34	10.4%	13	7.1%
予定はない	406	40.6%	60	35.3%	129	40.3%	150	46.0%	66	36.1%
無回答	166	16.6%	23	13.5%	60	18.8%	50	15.3%	33	18.0%
回答数合計	1,001		170		320		326		183	

図表 22-2 集落の将来の話し合いの有無(世帯規模別)



	極小規模		小規模		中規模		大規模	
	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合
すでに話し合っている	26	27.7%	174	32.3%	84	35.6%	54	41.2%
今後話し合う予定	7	7.4%	48	8.9%	22	9.3%	13	9.9%
予定はない	35	37.2%	225	41.8%	93	39.4%	52	39.7%
無回答	26	27.7%	91	16.9%	37	15.7%	12	9.2%
回答数合計	94		538		236		131	

問 23 今後の集落の方向性について（おおよそ 20 年後）

全集落内においては、「衰退していく」が 82.5%と最も高く、「現状とおおむね同じ」が 14.8%、「今より活性化している」が、わずか 1.3%となった。（図表 23-1）

地域区分別に見ると、「衰退していく」が平地では 71.5%、中心集落では 79.8%である一方、山間地と中間地では 90%を超えている。（図表 23-1）

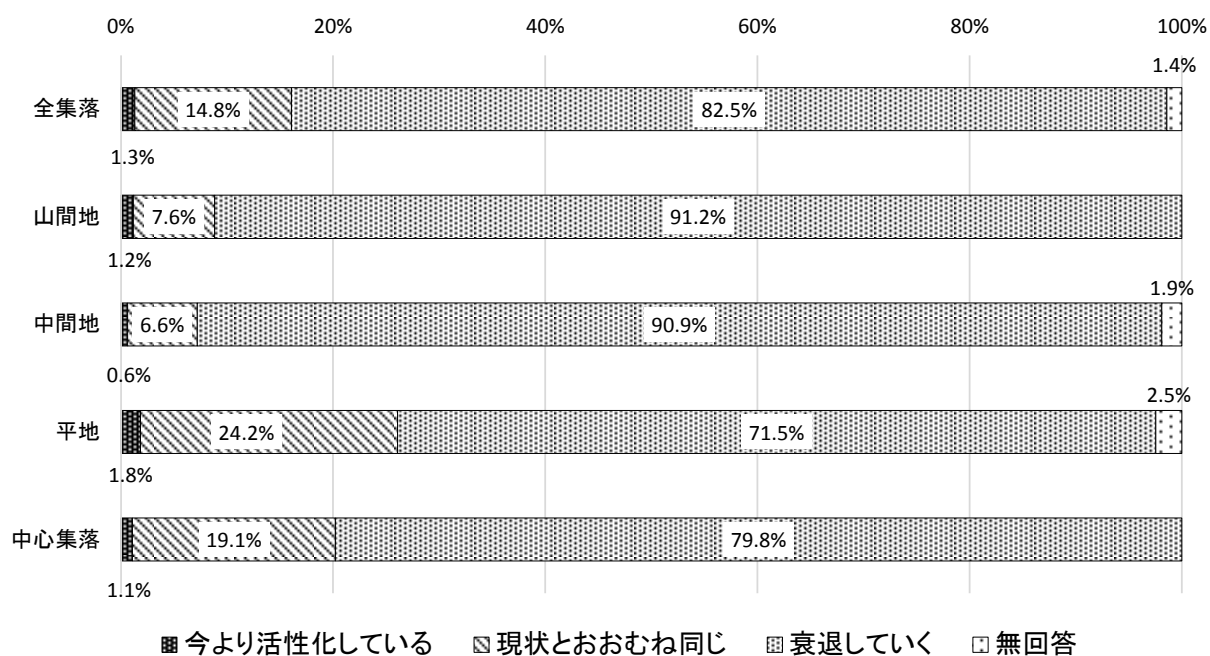
世帯規模別に見ると、「衰退していく」が極小規模で 87.2%、小規模で 87.4%と、大規模の 67.9%に比べて高くなっている。（図表 23-2）

自治会長等経験年数別に見ると、「衰退していく」が全経験年数において 70%以上と高くなっている。（図 23-3）

回答者世代別に見ると、「衰退していく」が 20 代で 100%、80 代以上で 92.3%と高くなっている。（図 23-4）

図表 23-1 20 年後の集落の方向性(地域区分別)

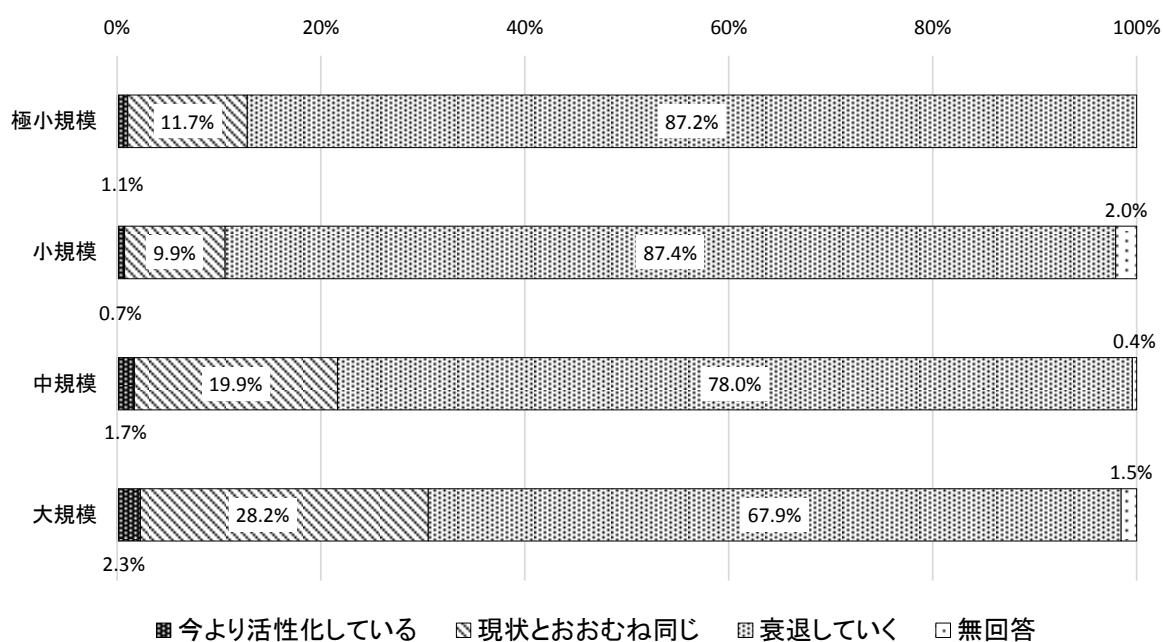
N=1,001



※全集落には地域区分不明分も含む

	全集落		内 訳							
			山間地		中間地		平地		中心集落	
	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合
今より活性化している	13	1.3%	2	1.2%	2	0.6%	6	1.8%	2	1.1%
現状とおおむね同じ	148	14.8%	13	7.6%	21	6.6%	79	24.2%	35	19.1%
衰退していく	826	82.5%	155	91.2%	291	90.9%	233	71.5%	146	79.8%
無回答	14	1.4%	0	0.0%	6	1.9%	8	2.5%	0	0.0%
回答数合計	1,001		170		320		326		183	

図表 23-2 20年後の集落の方向性(世帯規模別)



	極小規模		小規模		中規模		大規模	
	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合
今より活性化している	1	1.1%	4	0.7%	4	1.7%	3	2.3%
現状とおおむね同じ	11	11.7%	53	9.9%	47	19.9%	37	28.2%
衰退していく	82	87.2%	470	87.4%	184	78.0%	89	67.9%
無回答	0	0.0%	11	2.0%	1	0.4%	2	1.5%
回答数合計	94		538		236		131	

図 23-3 20年後の集落の方向性(自治会長等経験年数別)

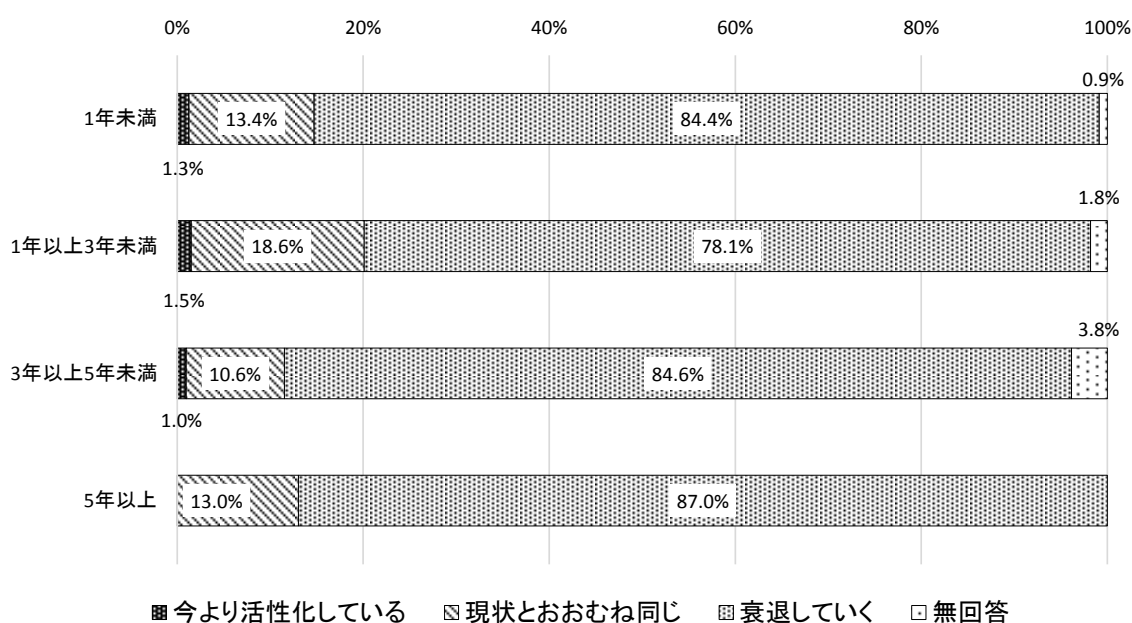
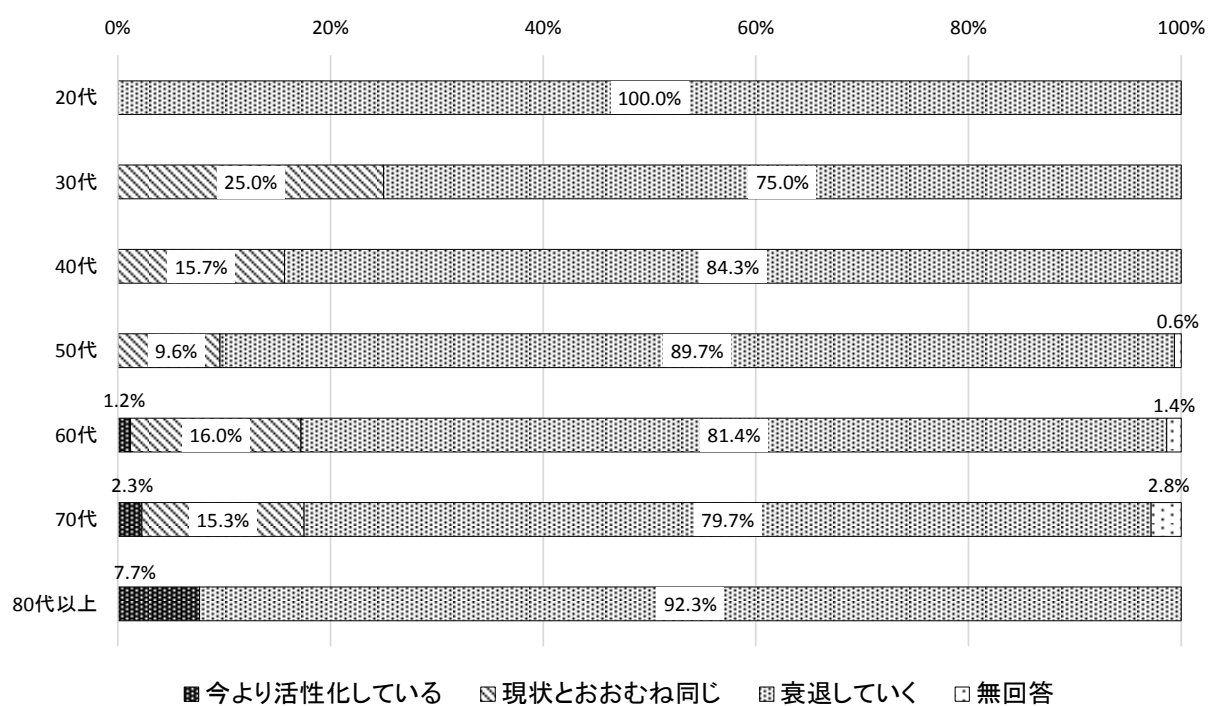


図 23-4 20年後の集落の方向性(回答者世代別)



問 24 「20 年後、あなたの集落はどうなっていてほしいか

- ・農地、田畑の維持管理や保存がなされていてほしい。(240 件)
- ・現状維持してほしい。(104 件)
- ・若者の定住、または移住してほしい。(103 件)
- ・どうにもならない。(衰退するであろう) (79 件)
- ・伝統文化の継承、維持してほしい。(72 件)
- ・住みやすく、安心して暮らせる集落になってほしい。(63 件)
- ・現状より活性化してほしい。(50 件)
- ・地域住民や近隣地域との連携や交流が保たれてほしい。(44 件)
- ・子どもがいる、にぎやかな集落。(37 件)
- ・住民が誇りを持って活躍してほしい。(30 件)
- ・空き家がない、安全安心な集落。(29 件)
- ・世帯が増えてほしい。(24 件)
- ・移住者が増えてほしい。(21 件)
- ・衰退しないで、存在し続けてほしい。(19 件)
- ・集落から出て行った人に帰ってきてほしい。(14 件)
- ・なる様にしかならないので、流れに任す。(14 件)
- ・若者の積極的な参加、次世代の育成。(13 件)
- ・他の集落との合併、統合。(12 件)
- ・農業の担い手の確保。(9 件)
- ・3 世代同居が増えてほしい。(9 件)
- ・自然の風景を活かした観光地となってほしい。(4 件)
- ・経済基盤となる企業誘致などにより、働き口の確保。(3 件)
- ・交通の便が良いし住みよいところなので、農業振興区域から住宅区域になってほしい。
- ・資材置き場を田に戻したい。
- ・一流の田舎になりたい。
- ・高齢化が進み、若者世代が少なく世帯数の減少もあり、20 年後は未知数だ。
- ・心豊かなエネルギー溢れる日本を願う。
- ・県全体で考えてほしい。
- ・何か国の施設を持ってくる(環境庁・文部科学省・農林水産省など)。東京中心に官公庁があるが、地方に分散してベッドタウン等になってほしい。

問 25 【問 24】のためにどうすればよいと思うか（その際の障害になることも記載）

- ・若者世代の定着、地域活動への積極的な参加を促す。(144 件)
- ・移住者を積極的に受け入れる。(106 件)
- ・交通アクセスやインフラ整備における、ライフラインの充実。(56 件)
- ・空き地、空き家の有効活用。(56 件)
- ・コミュニケーション強化による、地域活動への参加や活性化。(55 件)
- ・企業誘致などによる、働き場所の確保。(54 件)
- ・人口が減少するため、手の施しようがない。なにも思いつかない。(46 件)
- ・農業の担い手の確保、人材育成。(41 件)
- ・行政の援助。補助金制度の活用。(27 件)
- ・少子化対策。子育て環境づくり。(23 件)
- ・若者世代の結婚、定住促進。(20 件)
- ・近隣集落との協力、連携。(19 件)
- ・集落内の店舗の拡充。(18 件)
- ・行事等の見直しによる役員負担の軽減。(16 件)
- ・人口流出の阻止。(14 件)
- ・サルやイノシシなどの鳥獣被害対策。(13 件)
- ・特産物の開発、加工販売。(11 件)
- ・宅地の造成。(10 件)
- ・道路の拡張や整備。(10 件)
- ・住民を、あきらめの意識から創生の考え方に向けさせる（意識改革）動きをつくる。(4 件)
- ・地域活動やボランティアの利用。(3 件)
- ・集落の魅力、財産を折にふれ広報していく。(3 件)
- ・農業の共同化。(2 件)
- ・2,3 世帯との同居。(2 件)
- ・高齢者施設の誘致で、逆に高齢者のための村にする。(2 件)
- ・中山間地域で活路を開いている先例をもっとアピールすべき。
- ・山にある作りにくい田畑は休耕する。
- ・営農組合設立に対する条件の緩和。
- ・税負担の軽減等。
- ・地域の一員として自分で出来ることを頑張っていく。
- ・産廃を撤去させる。
- ・障がいのある人も、生活や移動が容易に出来る社会を創る。
- ・地区外から家を建てる家族も歓迎するが、高齢者も積極的に外に出る雰囲気作り。
- ・自然を大切に、環境を守り、ゴミを捨てない。
- ・生活を昔のようにシンプルにしていく。

【集落の将来に向けて障害と思われること】

- ・ 中心市街地の活性化にも良いところはあるが、中山間地域では切り捨てにしか見えない。(2件)
- ・ 集落構成員の高齢化。(2件)
- ・ 村部の抱える問題を行政がしっかり把握してほしい。
- ・ 政府の地方創生は税金のばらまき。
- ・ 年寄りでは地域活動をして、伝統文化継承には戦力外である。
- ・ 自分の損得を考える人が多すぎる。
- ・ 先代より伝わってきたことが伝統であり文化だと信じて疑わない人がまだ多い。半分以上は因習である。
- ・ 農作業、自治活動等に集中できる環境にない。個人の仕事が優先であり、仕事と両立が不可能である。
- ・ 大規模化のため生ずる維持管理のずさんさ、運営の難しさ、利益第一主義になりかねない。
- ・ 学校の統廃合後の地域分散化。
- ・ 建ぺい率の関係で、親子が住むスペースが取れずに、老人のみが残ってしまう現状。

問 26 集落における将来のリーダー候補の有無について

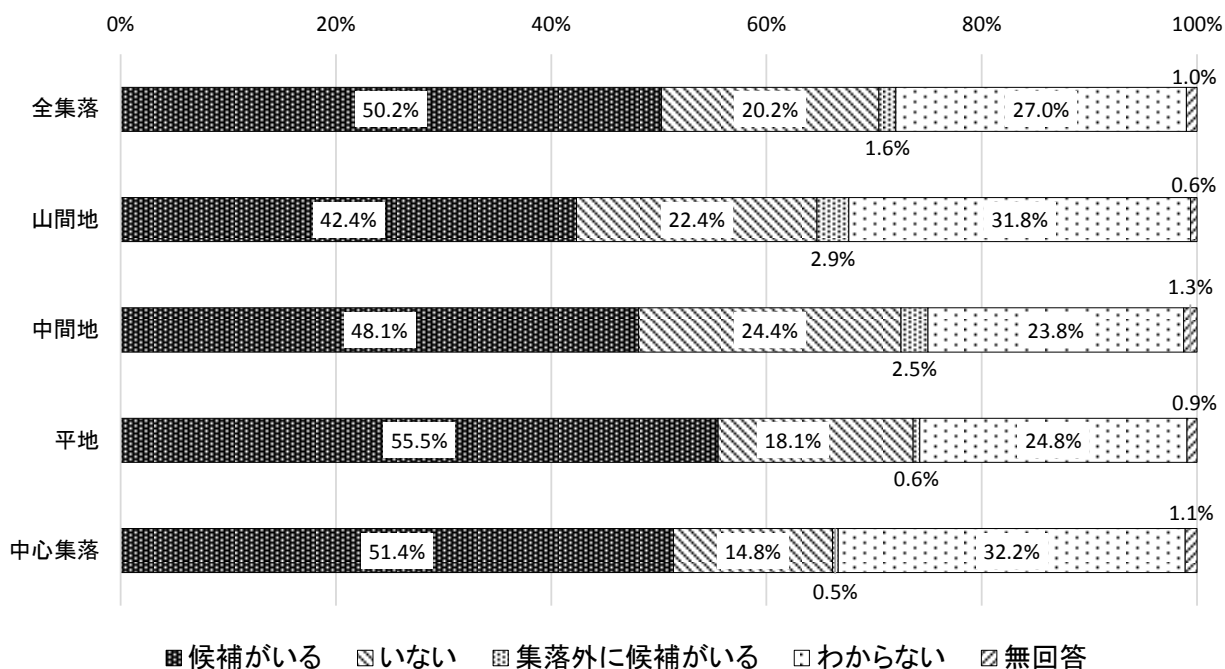
全集落内においては、「候補がいる」50.2%で、「いない」が 20.2%となった。(図表 26-1)

地域区分別に見ると、「いない」が山間地では22.4%、中間地では24.4%と、他の地域に比べて割合が高い。(図表 26-1)

世帯規模別に見ると、「候補がいる」割合が、大規模になるほど高い傾向にある。(図表 26-2)

図表 26-1 リーダー候補の有無(地域区分別)

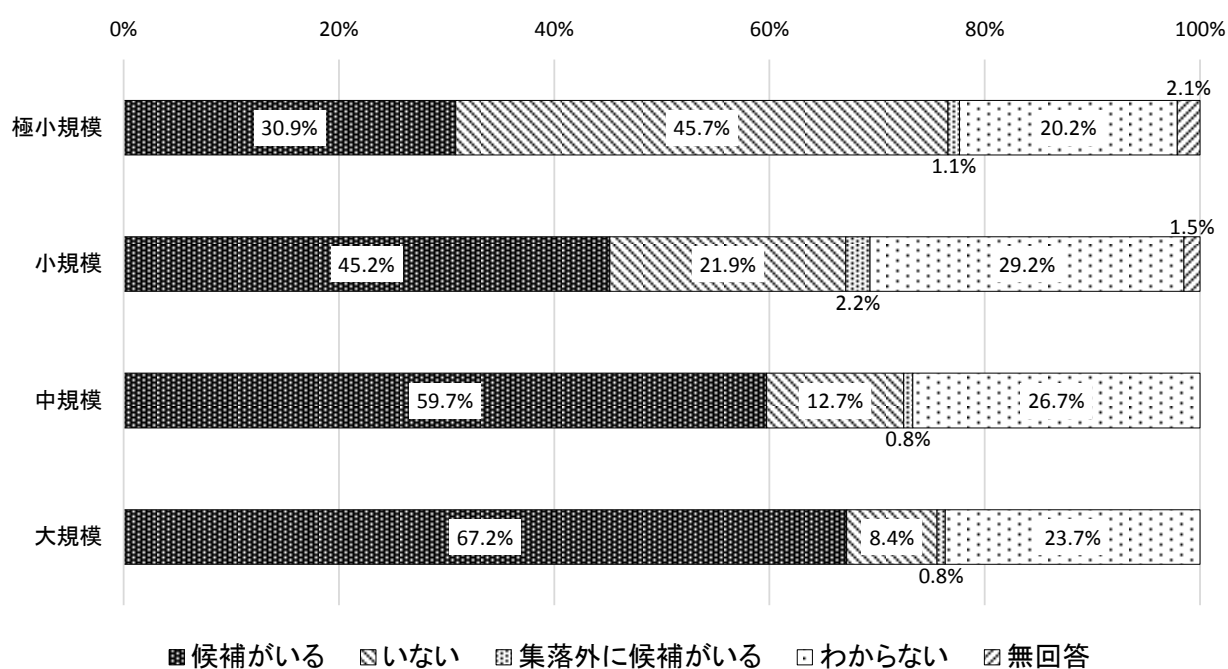
N=1,001



※全集落には地域区分不明分も含む

	全集落		内 訳							
	回答数	割合	山間地		中間地		平地		中心集落	
			回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合
候補がいる	503	50.2%	72	42.4%	154	48.1%	181	55.5%	94	51.4%
いない	202	20.2%	38	22.4%	78	24.4%	59	18.1%	27	14.8%
集落外に候補がいる	16	1.6%	5	2.9%	8	2.5%	2	0.6%	1	0.5%
わからない	270	27.0%	54	31.8%	76	23.8%	81	24.8%	59	32.2%
無回答	10	1.0%	1	0.6%	4	1.3%	3	0.9%	2	1.1%
回答数合計	1,001		170		320		326		183	

図表 26-2 リーダー候補の有無(世帯規模別)



	極小規模		小規模		中規模		大規模	
	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合
候補がいる	29	30.9%	243	45.2%	141	59.7%	88	67.2%
いない	43	45.7%	118	21.9%	30	12.7%	11	8.4%
集落外に候補がいる	1	1.1%	12	2.2%	2	0.8%	1	0.8%
わからない	19	20.2%	157	29.2%	63	26.7%	31	23.7%
無回答	2	2.1%	8	1.5%	0	0.0%	0	0.0%
回答数合計	94		538		236		131	

問 27 集落を活性化するために効果的な取組みについて

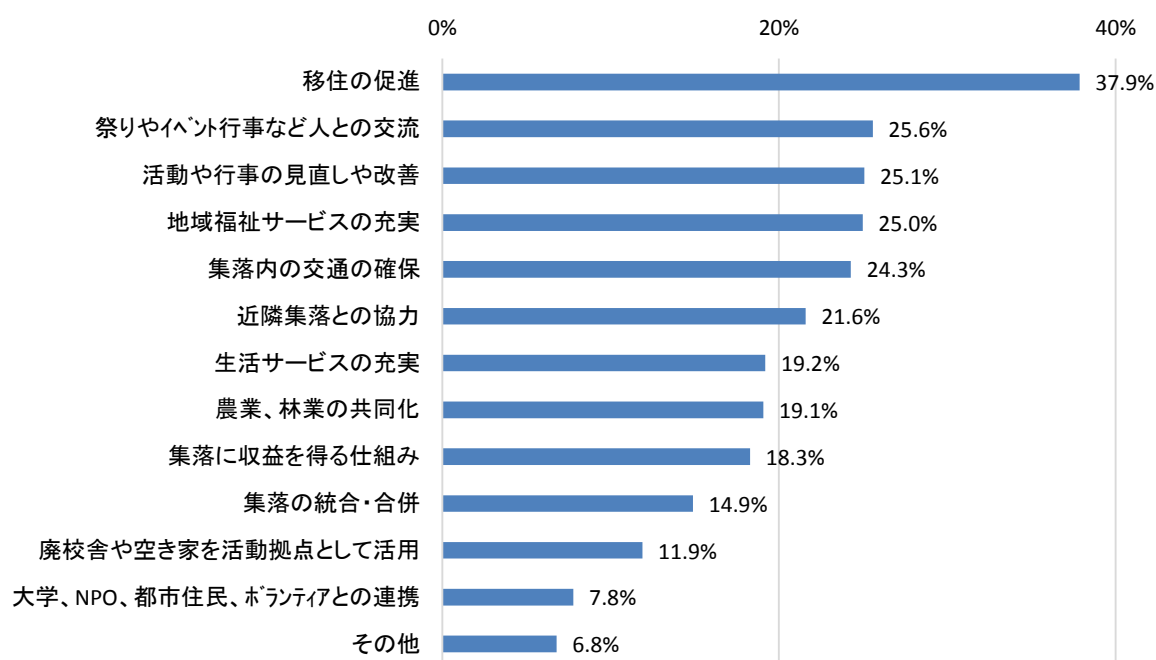
全集落内においては、「移住の促進」が 37.9%と最も高く、次いで「祭りやイベント行事など人との交流」が 25.6%、「活動や行事の見直しや改善」が 25.1%となった。(図 27-1)

地域区分別に見ると、全地域区分において「移住の促進」が最も高いが、「祭りやイベント行事など人との交流」は、山間地と中間地においては、他の地域と比べると低い。(図表 27-2)

世帯規模別に見ると、全規模において、「移住の促進」が最も高いが、「祭りやイベント行事など人との交流」は極小規模、小規模においては、他の規模に比べると低い。(図表 27-3)

図 27-1 活性化に効果的な取組み(全集落)【MA】

N=1,001

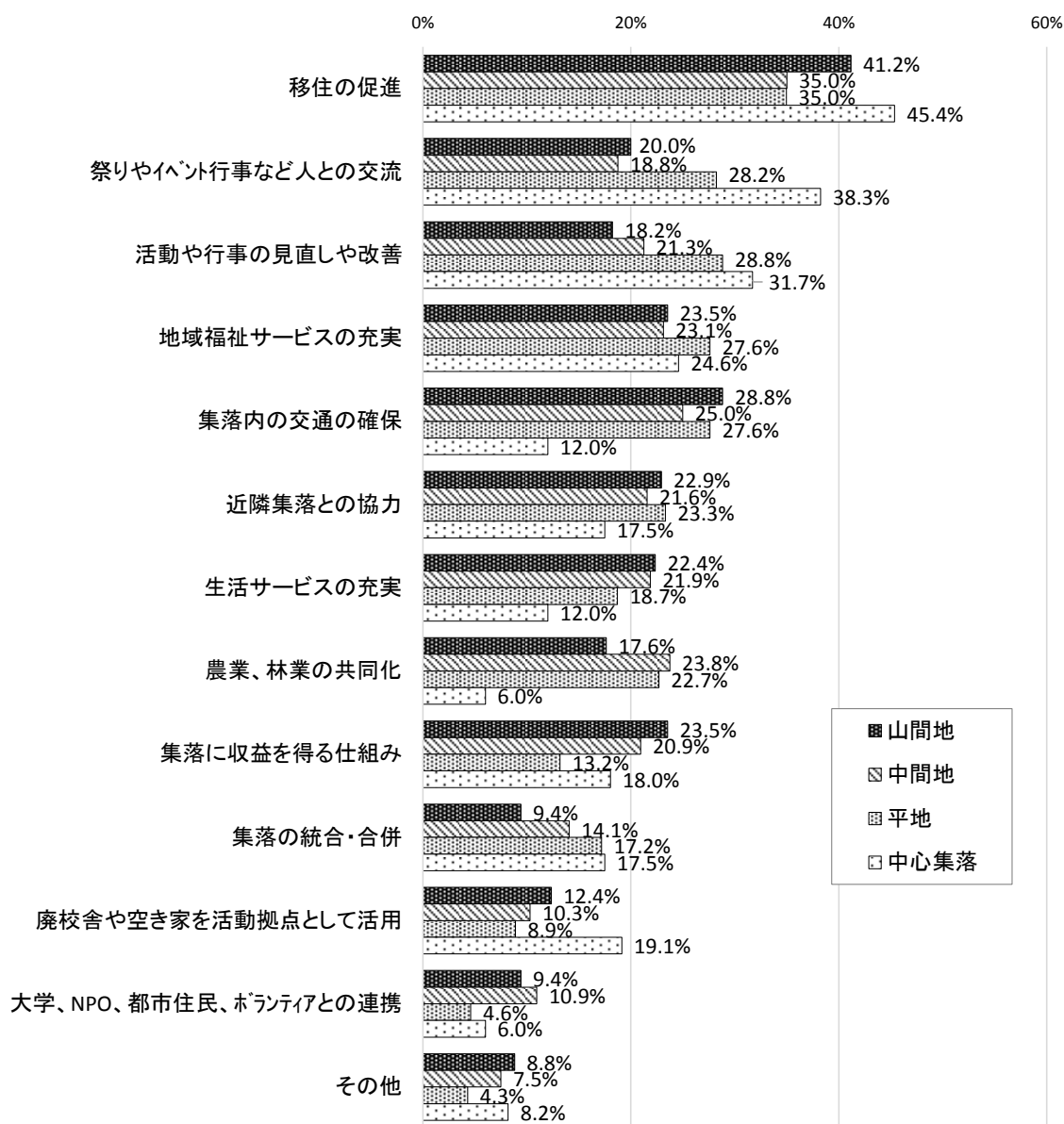


※地域区分不明分も含む

【その他の項目】

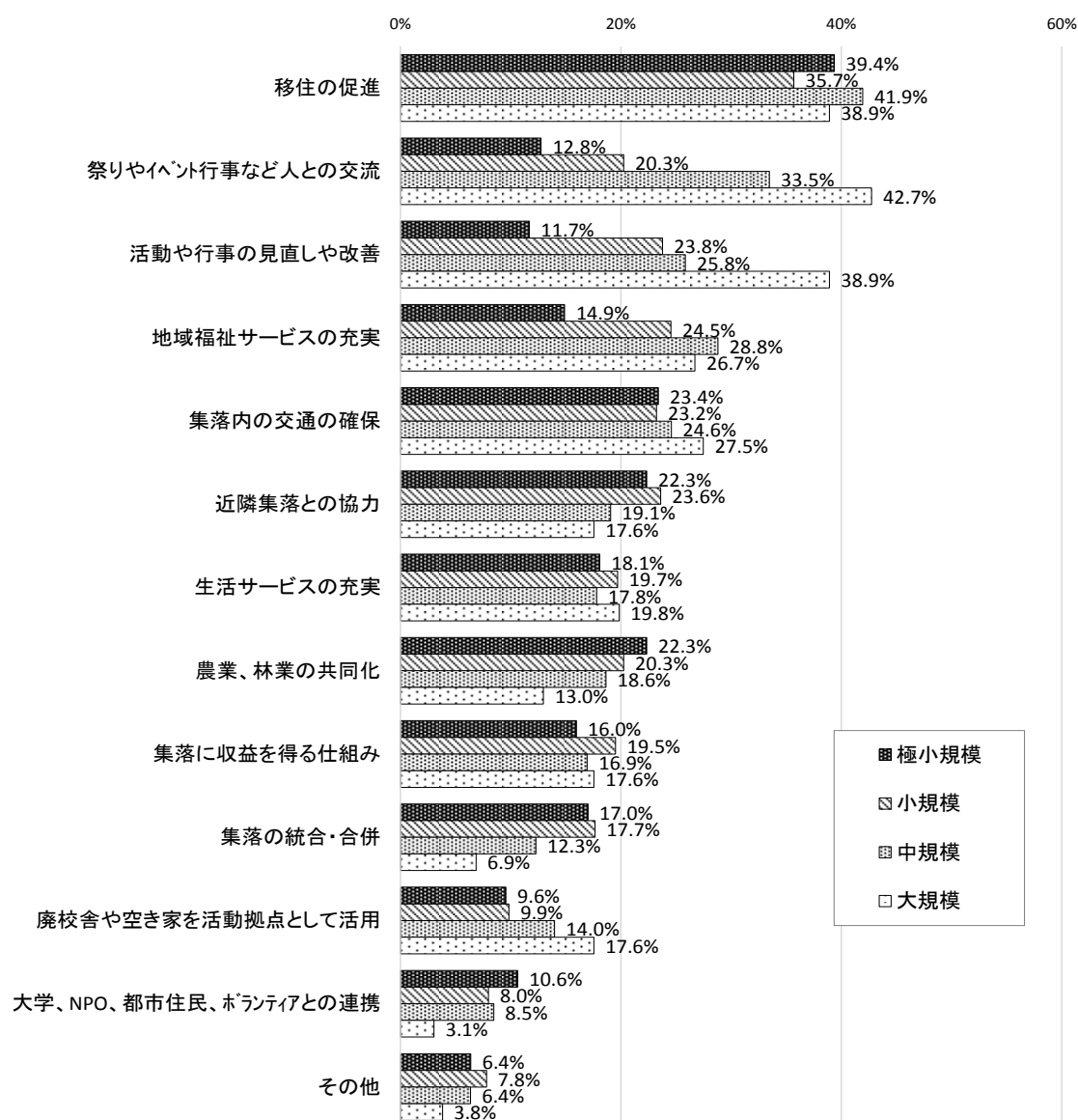
- ・企業の施設誘致による地域の活性化、職場の確保(9 件)
- ・動物の駆除(2 件)
- ・今の集落では無理(6 件)
- ・お出かけ電車、公共の乗り物乗り入れ促進(2 件)
- ・若者の意識を変える(結婚やUターン)生活環境の充実(5 件)
- ・地域の活動、行事のしがらみをなくす(2 件)
- ・住みやすい環境づくりや雪対策、景観を活かした地域開発(5 件)
- ・農業・林業が他産業のコスパに追いつく研究実験
- ・行政レベルの関与(5 件)
- ・高校を残し、学生との交流を行う
- ・人口が増える対策(4 件)
- ・大型店舗や商店などの誘致等(3 件)
- ・子どもを育てやすい環境、地区への愛着心の持てる教育(3 件)
- ・農業の労働の正当な対価を得られるようにする(3 件)
- ・活性化する見通しなし(3 件)
- ・小さな集落なのでこのままでいい(2 件)

図表 27-2 活性化に効果的な取組み(地域区分別)【MA】



	全集落		内 訳							
	回答数	割合	山間地		中間地		平地		中心集落	
			回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合
移住の促進	379	37.9%	70	41.2%	112	35.0%	114	35.0%	83	45.4%
祭りやイベント行事など人との交流	256	25.6%	34	20.0%	60	18.8%	92	28.2%	70	38.3%
活動や行事の見直しや改善	251	25.1%	31	18.2%	68	21.3%	94	28.8%	58	31.7%
地域福祉サービスの充実	250	25.0%	40	23.5%	74	23.1%	90	27.6%	45	24.6%
集落内の交通の確保	243	24.3%	49	28.8%	80	25.0%	90	27.6%	22	12.0%
近隣集落との協力	216	21.6%	39	22.9%	69	21.6%	76	23.3%	32	17.5%
生活サービスの充実	192	19.2%	38	22.4%	70	21.9%	61	18.7%	22	12.0%
農業、林業の共同化	191	19.1%	30	17.6%	76	23.8%	74	22.7%	11	6.0%
集落に収益を得る仕組み	183	18.3%	40	23.5%	67	20.9%	43	13.2%	33	18.0%
集落の統合・合併	149	14.9%	16	9.4%	45	14.1%	56	17.2%	32	17.5%
廃校舎や空き家を活動拠点として活用	119	11.9%	21	12.4%	33	10.3%	29	8.9%	35	19.1%
大学、NPO、都市住民、ボランティアとの連携	78	7.8%	16	9.4%	35	10.9%	15	4.6%	11	6.0%
その他	68	6.8%	15	8.8%	24	7.5%	14	4.3%	15	8.2%
実回答数	1,001		170		320		326		183	

図表 27-3 活性化に効果的な取組み(世帯規模別)【MA】



	極小規模		小規模		中規模		大規模	
	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合
移住の促進	37	39.4%	192	35.7%	99	41.9%	51	38.9%
祭りやイベント行事など人との交流	12	12.8%	109	20.3%	79	33.5%	56	42.7%
活動や行事の見直しや改善	11	11.7%	128	23.8%	61	25.8%	51	38.9%
地域福祉サービスの充実	14	14.9%	132	24.5%	68	28.8%	35	26.7%
集落内の交通の確保	22	23.4%	125	23.2%	58	24.6%	36	27.5%
近隣集落との協力	21	22.3%	127	23.6%	45	19.1%	23	17.6%
生活サービスの充実	17	18.1%	106	19.7%	42	17.8%	26	19.8%
農業、林業の共同化	21	22.3%	109	20.3%	44	18.6%	17	13.0%
集落に収益を得る仕組み	15	16.0%	105	19.5%	40	16.9%	23	17.6%
集落の統合・合併	16	17.0%	95	17.7%	29	12.3%	9	6.9%
廃校舎や空き家を活動拠点として活用	9	9.6%	53	9.9%	33	14.0%	23	17.6%
大学、NPO、都市住民、ボランティアとの連携	10	10.6%	43	8.0%	20	8.5%	4	3.1%
その他	6	6.4%	42	7.8%	15	6.4%	5	3.8%
実回答数	94		538		236		131	

問 28 集落活性化の取組に必要なものについて

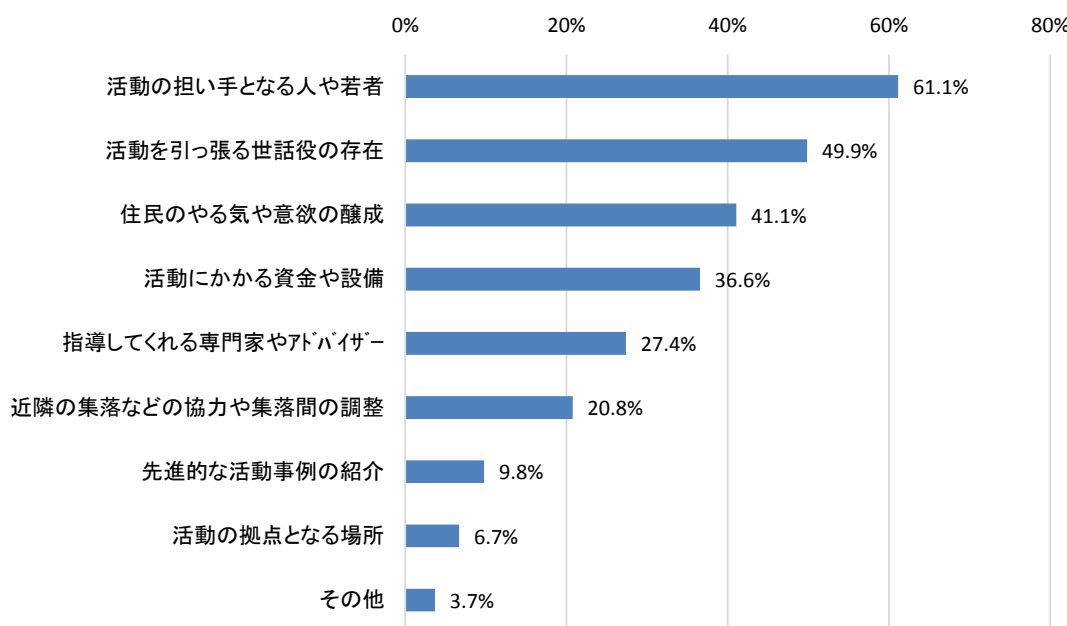
全集落内においては、「活動の担い手となる若者」が 61.1%と最も高く、次いで「活動を引っ張る世話役の存在」が 49.9%、「住民のやる気や意欲の醸成」が 41.1%となった。(図 28-1)

地域区分別に見ると、全地域区分において、「活動の担い手となる若者」が最も高く、山間地以外では「活動を引っ張る世話役の存在」が、次いで高くなっている。(図表 28-2)

世帯規模別に見ると、全規模において、「活動の担い手となる若者」が最も高く、小規模以外では「活動を引っ張る世話役の存在」が、次いで高くなっている。(図表 28-3)

図 28-1 集落活性化の取組に必要なもの(全集落)【MA】

N=1,001

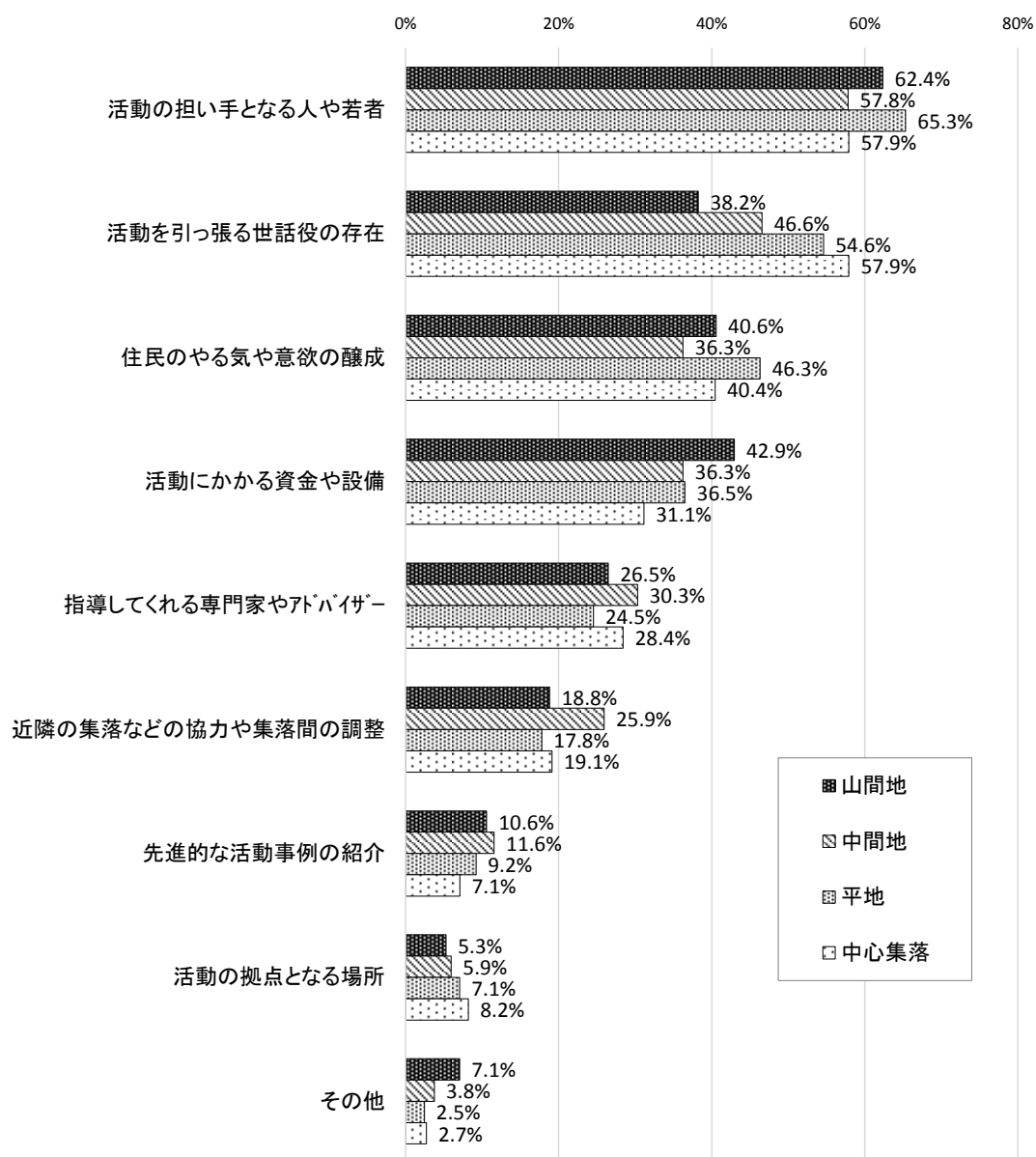


※地域区分不明分も含む

【その他の項目】

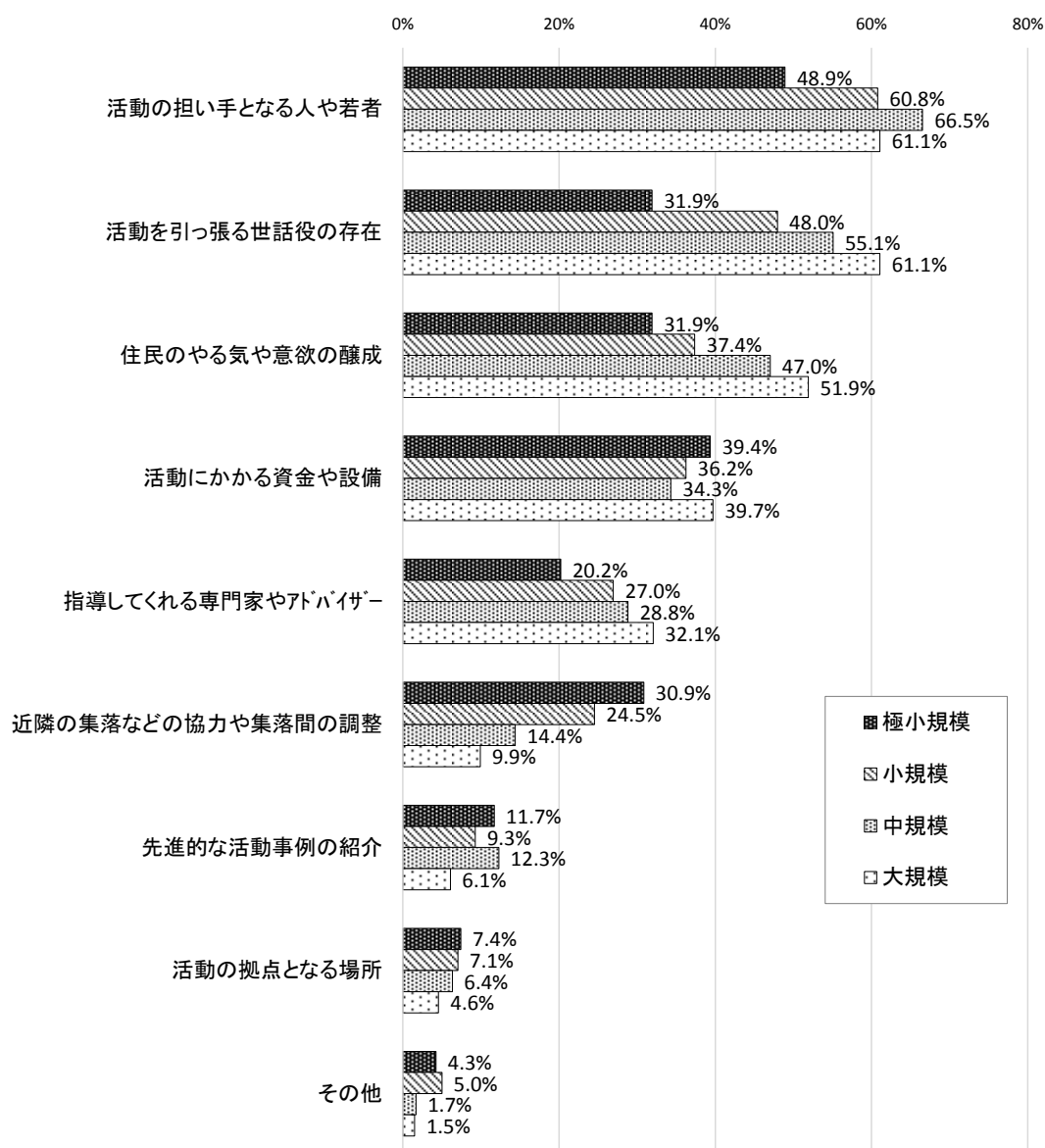
- ・行政、国の介入・支援(9件)
- ・若い人が集落に残る取組み、人口の増加(9件)
- ・企業誘致による職場の確保(2件)
- ・行事や負担の削減(2件)
- ・情報ネットワークや AI、IoT の活用(2件)
- ・空き家の賃料無料にむけた市町村の支援
- ・動物の駆除
- ・未婚者に結婚相手の紹介
- ・帰農令を出す
- ・泊高校の存続

図表 28-2 集落活性化の取組に必要なもの(地域区分別)【MA】



	全集落		内 訳							
	回答数	割合	山間地		中間地		平地		中心集落	
活動の担い手となる人や若者	612	61.1%	106	62.4%	185	57.8%	213	65.3%	106	57.9%
活動を引っ張る世話役の存在	499	49.9%	65	38.2%	149	46.6%	178	54.6%	106	57.9%
住民のやる気や意欲の醸成	411	41.1%	69	40.6%	116	36.3%	151	46.3%	74	40.4%
活動にかかる資金や設備	366	36.6%	73	42.9%	116	36.3%	119	36.5%	57	31.1%
指導してくれる専門家やアドバイザー	274	27.4%	45	26.5%	97	30.3%	80	24.5%	52	28.4%
近隣の集落などの協力や集落間の調整	208	20.8%	32	18.8%	83	25.9%	58	17.8%	35	19.1%
先進的な活動事例の紹介	98	9.8%	18	10.6%	37	11.6%	30	9.2%	13	7.1%
活動の拠点となる場所	67	6.7%	9	5.3%	19	5.9%	23	7.1%	15	8.2%
その他	37	3.7%	12	7.1%	12	3.8%	8	2.5%	5	2.7%
実回答数	1,001		170		320		326		183	

図表 28-3 集落活性化の取組に必要なもの(世帯規模別)【MA】



	極小規模		小規模		中規模		大規模	
	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合
活動の担い手となる人や若者	46	48.9%	327	60.8%	157	66.5%	80	61.1%
活動を引っ張る世話役の存在	30	31.9%	258	48.0%	130	55.1%	80	61.1%
住民のやる気や意欲の醸成	30	31.9%	201	37.4%	111	47.0%	68	51.9%
活動にかかる資金や設備	37	39.4%	195	36.2%	81	34.3%	52	39.7%
指導してくれる専門家やアドバイザー	19	20.2%	145	27.0%	68	28.8%	42	32.1%
近隣の集落などの協力や集落間の調整	29	30.9%	132	24.5%	34	14.4%	13	9.9%
先進的な活動事例の紹介	11	11.7%	50	9.3%	29	12.3%	8	6.1%
活動の拠点となる場所	7	7.4%	38	7.1%	15	6.4%	6	4.6%
その他	4	4.3%	27	5.0%	4	1.7%	2	1.5%
実回答数	94		538		236		131	

【集落の課題等について】

問 29 集落の暮らしについて、現在困難が生じているものの有無について

全集落内において困難が生じている課題は、「後継者の育成・確保」が 61.2%と最も高く、次いで「獣害・病虫害の発生」が 58.9%、「除雪活動の負担の増加」が 53.0%となった。(表 29-1)(図 29-1)

地域区分別に見ると、「後継者の育成・確保」と「獣害・病虫害の発生」が山間地、中間地においては、他の地域と比べると困難を生じている割合が高い。(表 29-2)(図 29-3)

世帯規模別に見ると、極小規模において、「獣害・病虫害の発生」が 76.6%、「耕作放棄地の増大」が 72.3%と割合が高い。(表 29-3)(図 29-4)

表 29-1 暮らしにおける困難の有無(全集落)

N=1,001

	困っている		困っていない		わからない		無回答	
	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合
集会所・公民館等の維持	181	18.1%	657	65.6%	84	8.4%	79	7.9%
道路・農道・橋梁の維持	354	35.4%	438	43.8%	136	13.6%	73	7.3%
小学校等の維持	132	13.2%	415	41.5%	287	28.7%	167	16.7%
住宅の荒廃(老朽家屋の増加)	432	43.2%	299	29.9%	187	18.7%	83	8.3%
耕作放棄地の増大	417	41.7%	296	29.6%	216	21.6%	72	7.2%
不在村者有林の増大	302	30.2%	247	24.7%	358	35.8%	94	9.4%
働き口の減少	314	31.4%	263	26.3%	325	32.5%	99	9.9%
森林の荒廃	417	41.7%	203	20.3%	289	28.9%	92	9.2%
土砂災害の発生	317	31.7%	323	32.3%	267	26.7%	94	9.4%
獣害・病虫害の発生	590	58.9%	182	18.2%	167	16.7%	62	6.2%
伝統的祭事の衰退	356	35.6%	301	30.1%	261	26.1%	83	8.3%
地域の伝統的生活文化の衰退	249	24.9%	293	29.3%	357	35.7%	102	10.2%
伝統芸能の衰退	261	26.1%	272	27.2%	355	35.5%	113	11.3%
棚田や段々畑等の農山村景観の荒廃	306	30.6%	302	30.2%	291	29.1%	102	10.2%
ごみの不法投棄の増加	350	35.0%	385	38.5%	192	19.2%	74	7.4%
冠婚葬祭等の日常生活扶助機能の低下	113	11.3%	514	51.3%	280	28.0%	94	9.4%
空き家の増加	468	46.8%	295	29.5%	164	16.4%	74	7.4%
公共交通の利便性の低下	505	50.4%	227	22.7%	194	19.4%	75	7.5%
商店・スーパー等の閉鎖	354	35.4%	310	31.0%	241	24.1%	96	9.6%
医療提供体制の弱体化	318	31.8%	324	32.4%	263	26.3%	96	9.6%
集落としての一体感や連携意識の低下	357	35.7%	344	34.4%	228	22.8%	72	7.2%
運動会や収穫祭など集落・地区行事の減少	166	16.6%	515	51.4%	237	23.7%	83	8.3%
住民による地域づくり活動の停滞・減少	337	33.7%	338	33.8%	244	24.4%	82	8.2%
後継者の育成・確保	613	61.2%	143	14.3%	181	18.1%	64	6.4%
福祉サービスの利便性低下	294	29.4%	279	27.9%	339	33.9%	89	8.9%
除雪活動の負担の増加	531	53.0%	215	21.5%	183	18.3%	72	7.2%
その他	15	1.5%	1	0.1%	0	0.0%	985	98.4%

※地域区分不明分も含む

【その他の項目】

- ・集落の世話方・自治会長等人材の不足(2件)
- ・若者の移住・定住(2件)
- ・未婚者の増加(2件)
- ・認知症の高齢者増加(2件)
- ・道路整備の遅れ・土地の有効活用・ご近所トラブル
- ・防犯対策
- ・雑種地(田のほう)維持管理費の増加
- ・農地や山林の維持管理が出来なくなる
- ・住民の土地愛着心の減少や離村による不在地主の増加
- ・生活習慣の変化による住民の意識の変化
- ・伝統行事の衰退
- ・行政の各種サービス低下
- ・自治会の継続
- ・集落内の格差

図 29-1 暮らしにおける困難の有無(全集落)

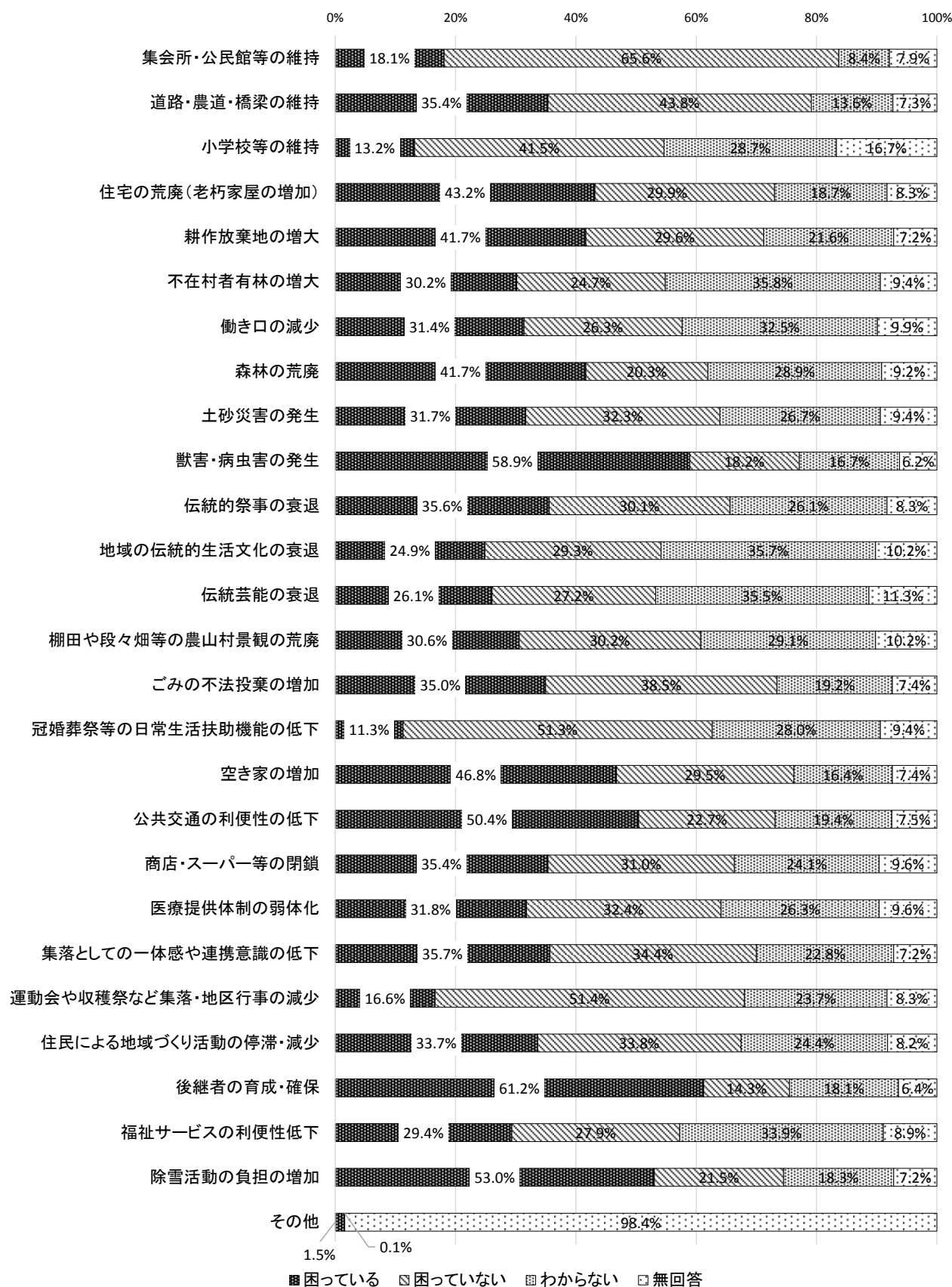
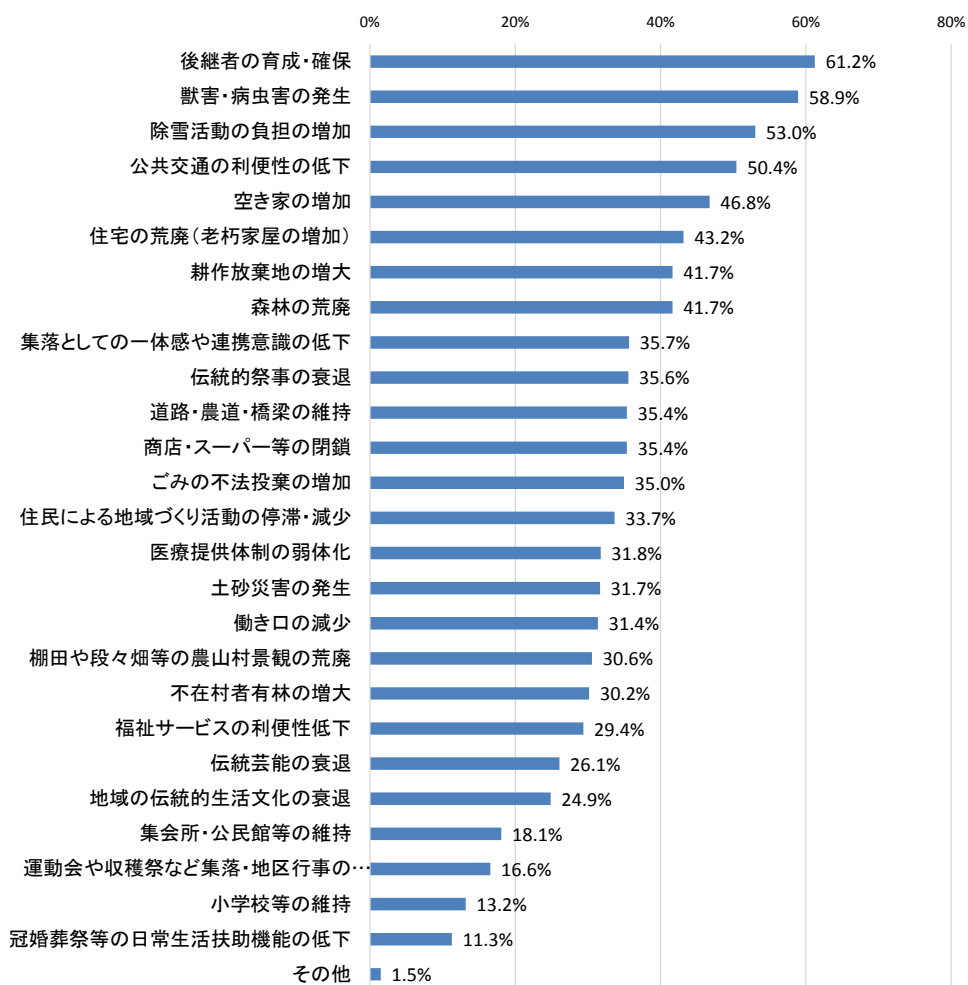


図 29-2 暮らしにおいて困難が生じていること(全集落)



※地域区分不明分も含む

表 29-2 暮らしにおいて困難が生じていること(地域区分別)

	全集落		内 訳							
	回答数	割合	山間地		中間地		平地		中心集落	
			回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合
後継者の育成・確保	613	61.2%	121	71.2%	217	67.8%	184	56.4%	90	49.2%
獣害・病虫害の発生	590	58.9%	133	78.2%	267	83.4%	138	42.3%	51	27.9%
除雪活動の負担の増加	531	53.0%	101	59.4%	188	58.8%	145	44.5%	96	52.5%
公共交通の利便性の低下	505	50.4%	99	58.2%	195	60.9%	150	46.0%	60	32.8%
空き家の増加	468	46.8%	91	53.5%	158	49.4%	114	35.0%	104	56.8%
住宅の荒廃(老朽家屋の増加)	432	43.2%	85	50.0%	150	46.9%	111	34.0%	84	45.9%
耕作放棄地の増大	417	41.7%	107	62.9%	175	54.7%	89	27.3%	46	25.1%
森林の荒廃	417	41.7%	107	62.9%	186	58.1%	92	28.2%	30	16.4%
集落としての一体感や連携意識の低下	357	35.7%	57	33.5%	122	38.1%	117	35.9%	61	33.3%
伝統的祭事の衰退	356	35.6%	62	36.5%	127	39.7%	92	28.2%	75	41.0%
道路・農道・橋梁の維持	354	35.4%	80	47.1%	144	45.0%	94	28.8%	36	19.7%
商店・スーパー等の閉鎖	354	35.4%	84	49.4%	113	35.3%	92	28.2%	64	35.0%
ごみの不法投棄の増加	350	35.0%	73	42.9%	137	42.8%	94	28.8%	46	25.1%
住民による地域づくり活動の停滞・減少	337	33.7%	58	34.1%	130	40.6%	96	29.4%	52	28.4%
医療提供体制の弱体化	318	31.8%	77	45.3%	113	35.3%	87	26.7%	40	21.9%
土砂災害の発生	317	31.7%	97	57.1%	152	47.5%	51	15.6%	17	9.3%
働き口の減少	314	31.4%	79	46.5%	115	35.9%	72	22.1%	47	25.7%
棚田や段々畑等の農山村景観の荒廃	306	30.6%	84	49.4%	144	45.0%	58	17.8%	19	10.4%
不在村者有林の増大	302	30.2%	86	50.6%	131	40.9%	59	18.1%	24	13.1%
福祉サービスの利便性低下	294	29.4%	57	33.5%	112	35.0%	85	26.1%	40	21.9%
伝統芸能の衰退	261	26.1%	44	25.9%	100	31.3%	68	20.9%	48	26.2%
地域の伝統的生活文化の衰退	249	24.9%	49	28.8%	94	29.4%	57	17.5%	49	26.8%
集会所・公民館等の維持	181	18.1%	36	21.2%	61	19.1%	53	16.3%	31	16.9%
運動会や収穫祭など集落・地区行事の減少	166	16.6%	35	20.6%	58	18.1%	49	15.0%	24	13.1%
小学校等の維持	132	13.2%	27	15.9%	47	14.7%	46	14.1%	11	6.0%
冠婚葬祭等の日常生活扶助機能の低下	113	11.3%	29	17.1%	46	14.4%	23	7.1%	15	8.2%
その他	15	1.5%	5	2.9%	7	2.2%	2	0.6%	1	0.5%
実回答数	1,001		170		320		326		183	

図 29-3 暮らしにおいて困難が生じていること(地域区分別)

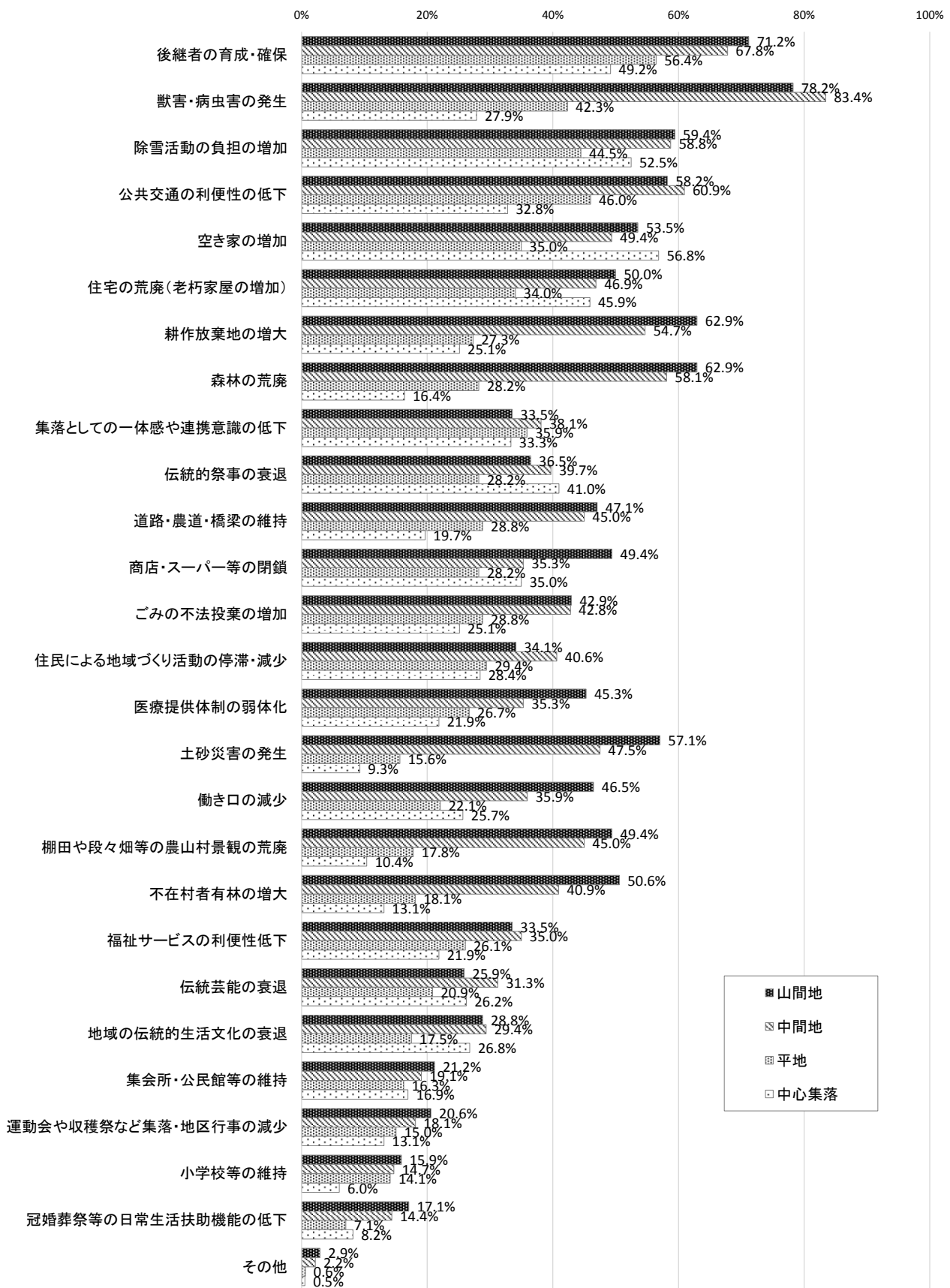
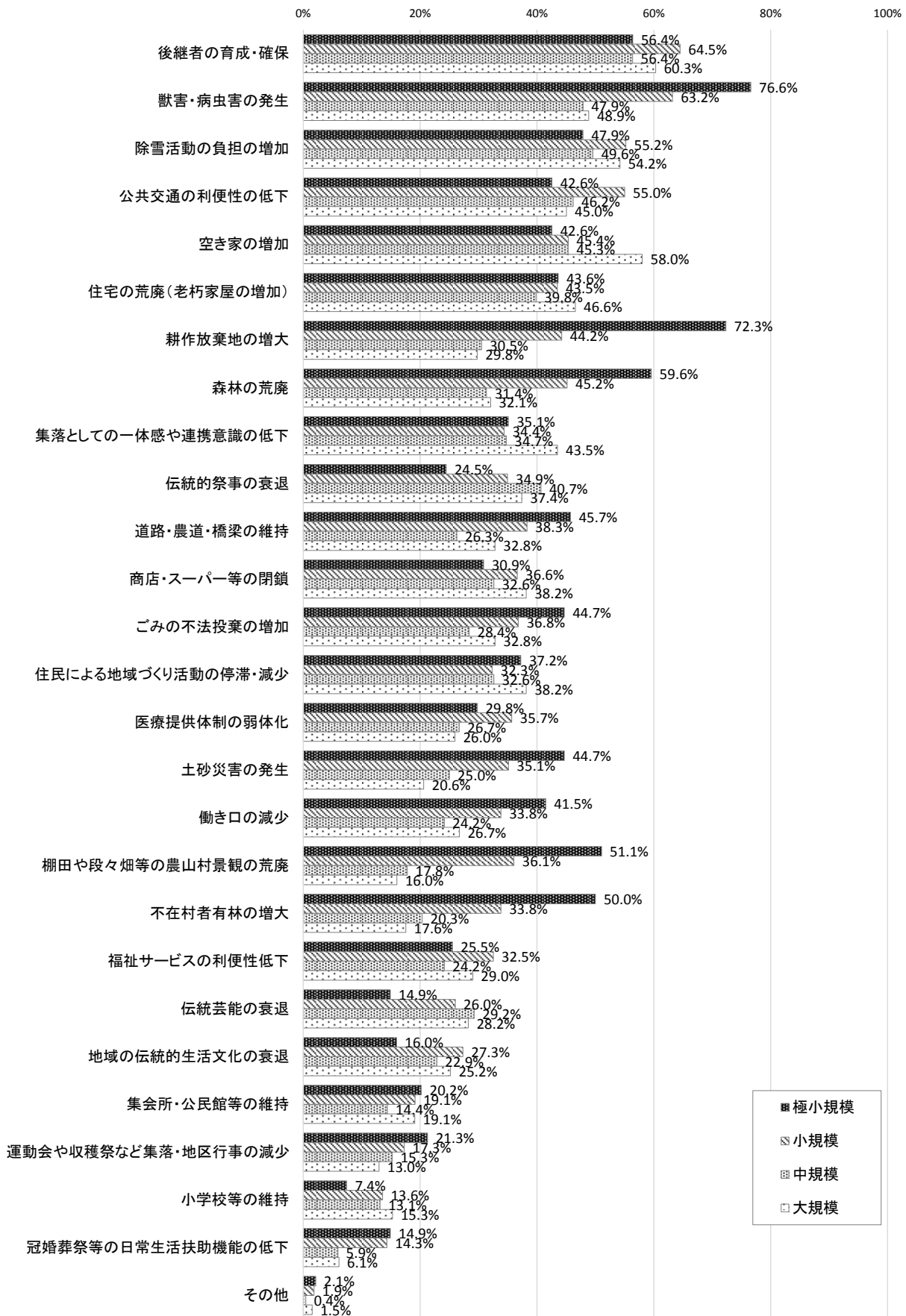


図 29-4 暮らしにおいて困難が生じていること(世帯規模別)



Ⅱ 調査結果

表 29-3 暮らしにおいて困難が生じていること(世帯規模別)

	極小規模		小規模		中規模		大規模	
	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合
後継者の育成・確保	53	56.4%	347	64.5%	133	56.4%	79	60.3%
獣害・病虫害の発生	72	76.6%	340	63.2%	113	47.9%	64	48.9%
除雪活動の負担の増加	45	47.9%	297	55.2%	117	49.6%	71	54.2%
公共交通の利便性の低下	40	42.6%	296	55.0%	109	46.2%	59	45.0%
空き家の増加	40	42.6%	244	45.4%	107	45.3%	76	58.0%
住宅の荒廃(老朽家屋の増加)	41	43.6%	234	43.5%	94	39.8%	61	46.6%
耕作放棄地の増大	68	72.3%	238	44.2%	72	30.5%	39	29.8%
森林の荒廃	56	59.6%	243	45.2%	74	31.4%	42	32.1%
集落としての一体感や連携意識の低下	33	35.1%	185	34.4%	82	34.7%	57	43.5%
伝統的祭事の衰退	23	24.5%	188	34.9%	96	40.7%	49	37.4%
道路・農道・橋梁の維持	43	45.7%	206	38.3%	62	26.3%	43	32.8%
商店・スーパー等の閉鎖	29	30.9%	197	36.6%	77	32.6%	50	38.2%
ごみの不法投棄の増加	42	44.7%	198	36.8%	67	28.4%	43	32.8%
住民による地域づくり活動の停滞・減少	35	37.2%	174	32.3%	77	32.6%	50	38.2%
医療提供体制の弱体化	28	29.8%	192	35.7%	63	26.7%	34	26.0%
土砂災害の発生	42	44.7%	189	35.1%	59	25.0%	27	20.6%
働き口の減少	39	41.5%	182	33.8%	57	24.2%	35	26.7%
棚田や段々畑等の農山村景観の荒廃	48	51.1%	194	36.1%	42	17.8%	21	16.0%
不在村者有林の増大	47	50.0%	182	33.8%	48	20.3%	23	17.6%
福祉サービスの利便性低下	24	25.5%	175	32.5%	57	24.2%	38	29.0%
伝統芸能の衰退	14	14.9%	140	26.0%	69	29.2%	37	28.2%
地域の伝統的生活文化の衰退	15	16.0%	147	27.3%	54	22.9%	33	25.2%
集会所・公民館等の維持	19	20.2%	103	19.1%	34	14.4%	25	19.1%
運動会や収穫祭など集落・地区行事の減少	20	21.3%	93	17.3%	36	15.3%	17	13.0%
小学校等の維持	7	7.4%	73	13.6%	31	13.1%	20	15.3%
冠婚葬祭等の日常生活扶助機能の低下	14	14.9%	77	14.3%	14	5.9%	8	6.1%
その他	2	2.1%	10	1.9%	1	0.4%	2	1.5%
実回答数	94		538		236		131	

問 30 集落や地域における課題や意見等

【課題】

●人口減少について

- ・少子高齢化による人口の減少が最大の問題であり、これが解決出来ない限り、地域の衰退は止められない。
- ・国全体がいかに人口を増やすかが最大のポイントだが、いろいろな無償化を計っても、人口が増えない状況をどう打破するかが課題である。
- ・年々人口の減少、戸数の減少で、20年後には町内会、消防団等の担い手がいなくなり、祭り等の運営も危ぶまれる。
- ・インフラ整備や福祉サービスの充実、伝統芸能の継承等が満たされても、未来を担う人がいない限り、課題は解決しないと思う。
- ・人口が少なくなっている現状はあるが、そういう状況の中で、地域の住民は何とかしようと頑張っている。

(人口減少に関する同意見 他 5 件)

●高齢化社会

- ・高齢社会になり共同作業や町内行事等が、あと何年後かで出来なくなる。
- ・役員の高齢化により担当役員のなり手がなく、それぞれいくつもの役を掛け持ちとなっている。
- ・高齢化が進んでいるにも関わらず、人口割で数が決められているため、民生委員や福祉サポータのなり手が不足している。
- ・高齢者のみの世帯の家が増加し、田畑の維持管理を今後どうするかが課題。

(高齢化社会に関する同意見 他 42 件)

●住環境、インフラについて

- ・農地の放棄による住環境の悪化が目の前に迫っている。
- ・市道の側溝の整備。下水道の整備。外灯の設置。耕作放棄地をなくす。花などを植えて環境美化に努める。
- ・生活環境の充実として、道路や市道等の舗装の実施。でこぼこ箇所が多く車両の通行、歩行者の安全確保が難しい。
- ・増加するお年寄り世帯や、若い人が居住しやすい環境が必要である。また、お年寄りのための公共交通の利便性を高める必要がある。
- ・商店やスーパーが郊外型のため、自家用車がないと買い物にいけない。町内の道幅が狭く、冬の除雪や右左折が出来ない。
- ・道路の草刈等は 60 代 70 代が中心で行っている。このままでは道路の維持、神社・公民館の管理が出来なくなる恐れがある。
- ・農業用水路の維持管理費用が高い。
- ・緊急車両の通り抜けの出来ない道路がある。高齢者や空き家などで除雪がなされず、車の走行に支障をきたすことがある。
- ・一部県道の路肩の崩壊及び道路横の水路の傷みがある。通行は出来るが、外観上、見苦しい。

(住環境、インフラに関する同意見 他 2 件)

●空き家について

- ・一人暮らし及び老夫婦世帯が結構あり、近い将来空き家が増え続けることが懸念される。
- ・高齢者の一人暮らしが多く、10～15年後は、空き家の増加が懸念される。なるべく後継者が地元に戻る体制の検討が必要と思う。

(空き家に関する同意見 他 7 件)

●害獣対策について

- ・イノシシやサルによる土地の荒廃や崩落、作物の被害が年々増加している。

(害獣対策に関する同意見 他 12 件)

●若者の減少について

- ・次代を担う若者はいるが、独身者ばかりで地元には嫁が来ないため、将来像がもてない。若者といえる間に結婚してほしい。
- ・若者が世帯を持っても、他地区へ出て行くので、地区の発展はないと思われる。
- ・子供の激減と若者の働き口がなく、学校卒業後、都会で就職して帰ってこない。
- ・高齢世帯の増加の半面、若い世帯の移住により、高齢者と若者との交流が必要と考えるが、なかなかよい方法が見つからない。
- ・伝統と文化を受け継ぐ若者が少ない。町内会を受け継ぐ子供が減少してきた。町内会は70歳以上が大半である。
- ・若い人が住みやすい自治会作りが当面の課題である。
- ・小中学校に通う児童も1ケタであり、高校卒業後は集落を離れてしまう傾向にあり、若者が居住することは難しいと思う。

(若者の減少に関する同意見 他 15 件)

●役員や担い手不足

- ・自治会役員のなり手不足。
- ・農事組合法人の担い手が少なくなり、集落の維持にも支障をきたし、集落の環境、景観が損なわれていくのがさみしい。
- ・老老介護と農地、畑の維持管理を各家庭ができなくなった。
- ・少子化による後継者不足(今後10年以降)。
- ・昔のような集落の連帯感がほしい。指導者がいない。
- ・人が少なくなり、世話役等をするものがいなくなる。小学校も廃校となり、先行きが不安である。

(役員や担い手不足に関する同意見 他 17 件)

●意見の差異

- ・不平不満があるのに役員任せにして、自分も汗を流そうという意識が低い。
- ・住民の将来に向けた意識が薄い。問題回避のための動きも、マイナスの力に飲み込まれてしまう状況である。
- ・若い世代と一部老人の意見の食い違い。
- ・戸数の増加に伴い、古くからの居住者と新興住宅地の住民の考え方や習慣などの違いにより、方針がまとまらないことがある。

(意見の差異に関する同意見 他 3 件)

●その他

- ・ゴミの不法投棄の増加が目立つ。(他 3 件)
- ・各種団体の行事が多すぎる。特に町内会長をすると、連日いろいろな行事がありすぎる。(他 1 件)
- ・公民館、神社が集落に存在するが、建ててから 50～60 年ほど経過し、維持に苦勞しているの、自治体からの補助があると助かる。(他 1 件)
- ・当地区で急傾斜地崩壊危険区域に指定され補強工事している所があるが、当初計画より著しく遅れている。もっと早く進める方策はないか。
- ・河川の草刈や水路の草刈が毎週のようにあり、体力がもたないので労働を軽減する方法を考えないといけない。
- ・小さな町内では公民館等の施設がないため、福祉事業の実施が困難なことが多い。
- ・地域密着型行政業務の衰退。
- ・当地域の村部には、いろいろなサービスがいきわたっていない。散居ということも、現在では不安の要因である。
- ・近隣の河川上流部に於いて、砂利の採取事業が行われ、分刻みに走る砂利運搬のダンプカーの往復に困惑している。
- ・何十年に一度の豪雨や土砂崩れなどがおきたときに孤立する家への支援体制の確保と充実を、今後どのように整えていけばが課題である。

【要望】

●害獣対策について

- ・鳥獣被害対策に取り組んでもらいたい。
- ・獣害が多く、畑作業等農業被害対策の充実、継続が必要。
- ・イノシシを始めとする、有害鳥獣駆除で捕獲した動物(イノシシ等)の官民合同での処理推進。
- ・熊やイノシシ対策として、恒久柵を設置してほしい。
- ・電気柵の設置で、かつてあった補助制度が廃止されたのは理解に苦しむ。

(害獣対策に関する同要望 他 18 件)

●インフラ整備について

- ・市道に関する修繕要望(アスファルト損傷、側溝損傷、側溝深水等)への対策が遅れている。また、改良工事の要望はほぼ対応していただけないのが現状となっている。
- ・県道、生活道路の拡幅をしてもらいたい。
- ・病院のバスだけでも運行してほしい。
- ・コミュニティバスの時間を調整できないか。
- ・中山間地域への資本の投入が遅れているので、豪雨や土砂災害などの自然災害の不安解消と対応を急いでいただきたい。
- ・中山間地域は、自然環境、人口、生活環境など多くの面で困難がたくさんあるので、地域の特性を踏まえた対策をお願いしたい。
- ・県道(主要道路)の街灯を増やして、安全を確保してほしい。
- ・民家を利用した小規模保育や教育の場の設置。
- ・町内から県道への出入りが融雪装置未設置のため、冬期間の通行の障害となっている。役場に依頼しても除雪員が出払っていて対応できないとのことで、早急に融雪装置を設置願いたい。

(インフラ整備に関する同要望 他 10 件)

●補助金について

- ・営農時における農業機械の購入等への補助金の拡大。
- ・県道、市道、農道の傷み、特に農地への用水路改修の資金を補助してほしい。
- ・伝統文化維持のための資金援助(人口減による町内会費の減)。

(補助金に関する同要望 他 9 件)

●空き家について

- ・空き家の今後の処理について、行政はもっと協力してほしい。
- ・空き家の持ち主の確認における、行政のバックアップ。

(空き家に関する同要望 他 3 件)

●アンケートについて

- ・アンケートのフィードバックと施策案、提案等、PDCA を要望。
- ・アンケートではなく、実際の住民の声を聞いてほしい。
- ・10代から40代がどのような考えでいるのかをアンケート調査してほしい。

(アンケートに関する同要望 他 5 件)

●自治体への要望

- ・市町村合併以来、「わが町」意識が薄くなった。市内の活性化策ばかりで、置き去り感がある。仕方がないことだが、緩やかに縮小する方向性を明確にしてほしい。
- ・自治会として過去を含めて市に請願要望事項を提出しているが、ほとんど実施されない。もっと住民の声に耳を傾けて、住みよい環境になればと思う。
- ・何か問題があったときや、こんなことをやりたいとかの相談に乗ってくれる部署(中山間相談課)等があればいい。
- ・行政において全集落の維持、活性化を目指しているのか、それとも僻地であったり、資源に乏しい集落の場合のあり方や方向性を考えているのであれば、説明してほしい。
- ・市がもっと地域行政について力を入れてほしい。将来の展望等が見えない。
- ・過疎地(本集落)への定住促進を行政として策を練ってほしい。
- ・町との貧富の差がありすぎる。県民税、市民税が高すぎるので、もっと中山間地域に行き渡るようにしてほしい。
- ・倒産会社等の跡地が町内にあるが、今後どうなるのか分からず困っているので、ぜひ相談に乗ってほしい。
- ・県内の中心部は栄えるが、中山間地域における集落はあらゆる面で疲弊していく現状が見られる。知事自身が自ら県内の隅々まで回って見てほしい。
- ・祭りの際の、交通規制を緩和してほしい。
- ・中学校跡地が売却されることで地域住民が利用できるグラウンドが無くなる恐れがあることから、住民が利用できる(運動会、防災時の避難場所)用地を残してもらえようをお願いしたい。
- ・一人暮らし世帯の除雪やゴミ出しのサポート。認知症高齢者のいる世帯へのサポート
- ・親世帯と子ども世帯の別居が増えるとともに、世帯間の交流も少なくなっているように感じる。個人情報保護も大切だと思うが、自治体にせめて2~3親等までは連絡が取れるように強制できるよう、法制定してもらいたい。

●その他

- ・中山間地域等直接支払いは大変ありがたいが、5期目から長期放棄してあった水田を重機で直し、今は畑といえないところを登録し、直接支払いの金をもらっている人がいる。
- ・もっと多くの子どもを産める環境になってほしい。(少子高齢化のストップ) 地域に働く場所作り。(専門家やアドバイザー) 新しい農業スタイル。(米だけにたよるのではなく、新しい作物への取組など) 住民の向上心の育成
- ・老人未来づくり協議会設立(案)。
- ・地域が活発であるかのように一部の人たちによって動かされており、不満に思っている人や困っている人たちの声は表に出ないことを、御一考願いたい。
- ・地域全体が次の世代が地元に住んで結婚して、郷土を愛する若者を増やすこと。または、移住等で若者に新たに住んで喜んで定着してもらえよう努力してほしい。
- ・住民人口が少なくなっているのにも関わらず、行事を増やしてどうするのか。地域活性化はイベント・行事を増やすことではない。
- ・世帯人口に合わせたシンプルな生活を望む。

【意見】

●今後の不安、不満

- ・圃場整備事業をスタートした。いままでやってきた人々が力を入れているが、今後の人々のためになるのか。何を持って住民のつながりを保っていけるか心配。
- ・将来の展望も見えず、子どもの数も減り、この先どうなるのかと不安である。この地区に住むには負担が大きすぎる。
- ・集落がなくなると思う。(10年後くらい)
- ・増加する空き家に対する方向性が見えない。
- ・地区の将来はない。いずれ地図から消えていくと思う。
- ・あまりにも地域の住民の高齢化、人口減少、土地の老廃、空き家の増加等が進み、何をどうすれば良いのか分からない。
- ・集落内には公民館、集会所はなく、寄り合いなどは区長宅となっている。若い人がどんどん地区外に出て、高齢者宅は増える一方で、一体どうなるのか検討もつかず、周辺集落と同様、明るい材料はない。
- ・地区内の若者は集落から出て行き、残るは老人のみ。出ていった子どもは親の面倒をみず、近所でなんとか支えあう。私自身、子どもをこの地区に残すつもりはないし、残って欲しくもない。課題は山積だが、担い手がいない以上、あきらめはある。1人2人移住してきても意味はない。
- ・20年前造成された団地のため田畑はないが、町内も高齢化していることも否めない。大きな問題としては、若者層の大幅減にあると考える。
- ・当地区は県道沿いにあり、通過型の集落である。これといった自然景観や見所がある訳ではなく、この地に住みたいという欲求は生まれてこないと思われる。地区内の人間関係が煩わしいと感じている人もいて、現状を思うとこの地に住もうとは思わないのではないかと、将来に対して不安がある。ネガティブな思いしか浮かばないが、幸い県内の大学生が数年前から住民と一緒に活動する機会があり、中には当地区で柿の栽培に取り組もうとしている若者もいる。
- ・14年前、集落協定時に10名で立ち上げたが、7～8年前ごろから世代交代があり、次第に農業離れにより、現在は2名で3町あまりの耕作を行っている。その他の休耕田(5町あまり)を一人で維持管理している。平成31年で4期目が終了するが、年齢的に今後のことは分からない。居住地から3～4km通勤農業をしている。神社もあるが、今はボランティアで、村の外の人をお願いしている。
- ・神社の補修・維持に対して住民の意識に差があり、運営が困難になってきている。
- ・行事、地域振興の活動が多すぎる。まだ現役で働いているものとしてはやらなければいけないという使命感はあるが、大きなストレスもある。地域の問題かもしれないが、現役を引退した人が請け負うべきだと思う。
- ・行事等(地区体育祭などのイベントも含む)に参加する人が固定し、若者の参加が進まない。年配の方の名前はわかるが、その世帯の家族構成については分からず、イベント等の参加者名簿の作成が不十分なものになる。(個人情報への制約)
- ・個人の意識改革が必要であり、方向性を同じになるように出来ないと取組が進まないように思う。担い手として子どもたちが都会に流出し、地元へ帰らない状況にあり、原因としては地元へ帰っても仕事関係の面で生活できないことが挙げられる。
- ・20年後をシュミレーションすると、人口が半減し、すべての地区活動が停滞すると予想している。40年後には消滅するであろう。

- ・山間地域で平地が少ないこともあり、親を残した離村者が多いため、山や田畑の管理も手薄にならざるを得なく、集落内の労力では手が届かない。高齢世帯が多いため、交通の便を確保することが必要。このような状況において、集落運営をどのようにすれば良いか、活気のある地区にするための対策が見えてこない。
- ・集落単独での行事は、祭礼と地区美化清掃に限られる。自治振興会、ふるさとづくり等の地区活動により集落の文化運動行事は助けられ支えられている。居住者の高齢化と人口減少は、どこも同じ状況と思われる。
- ・若者は外に出て行き、全体的に高齢化に動いている。今住んでいる人だけでは力が無く、若者や移住者を受け入れるのが良いと考えるが、マナーが乱れるのが不安と考える。自動車中心で移動するという生活が乱れると、現在でも生活を維持するのは困難になると考える。
- ・人口が減少していく時代に、山村が以前のように存在していくことは不可能だと思われる。私の住む地域では陶磁器を作るには適していたかもしれないが、地質を活かした産地を目指すにはあまりにも費用がかかりすぎると思われる。戦後植林された杉が部落のほとんどを占め、林業による活性化が一番可能性としては考えられるが、杉を伐採した後どのような木を植林し、誰が維持して行くか等を考えると、暗然とした気にさせられる。
- ・現状を維持するだけで精一杯。若者が地方に住み付かなかつたら日本は終わりだ。
- ・集落自体が小さく現在5世帯だが、すでに1世帯が出て行くことが決まっているので希望というものがない。情けないことだが、考えないようにしているというほうが正しい。

●行政に対する希望・不満

- ・将来的に老人世帯が増えて地域活動の維持が出来なくなるものと予想されるが、少くらの対策ではそれらの改善は難しいと思う。根本的な将来構想を考えなければならないと思う。
- ・山間部に議員がいないし、以前のように地域を心配する人も少なくなり、だんだん荒廃していく。中心市街地の活性化ばかりで、中山間地へ目を向けていない。
- ・行政、国がらみでテコ入れしてもらわないと、いずれはなくなってしまふ。生まれた土地なので、残していきたい。
- ・昔と地形が基盤整備事業により変わっているため、構図を作成してほしい。地籍事業を新たに導入してほしい。自販機や賽銭泥棒が増えてきたので、防犯カメラを取り付けることはできないか。
- ・市長は中心部のことしか考えていない。中心から離れたところは全部無くなって行くことだろう。何も期待はしていない。
- ・中山間地域への生活に係る各種支援が充実していない。中山間地域での生活が嫌なら、市中心部に出て来いという姿勢に不満を感じる。
- ・地元の畑地の灌漑が老朽化(畑をする人が少ない)している。農振除外手続きの簡略化を計ってもらいたい。
- ・地域企業センター敷地内の、荒廃した工場の取り壊しを希望。旧持ち主を捜し、固定資産税を徴収すれば、市の財政が潤う。
- ・大都市より中山間地域のほうが暮らしやすいと思う。大都市から移住してくれるような政策があればよい。
- ・高齢化世帯の増加で5年10年先を考えると集落の想像が出来ない。地域の高齢者の憩いの場所を作り行政の力を借りて、環境の良いところを作ってほしい。助成金をもっと増やしてほしい。
- ・市が指導して行うことになるNPOバスは利用しない人からも負担金を徴収することを考えている。今後は長年にわたり負担金を出せないとの意見が多い。(特に利用しない高齢者のみの世帯や若い世帯等)市営バスとして行うべきではないか。

- ・市町村合併後、市中心の体育館や図書館等新築の華やかな建物ばかり造り、道路や側溝など壊れた箇所
の補修の維持管理の予算が使われていない。これは選挙に反映されないためなのか。
- ・学校の統廃合、商店等の廃業、農林業の担い手不足、有害鳥獣の増加等、負の要因で中山間地域は若者が
定住しなくなっている。近い将来消滅するであろう今の地域を残すためには、知恵と金を出して大きく方向を転
換する必要性を感じる。住民だけでは何もできず、行政の抜本的な改革(各種の地域エリア分けて、特別地区
を作るなどして集中的に活性化に取り組む)を望む。
- ・行政、住民とも、何を求められてもこれ以上は出来ないところで踏ん張っているのではないかと。未婚税の導入、
結婚祝い金、空き家提供などの行政への収入増と、結婚率上昇政策による少子化対策以外に抜本的改革は
あり得ない。このようなジリ貧対策にお金をかけないで、上記実現のための企業誘致に全てを注ぐくらいの覚悟
で実行したほうが、20年後には結果が出ると思う。
- ・当市における新たな取り組みにおいて、市側と住民側に意識のズレが生じている。早急になり過ぎの感がある。
取り組みは否定しないが、住民側の理解を得ながら進めてほしい。
- ・人口減少、高齢化、限界集落、廃村等の流れは止まらないと思う。地域でできることには限界があるので、大手
資本、大企業の誘致等の大型プロジェクトを組んだ当市を、県国レベルで施策を打つことが必要。
- ・今後は市政の小規模多機能自治に積極的に参加、協力する。
- ・高齢であり、現在集落の現状や課題など今は把握しているが、今後はどうして行けばよいのか分からず、行政
からくる書類等が多いため、もう少し緩和してほしい。こうした中山間地域の調査等をする中で、どうしたメリット
があるのかを教えてほしい。私たちは豪雪地域に住んでいるが、市の行政より雪おろし対策として1万円の助成金
を受けた。(申請者で、市民税のなしの方に限る)県からも助成いただければと思う。(納税有無に関係なく)
- ・我々の地域は名所となる箇所がある。今、それらの整備等を役場より人夫賃としていただき、現在進行中だ。こ
のことが完成に近づくと目的ができ、死ぬことが出来なくなる。より多くの県民の皆様に来てもらい、癒し、元気を
与える自然環境になることと確信しており、人間は自然の一部としてどう行動すればよいか考えて実行するた
めに頑張っている。
- ・小さな要望、陳情も聞いてもらえず、各集落で対応している中で、個人負担を減らすため何もしない。県道沿い
の耕作放棄地がジャングルになって、中からカモシカ、イノシシ等が飛び出してくるか怖くて安心して歩けな
い。部落で伐採しようと意見は出るが、所有者と連絡が取れないし、無償での作業は力が入らない。
- ・国県市が真剣に取り組む必要があり、中心市街地ばかりに力を入れると中山間地域はますます過疎化が進行
し、荒廃すると考える。集落の住民だけでは解決出来ない問題や課題である。本当に守るのであれば、真剣に
考えるべきだ。
- ・平成の大合併への不信感(行政サービスの低下)、議員の質を問いたい。町の中から中学校、消防署、役場、
病院、スーパーなど多くの施設がなくなったことへの不安、不満。課題解決への自治体の活動を支える枠組み
作りが大切だと思う。自治体内での情報ネットワークの構築を進めたい。(医療機関やスーパーとの連携)地元
には資源がたくさんあるので、人と物語力が必要だと思う。核家族からの脱皮が必要で、そのためには教育の
見直しが重要。
- ・空き家対策を早急に推進する必要がある。治安、美化保全の維持を図るためや、中心市街地の活性化を進め
るためにも、空き家バンク等の情報が非常に貧弱である。(不動産屋が皆無、買い手売り手の動きがない閉鎖
的な県民性)活性化を疎外している。(参考)横浜では毎週不動産情報の広告が入り、動きが出ている。

- ・県が中山間地域の維持と活性化に取り組もうとしていることに、とても力強く感じている。長くこの地域、集落に住み、自然の豊かさ、人情の深さなどに強い誇りを持っている。しかし年々人口が減少し、様々な活動に一人当たりの負担が増大していると感じる。県で実施している地域おこし協力隊の事業や、様々なIターンUターンにつながる事業の情報をもっと積極的に伝えていただいて、マンパワーの増加を図ることが集落機能を維持していく上で必須の課題だと思われる。中山間地域とそこでの暮らしに興味や関心がある方々との情報共有ネットワークの拡大と、マッチングへのサポートが大切なのではないか。

●今後の展望やアイデア

- ・補助金にたよらず、地域でお金を産む生産事業を作りたい。その機会が見えてくることを願っている。
- ・地域農業の発展は、会社の経営しかないと思う。年間農作物を作り、安定収入の得られる小～中規模の会社が設立されることにより、若年層の人材をしっかりと育成する。
- ・森林が荒廃しているが、これを国有化(または県有化)して、意欲のある人に与える。
- ・スイスの国づくりを参考にして、政策転換が必要と考える。向こう3軒両隣精神が無くなることは、地域、国が滅びる。
- ・インター近くで利便性があるので、インター周辺の整備や工場や住宅団地誘致等で交流人口を増やし、地域の活性化を図る。
- ・100年以上前より12戸の自治会、神明社もあり、1つの集落として成り立ってきた。老人2人住まいの住宅もあり高齢化は確実に進んでおり、若い人は家から離れ、県外で働くようになっている。自治会として維持できる戸数、また若い人が地元で働けるような地区であるように願う。
- ・今後高齢化が進むと思うが、独身者が増加し、若い人が減少するであろう。もっと、若い人が住みやすい環境づくりと、婚活などを通して、伝統文化やイベントに若い人が参加し、活気ある町内会にしていきたい。
- ・地域や日常生活についての理想、目標はポピュラーで楽しさが伴うことが重要。これまでの集落運営は、多少の問題はあっても今までどおりが良いという因習による運営が続いている。もし新案があるならば、やってみなければわからない。
- ・現在は困ってはいないが、この先10年は困りごとが増えると予想されるので、今から対策について話し合っ実行できることから実施していきたい。
- ・今後、小規模多機能自治の理解拡大と体制作りをしていきたい。
- ・若者に魅力的な働き場所の地域への誘致。IT企業のサテライトオフィス(ITベンチャー含む)の誘致。近隣にある大学との地域活性化に向けた連携と若者にとって魅力的な雇用機会の創出。働き場所や、やりがいがないと若者は残らない。アジア、欧米等海外企業の誘致。いずれも難しいテーマだが、5年後10年後に向けて、多面的、中長期的に手を打たないと衰退するだけだ。
- ・集落地域の活性化については、近隣の小中高校の統合や、企業の誘致等が大きく関係してくると思う。県、自治体の住民サービス等の度合いも、同じく関連すると思う。
- ・若い世代が働ける職場があり、就職も選べるほどあれば、他市町村へ移住することなく、地域の活性化につながると思う。在住者は地域にあるものは利用し、自分の地域を盛り上げる気持ちが必要だと思う。
- ・自然、環境において恵まれていると思うので、それを利用して会社(働き口)を設立し、人口増加、活性化につなげて行けたら良いと思う。

- ・人口減少に伴う中山間地域の消滅については、小手先の対策だけでは対処しきれないレベルにあると思う。対策エリアを絞り、住民増の目標を立て、地域と一緒に取組み、成功事例を積み上げることが唯一の対策と考えている。
- ・核家族化の進行により、若者が町外へ流出し、町内高齢化が進んでおり、近所との連帯や声かけが重要と思われる。
- ・自分の山の杉を出して利益になる、林業体制機構が必要。中山間地域は農業ではハンディが多くて厳しい(サル・あぜ等)現状がある。林業とコラボして資源を活かしたい。
- ・現状とりわけ課題は、今後どのように推移するかは分からないが、地域住民との対話を重視した活動を継続的に実施、努力していると思っている。
- ・個人情報保護法とのからみで、近所の人々のことが分かりづらくなっている。そのような状況で、非常時のサポートは不可能なので、自治会役員と民生委員の緊密な連携が必要不可欠と思う。小学校区単位の自治振興会レベルでの諸行事の見直しが必要。住民運動会や敬老会などは、参加率やスタッフの負担を考慮し、もう開催しなくてもいいのでは。行事のために多忙というのはいかがなものか。
- ・集落や地域を維持するためには、人、モノ、金が必要。
- ・地域づくり協議会の設立や、社会福祉活動の充実が叫ばれているが、小規模多機能自治への移行も遠くない将来のように感じる。同時に生活の基盤との連携が反映されていると実感されなければ上辺だけの組織図だけの活動になってしまうと考える。いずれにしても生活の安定化と将来不安の払拭等が大前提と考える。安心して子育てできる社会へ。

●アンケートについて

- ・記入方法が非常にわかりにくいアンケートで、ページ数も多すぎる。
- ・町内が市の中心部にあり、アンケート内容に適合しない部分もあり、戸惑うことが多くあった。
- ・20年前にアンケート調査をしてほしかった。
- ・このアンケートは自治体の役割についての記入がない。
- ・中山間地域が該当しているとは思っていなかったが、関係法のどの項目なのか、地元の人にはよくわかっていないと思う。
- ・設問が大きな戸数の集落単位であり、小さな集落では回答できないものが多くあると感じた。
- ・調査に戸数、人口の調査がないのはなぜか。1戸になっても昔からの神社を維持していかなければならないのは大変である。
- ・中山間地域に現在住んでいる者より、出ていった若い人たちの考えや思いを聞いたほうがよいのではないか。
- ・当集落は、他集落からの移住者と従来からの住民が半々であり、個人的には実家を見守りながら42年過ぎていたので、現集落と実家の管理で情情的にも答えが難しい。町内会は6人の町内会長と各班長と役員で運営されており、解答しにくい。集落の基準が分かりづらい。

(アンケートに関する同意見 他 11 件)

●その他

- ・80歳前後の人たちは静かに見守ることが大切だと思う。
- ・男女適齢期での結婚がスムーズに行っていない。

- ・私が幼い頃は10軒あった家が、残り7軒で、住んでいる住人は2軒4名となり、村の衰退が顕著である。住めば都と部外者は言うが、住んでいる人は不便極まりない。
- ・3世代同居の家庭が今日までの日本の柱となり、国を支えてきたと思う。そういう家庭が寄り集まって地域が活性化し、祭りや行事も可能となったと思うし、農業も可能だったと思う。
- ・この地区は、中山間地域でもなく、また平地でもない中間的な地域のため、面積的にも小さく、圃場整備等でも補助が受けにくい地域となっている。
- ・農業が労働の適正な対価を得られる業種になるかが、根本のポイントだと思う。当地区では三世代家族では、現役の両親は企業では働き、祖父は田畑や地区役員を担い、祖母は家事を負担する。私見では、田畑の維持管理が負担になっている。祖父が、農作業が不可能なくらいに高齢になり、現役の父が仕事をしながら農業を担い、場合によっては地区役員もこなすのは大変ある。残念ながら、移住者がいても、地区役員はオススメできない。地区の共同作業や地区役員といった労務、義務は課せられる割に、自由な発言がしづらい雰囲気がある。田畑を守るという労務や行事がなければ、若い人が出て行かないかもしれないが、専業農家として、農業や田畑の管理のみで生計を立てていけるなら、会社員として働く必要もなく無理をしなくて済む。それが困難で中山間地域から人が出て行き衰退するのだと思う。
- ・私たちの地区は、井戸水が各所に出ており、住みやすいところだと思う。また、自家野菜を作っている人も多い。
- ・自治会長に聞かれても、村全体を把握していない。各団体が防災について考え、話し合うのはいいことだが、役員を兼任している人は、何回も同じ話を聞かされるので、横の連携をもっと行い、視点を変えるとか具体的な話し合いが必要だと思う。
- ・地区において、社会福祉、青年団、営農組合、森林組合等の団体が動いており、あまり困ったことはないと思う。
- ・周辺にはスーパー、コンビニ、ホームセンターなどがあり、住むには比較的便利なところである。世帯数は116だが、移住してきた世代ごとに5つのグループに分かれ、全体が1つになって行動するには強力なリーダーシップが必要であると思う。
- ・葬式は自宅でやらない。(2~3日作業で休む場合がある)